Nikon

フォトフィニッシングソフトウェア

Capture NX

使用説明書

ご注意

- この使用説明書の一部あるいは全部を無断で転載することは、固くお断りいたします。
- この使用説明書に記載されている内容は予告なしに変更されることがあります。
- この使用説明書の内容につきましては、万全を期して制作いたしましたが、万一お気付きの点がございましたら、ニコンカスタマーサポートセンターまでご連絡ください。また、使用説明書の誤りなどについての補償はご容赦ください。
- 仕様、性能は予告なく変更することがありますのでご了承ください。
- 本書を使用して操作した結果については、当社およびNik Softwareはいかなる責任も負いかねますので、ご了承ください。

⚠注 意
CD-ROMを音楽用CDプレーヤーで使用しないこと
機器に損傷を与えたり大きな音がして、聴力に悪影響を及ぼす場合があります

商標について

目次

はじめに

Capture NX™は、デジタルイメージングのプロフェッショナル向けの画像編集アプリケーションです。シンプルでわかりやすいユーザーインターフェースによって、画像編集が容易であるばかりでなく、U Point™画像編集テクノロジーに基づく独自の機能により、思い通りの画像編集が可能です。

Capture NXの革新的なU Pointテクノロジーは、数多くの新機能を提供していますが、その代表的なものは「コントロールポイント」で画像の階調や色の調整に利用します。このコントロールポイント機能を使用することにより、選択範囲やレイヤーを利用することなく、画像を直接処理することが可能です。さらに画像処理は画像全体でも、一部分でも適用することができ、編集効果が自然に見えるよう、より細かく画像を調整できます。コントロールポイント機能を利用することで、容易かつ迅速に画像処理を適用したり元に戻したりすることができます。

コントロールポイントとは、Capture NX独自の編集機能コンセプトで、画像の色や階調処理について従来と全く異なるコンセプトの操作方式を提供します。コントロールポイントは、直接画像上に置くもので、その値はユーザーが定義します。コントロールポイントは、それぞれ隣のコントロールポイントと一緒になって機能し、置かれるコントロールポイントの数が増えるほど、画像に反映される編集機能の効果がより大きくなります。コントロールポイントを選択して、色調整を行ったり、ホワイトポイント、ブラックポイント、ニュートラルポイントを調整します。

調整した画像は、NEF形式で保存することが可能です。NEF形式で保存すると、各種の画像処理（トーンカーブなど）は、画像そのものを書き換えるのではなく、画像処理情報として保存されます。したがって、何度も調整と保存を繰り返しても、元画像の画質を劣化させることなく、高品位を維持することができます。

RAW画像の利点

RAW画像撮影には、撮影と同時にファイルを処理して保存する方式に比べ、明らかに有利な点が数多くあります。RAW画像には、撮影時の情報が記録されています。Capture NXは、この情報を利用して、独自の調整を行い現像処理を行います。

撮影情報について

Capture NXは、ニコンデジタルカメラに対するサポート機能を備えているので、カメラ内で画像に適用した設定の多くは変更することができます。Capture NXで画像を開くと、撮影情報パレットに、撮影情報・カメラ情報などが表示されます。

ファイル	
ファイル:	DSC_0001.NEF
日付:	2003/11/25 13:44:35
画質モード:	圧縮RAW (12-bit)
画像サイズ:	L (3008 x 2000)
画像コメント:	
撮影情報	
モデル名:	Nikon D70
レンズ:	12-24 mm F/4 G
焦点距離:	24 mm
フォーカスモード:	AF-S
フォーカスエリアモード:	シングル
手ブレ補正:	
絞り値:	F/9
シャッタースピード:	1/320 秒
露出モード:	プログラムオート
露出補正:	0段
測光モード:	マルチパターン測光
撮像感度:	ISO 200
ホワイトバランス:	オート
長秒時ノイズ低減:	しない
画像真正性検証機能:	
仕上がり設定	
仕上がり設定:	標準
カラー設定:	モードⅠa (sRGB)
階調補正:	オート
色合い調整:	0°
彩度設定:	標準
輪郭強調:	オート
フラッシュ	
シンクロモード:	
発光モード:	
調光補正:	
GPS	

撮影情報パレットの内容を表示するには、撮影情報タブ上の + をクリックします。

撮影情報パレット内にあるさまざまな機能に関して詳しくは、39ページをご参照ください。

動作環境とインストール

動作環境

OS

Windows

- 32bit版のWindows Vista Home Basic/Home Premium/Business/Enterprise/Ultimate
- Windows XP Home Edition/Professional
- Windows 2000 Professional

（すべてプリインストールモデルのみ対応）

Macintosh

Mac OS X (version 10.3.9以降)

プロセッサー

Windows

Pentium Ⅲ 1GHz相当以上（Pentium 4 2GHz相当以上を推奨）

Macintosh

PowerPC G4、PowerPC G5、Intel Core Solo、Intel Core Duo、Intel Core 2 Duo、Intel Xeon

RAM

Windows

Windows Vista：512MB以上実装
Windows XP/2000：256MB以上実装
（すべて1GB以上実装を推奨）

Macintosh

256MB以上実装 (1GB以上実装を推奨)

ハードディスク容量

インストール時には200 MB必要。

モニター解像度

800 x 600 ピクセル（一部のダイアログで正しく表示されない場合があります。）(1024 x 768 以上を推奨) で16ビット色 (High Color) または24ビット色 (True Color) を推奨。

インストール

Windows

Capture NX CD-ROMをCD-ROMドライブに挿入するとセットアップウィザードが自動的に起動します。

セットアップウィザードが自動的に起動しない場合：［スタート］メニューから［マイコンピュータ］を選んで（Windows 2000の場合はデスクトップ上の［マイコンピュータ］アイコンをダブルクリックして）、マイコンピュータウィンドウを開き、その中のCapture NXセットアップアイコンをダブルクリックしてください。

ご注意：Windows を使用している場合、Microsoft.NET Frameworkをあらかじめインストールしておく必要があります。インストールされていない場合は、セットアップウィザードが.NET Framework の正しいバージョンがインストールされているかど

うかを自動的に判定し、正しいバージョンをインストールします。インストール後はパソコンを再起動する必要があります。

Macintosh
デスクトップ上のCapture NX CDアイコンをダブルクリックするとCapture NXフォルダが開きます。フォルダ内のCapture NXアイコンをダブルクリックすると設定ウィザードが起動します。

設定ウィザードがインストールを終了すると、カラーマネージメント設定ダイアログが表示されます。設定ウィザードに表示されるカラーマネージメント設定ダイアログでは、Capture NXの初期設定機能を設定することができ、これはインストール後には環境設定で変更することが可能です。

作業用色空間の設定では2つの項目から選択することが可能です。

作業用色空間としてファイルの色空間を使用する：Capture NXは常に画像に埋め込まれたプロファイルを作業用色空間として使用します。

ご注意：Capture NXが画像に埋め込まれたプロファイルを識別できない場合は、標準RGB色空間で設定されているプロファイルを作業用色空間として使用します。

標準RGB色空間を作業用色空間として使用する：Capture NX環境設定のカラーマネージメントセクション内の［**埋め込まれたプロファイルの代わりにこれを使用する**］を有効にします。このオプションでは、埋め込まれたプロファイルから標準RGB色空間で定義されたプロファイルにCapture NXが画像を自動的に変換します。

また標準RGB色空間としてのプロファイルを選択することができます。

標準RGB色空間： 画像で使用する標準RGB色空間を設定します。［**作業用色空間として常に標準RGB色空間を使用する**］が選択されている場合、あるいは［ファイルの色空間を使用する］が選択されていても画像の色空間が識別できない場合、このプロファイルが使用されます。

Capture NXで使用するカラーマネージメントの設定が終了すれば、インストールは完了です。

ご注意：Capture NX 起動時にプロダクトキーを入力する画面が表示された場合は、お名前、プロダクトキーを入力してください。

ケースに添付されているプロダクトキーは大切に保管してください。プロダクトキーを紛失された場合、再発行できません。このプロダクトキーは、本ソフトウェアをインストールする際に必要になります。また、将来新しいバージョンにアップグレードする際にも必要になります。

Capture NXと他のニコン製ソフトウェアとの同時使用について

ニコンキャプチャーの[エディタ]やPictureProjectの[編集]などの編集機能をCaprure NXと同時に使用することは、動作保証の対象外となります。

U Point™ テクノロジー

Capture NXの革新的な新機能は U Pointテクノロジーです。U Pointテクノロジーによって実現された操作により、他のアプリケーションのような時間がかかるマスク作成処理を行うことなく、画像の一部分を直接編集することが可能です。

U PointテクノロジーはCapture NX独自のコントロールポイントの基本となるものです。コントロールポイントには、カラーコントロールポイント、ブラックコントロールポイント、ホワイトコントロールポイント、ニュートラルコントロールポイント、赤目補正コントロールポイントがあります。このようなコントロールポイントを利用することで、選択範囲を最初に設定することなく、画像の色や階調を直接編集することができます。また、コントロールポイントの効果をその場で確認することができます。

U Pointテクノロジーによって実現されたコントロールポイントを使用することで、複雑な編集操作を決まった順序で行う必要がなく、画像を編集することが可能です。各コントロールポイントは、同じ種類の他のコントロールポイントと一緒に機能します。コントロールポイントを画像に加えれば加えるほど、それだけ画像の特定の部分をより細かく調整することができます。例えば、カラーコントロールポイントを多く加えればそれだけ、より多くの画像の色をより自由に調整することができます。コントロールポイントを追加することで、確実に対象としている部分にのみ調整が反映されるようにし、さらに、初期設定のコントロールポイントをある部分に置くことにより、他のコントロールポイントの調整がその部分に反映されないようにします。

ブラックコントロールポイント、ホワイトコントロールポイント、ニュートラルコントロールポイントは、画像全体を編集するよう設計されていますが、赤目補正コントロールポイントおよびカラーコントロールポイントは、ある部分だけを調整するよう考案されています。

カラーコントロールポイントは、複数の基準に基づき、ある色を指定することによって機能します。最初のカラーコントロールポイントが設定されると、U Pointテクノロジーは、位置、色、彩度などを含め、そのコントロールポイントが置かれた個所の色の要素を特定します。このような構成要素を識別することにより、カラーコントロールポイントは、その色および類似の構成要素を持つ色以外には調整効果が反映されないよう、色の境界を決定することができます。カラーコントロールポイントの効果は、画像全体に適用されるので、違和感のない自然な表現が可能になります。次のページでは、コントロールポイント設定手順に沿った、元画像、コントロールポイントの効果、コントロールポイントの選択機能をご紹介します。

ステップ1．ツールバーからカラーコントロールポイントを選択し、空の部分に配置します。空の青を少し暗くし、彩度を高くするために、明るさを調整する「B」のスライダーを左に、彩度を調整する「S」のスライダーを右にドラッグします（このカラーコントロールポイントは空の色と明るさを調整しますが、隣接する雲にも影響が現れます。この影響はステップ2で雲の部分にカラーコントロールポイントを置くことでなくなります）。

ステップ1．選択されている範囲

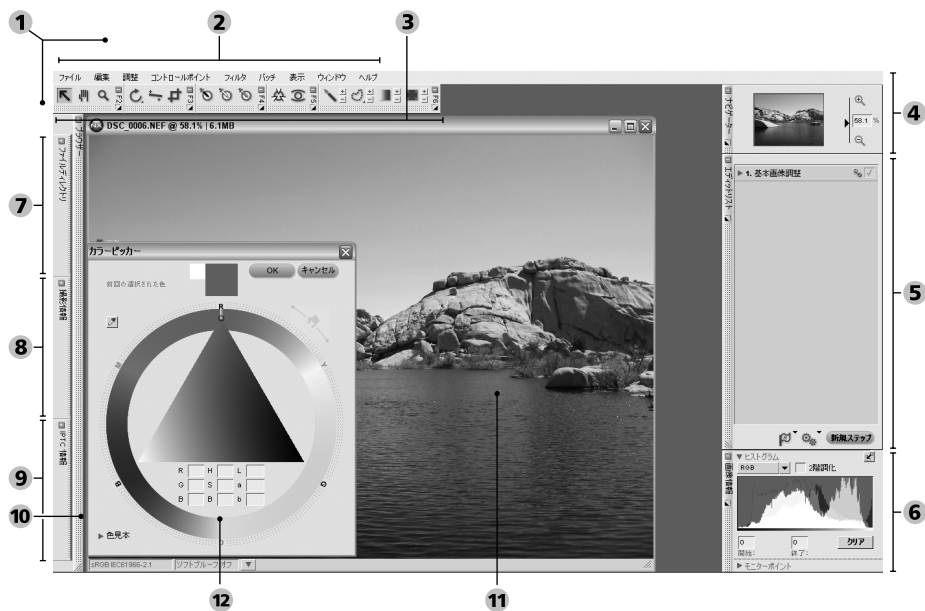
ステップ2．次に、雲の部分にカラーコントロールポイントを配置します。明るさを調整する「B」のスライダーを右にドラッグして雲の色を明るくします。このカラーコントロールポイントは雲の明るさだけに影響し、空の明るさには影響しません。また、空に配置したカラーコントロールポイントは、この時点で雲の部分には影響しなくなります。

ステップ2．選択されている範囲

ステップ3．最後にカラーコントロールポイントを肌の部分と葉の緑の部分に配置します。モデルの顔に配置したカラーコントロールポイントの「C」と「S」のスライダーを右にドラッグします。葉の緑の部分は「B」と「S」のスライダーを左にドラッグします。これで、全体的に人物が引き立ち、コントラストとメリハリの効いた画像に仕上がります。

ステップ3．選択されている範囲

調整前

調整後

Capture NXユーザーインターフェース

❶ アプリケーションウィンドウ (13ページ) ❷ メニューバー (119 ～ 214ページ)

❸ ツールバー (77～100ページ) ❹ ナビゲーター (103ページ) ❺ エディットリスト (43ページ)

❻ 画像情報 (105ページ) ❼ ファイルディレクトリ (37ページ) ❽ 撮影情報 (39ページ)

❾ IPTC情報 (41ページ) ❿ ブラウザー (29ページ) ⓫ イメージウィンドウ (111ページ)

⓬ カラーピッカー (115ページ)

Capture NX
ユーザーインターフェース

Capture NXのユーザーインターフェースは、デジタル画像処理に欠かせない重要なツールがワンタッチで使用できるよう設計されています。この章では、Capture NXユーザーインターフェースを構成している主な要素について簡単に説明します。

1 アプリケーションウィンドウ

Capture NXのメインウィンドウであるアプリケーションウィンドウは、イメージウィンドウを利用して、画像ファイルを開き、さまざまなコントロールパレットを用いて編集作業を行い保存します。

2 メニューバー

メニューバーから、Capture NXのほぼ全機能にアクセスすることが可能です。

各メニューの機能については、第20～28章を参照してください。

3 ツールバー

ツールバーは、さらに小さな5つのツールバーから構成されており、それぞれが類似のコントロール機能を提供します。これらのツールを用いて、画像のズームや回転、選択範囲への画像処理の適用など、さまざまな編集作業を行うことができます。

各ツールバーについての詳しい説明は、77～100ページをご覧ください。

4 ナビゲーター

ナビゲーターパレットは、イメージウィンドウで表示される画像の一部分、あるいはブラウザーのライトテーブルモードで表示されている範囲を表示します。イメージウィンドウあるいはブラウザーで表示される画像の部分は、ナビゲーターパレット内に赤い枠で表示されます。

ナビゲーターパレットに関して詳しくは、103ページをご覧ください。

5 エディットリスト

エディットリストには、画像調整を行った項目が表示されます。リスト内の各項目は、削除・変更・複製することができます。

エディットリストは、基本画像調整を除き、各項目が使用した順番で表示されます。これにより、画像処理ステップを単一でも複数でも有効・無効の切り換えを行い、画像処理ステップが画像に与える効果をいつでもチェックすることが可能になります。

ツールバー内の選択ツールを使用して、画像処理ステップを選択して適用することもできますし、画像処理を画像処理ステップに結びつけることで、1つの画像処理ステップに複数の画像処理を配置することも、画像処理ステップの内容に基づいてバッチ処理を作成することもできます。さらに新規ステップボタンを用いて、新しい画像処理ステップを作成することもできます。

また、エディットリストには、基本画像調整と呼ばれる特別なステップが含まれています。基本画像調整ステップには、RAW画像に特有の画像処理全てと、画像編集の準備に利用される処理が含まれています。 エディットリストとその利用方法・機能について詳しくは、43ページを参照してください。

6 画像情報

画像情報パレットには、リアルタイムで表示されるヒストグラムが含まれています。さらに、モニターポイントを使用することで、画像の調整による効果をその場で見ることができます。 画像情報パレットについて詳しくは、105ページを参照してください。

7 ファイルディレクトリ

ファイルディレクトリパレットは、フォルダ全体の内容を表示させることができます。 ファイルディレクトリパレットについての詳しい説明は、37ページを参照してください。

8 撮影情報

撮影情報パレットを開くと、撮影したカメラの情報から露出情報まで、カメラが生成した、現在の画像に関するデータをすべて表示することができます。 撮影情報パレットについての詳しい説明は、39ページを参照してください。

9 IPTC情報

IPTC情報パレットでは、キャプション、キーワード、カテゴリー、著作権情報などの画像情報を表示、追加、変更することができます。 IPTC情報パレットに関して詳しくは、41ページを参照してください。

10 ブラウザー

Capture NXのブラウザーは、複数の画像を表示・ソート・整理できるだけでなく、複数画像に対し同時に回転・バッチ処理などの編集作業を行うことができます。ブラウザーの画像をイメージウィンドウで開くと、さらに細かく調整することができます。 ブラウザーに関して詳しくは、29ページを参照してください。

11 イメージウィンドウ

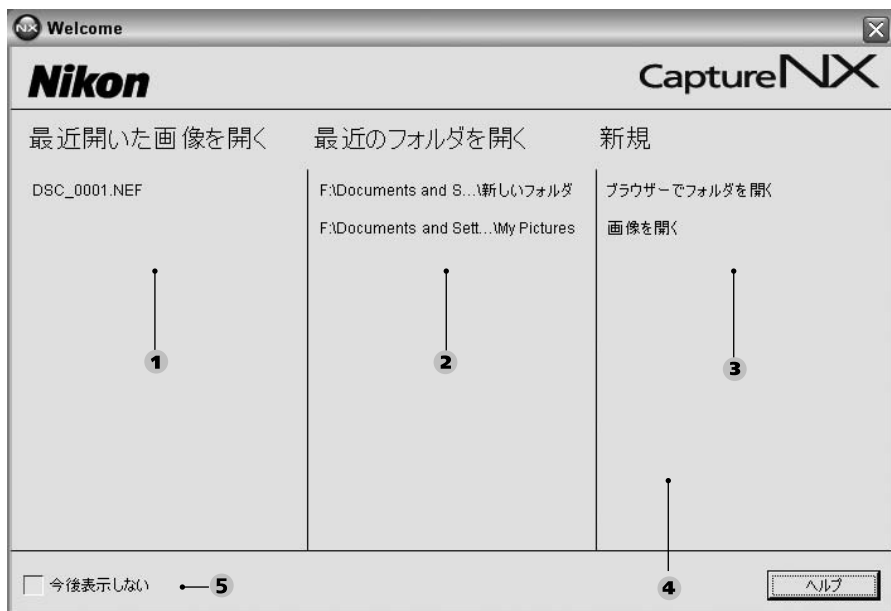
イメージウィンドウは、画像の重要情報および編集機能と共に、Capture NX上で画像を表示します。 イメージウィンドウの特色と機能について詳しくは、111ページを参照してください。

⑫ カラーピッカー

カラーピッカーは、多くの画像処理に使用でき、RGB、HSB、Lab色空間内であらゆる色を選択できる機能があります。さらに、色見本と記憶色を使用して、あらかじめ用意された色から選択することができます。 カラーピッカーに関して詳しくは、115ページを参照してください。

基本操作

Capture NXを開く

Capture NXを開くには、スタートメニューからCapture NXを選択するか(Windows)、アプリケーションフォルダのアプリケーションアイコンをダブルクリック (Mac OS) します。

「Welcome」画面

1 最近開いた画像を開く　2 最近のフォルダを開く　3 新規

4 画像をここにドラッグして開く (Mac OS のみ)　5 今後表示しない

Windows OS

デスクトップ上のCapture NXアイコンをダブルクリックするか、デスクトップ画面の下にある[スタート]ボタンをクリックして、[すべてのプログラム](Windows XP)または[プログラム](Windows 2000)を選択します。Capture NXフォルダにマウスポインターを合わせ展開されるサブメニューからCapture NXをクリックして起動します。

Mac OS

デスクトップ上のMacintosh HDアイコンをクリックして、[アプリケーション]フォルダを表示します。Capture NXフォルダをダブルクリックし、次にCapture NXアプリケーションアイコンをダブルクリックして起動します。また、Capture NXをDockに追加してある場合は、Dock内のCapture NXアイコンをクリックするだけで起動します。

「Welcome」画面

Capture NXを起動すると、「Welcome」画面が表示されますが、この画面には、最近アクセスしたファイルとフォルダが一覧表示され、ここからブラウザー上で画像またはフォルダを開くことができます。

1 最近開いた画像を開く

Capture NXで最近開かれた画像が一覧表示されます。画像は、最後に編集されたものがリストの一番上に来るよう、新しい順に表示されます。どれかをダブルクリックすると、イメージウィンドウ内で画像が開きます。

2 最近のフォルダを開く

ブラウザーで最近参照されたフォルダが一覧表示されます。フォルダは、最後に参照されたものがリストの一番上に来るよう、新しい順に表示されます。どれかをダブルクリックすると、ブラウザー内でフォルダが開きます。

3 新規

Capture NXで開く画像やフォルダを参照することができます。[画像を開く]ボタンをクリックして、[画像を開く]ウィンドウを表示します。ブラウザーの[フォルダを開く]ボタンをクリックしてフォルダ参照ウィンドウを開き、これを利用して、Capture NXのブラウザー内に表示するフォルダを選択します。

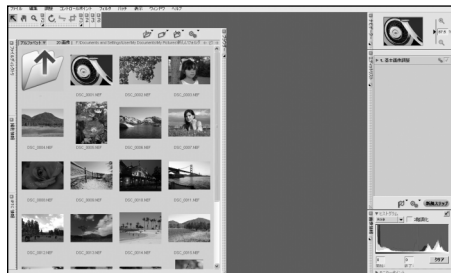
4 画像をここにドラッグ(Mac OSのみ)

Mac OSには、「画像をここにドラッグして開く」と表示された空白エリアがあります。画像をMac OS Finderからこの空白エリアにドラッグすると、Capture NX上で画像が開きます。Windows OSでは、Capture NXのウィンドウのどこに画像をドラッグしても開くことができます。

5 今後表示しない

このチェックボックスをチェックすると、Capture NXの起動時に「Welcome」画面が表示されません。Capture NXの起動時に「Welcome」画面が表示されるように設定を変更するには、ヘルプメニューの[「Welcome」画面を表示]を選んで、「Welcome」画面を表示させ、[今後表示しない]ボックスのチェックを外します。

画像を参照して開く

Capture NXには、画像処理を行うために、Capture NXのブラウザーを使用する、[ファイルを開く] からハードディスク内のファイルを選択するなど、画像を指定して開く方法が数多くあります。

■ ブラウザーを使用する

Capture NXは、ラベル付け、ソート、編集など高度な機能を提供する、機能強化されたブラウザーを備えています。ブラウザーを使用して複数のサムネイルに回転・バッチ処理などの高度な画像処理を直接適用することも、複数のサムネイル画像から最適の画像を選択して、Capture NXのイメージウィンドウ上で直接開くこともできます。

ブラウザーを表示するには、[ブラウザー] の上にある ＋ ボタンをクリックします。ブラウザーは初期設定で、[マイピクチャ] フォルダ (Windows) または [ピクチャ] フォルダ (Mac OS) を表示します。

ブラウザー内に表示されたフォルダをどれかダブルクリックして、このフォルダの内容を表示させることができます。編集したい画像を見つけたら、その画像をダブルクリックします。

[マイピクチャ] フォルダ (Windows) または [ピクチャ] フォルダ (Mac OS) 以外のウィンドウに移動する場合は、[ファイルディレクトリ] フレーム内の ＋ ボタンをクリックします。これにより、ファイルディレクトリパレットが表示されます。ファイルディレクトリパレットには、ハードディスク上のすべてのディレクトリリストが表示されます。

■ [画像を開く] を使用する

[画像を開く] をファイルメニューから選択すると、ハードディスク上の任意のフォルダから、1枚の画像を開くことができます。Capture NXは初期設定で、[マイピクチャ] フォルダ (Windows) または [ピクチャ] フォルダ (Mac OS) を表示します。

Capture NX内のウィンドウ機能

Capture NX内のそれぞれのウィンドウは、そのウィンドウにおける編集機能を提供します。

■ [最小化/最大化] ボタン

このボタンで、ウィンドウを最大化/最小化します。場合によっては、ウィンドウ内の操作が完了するまで、ウィンドウを最小化できない場合があります。

■ ドッキングボタン

このボタンは、ウィンドウが開かれている時のみ表示されます。このボタンを使用すると、ウィンドウを固定位置から切り離してデスクトップ上で自由に動かすことができます。2つのモニターを使用していて、ウィンドウを2番目のモニターに表示させたい場合や、ツールバーの1つを画像の近くに持っていきたいときに、便利な機能です。このボタンを再度クリックすると、ウィンドウを初期設定の場所に再びドッキングできます。

■ グリップエッジ

このグリップエッジをマウスでドラッグすると、ウィンドウを別の位置に移動させることができます。ドッキングするには、 ボタンをクリックします。

■ サイズ変更コントロール

ウィンドウのこの部分を用いて、ウィンドウのサイズを必要に応じて変更することができます。ここをドラッグして、ウィンドウのサイズを変更します。ウィンドウによっては、最大/最小サイズがあり、そのサイズより大きく/小さくすることはできません。

Capture NXを終了する

ウィンドウを閉じてCapture NXを終了するには、ファイルメニューから［終了］を選択するか (Windows)、またはCapture NXメニューから［終了］を選択 (Mac OS) します。

保存されていない画像があれば、保存するよう注意を促す警告メッセージが表示されます。バッチ処理待ち中の画像があれば、待機リストに未処理の画像があることを知らせるメッセージが表示されます。

ファイル形式の違い

Capture NXでは、編集された画像保存の形式として、NEF形式、TIFF形式、JPEG形式の3つの異なるファイル形式をサポートしています。

NEF形式

NEF（ニコン専用フォーマット）には、元画像の完全な画像情報とともにエディットリスト内の画像処理内容がすべて保存されますが、元画像に対して行われた処理は全てファイル内で別項目として保存されます。NEF形式は、画質低下を招かずに元画像の高画質を維持しつつ、しかも画像サイズを比較的小さなままに保ちます。NEF形式では、画像に適用された処理の数に関わらず、元画像ファイルとほぼ同じファイルサイズのままです。

Capture NXでは、NEF形式の画像に関する新規のキャッシュシステムが採用され、Capture NXで編集されたことのあるNEF形式の画像を開くスピードが向上しています。このキャッシュシステムでは、NEF形式の画像を保存する際、常にキャッシュファイルが作成されますが、このキャッシュファイルをCapture NXは次回その画像を開く際に利用します。キャッシュシステムを利用し、処理するデータ量を低減させるためにキャッシュファイルデータを活用するので、そのためNEF形式の画像を開く時間が大きく短縮されます。キャッシュシステムに関して詳しくは、139ページを参照してください。

メモ：Nikon CaptureおよびPictureProjectでは、NEF形式のCapture NX独自の画像処理を表示することができません。Capture NXのユーザー以外の方々とNEF形式を共有する場合、適用した画像処理がすべて確実に利用できるよう、TIFFまたはJPEG形式で、画像のコピーを保存することをお勧めします。

RAW画像は、ニコンのデジタル一眼レフカメラに対応しています。また、クールピクスの一部の機種でも対応しています。デジタル一眼レフカメラの一部の機種では、RAW画像の非圧縮形式を選択できます。これらの非圧縮RAW画像については、ハードディスク容量を節約するために、Capture NX上で圧縮することを選択することもできます。

メモ：圧縮されたRAW画像は、Capture NX上で、非圧縮RAW画像ファイルとして保存することはできません。

■ RAW画像サポート

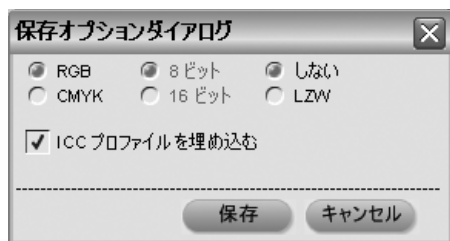
Capture NXは、RAW画像作成可能なニコンデジタルカメラ全機種のRAW画像をサポートしています。

サポートされているカメラ：

クールピクス 5000	D1	D40
クールピクス 5400	D1X	D40x
クールピクス 5700	D1H	D50
クールピクス 8400	D2X	D70
クールピクス 8700	D2Xs	D70s
クールピクス 8800	D2H	D80
	D2Hs	D100
	D3	D200
		D300

対応デジタルカメラのサポート状況などの最新情報は下記アドレスのホームページ上でご案内しています。
http://www.nikon-image.com/jpn/support/index.htm

TIFF形式

TIFF形式は通常、高画質画像の標準として使用されています。画像をこの形式で保存すると、モニター上に表示されるとおりの画像の状態を含め、最高画質のファイルが作成されます。画像をTIFF形式で保存して閉じると、調整した画像処理を再調整することはできません。

TIFF形式では、可逆圧縮を使用して画像を圧縮する方法、16ビット画像または8ビット画像（RGBのみ）としてファイルを保存する方法、RGBまたはCMYKデータとして保存する方法を選択することができます。画像を16ビットファイルとして保存する方法は、元画像がRAWまたは16ビットファイルの場合にのみ利用可能です。16ビットから8ビットへ画像を変換すると、画像ファイルのサイズは小さくなりますが、画質が低下する可能性があります。8ビットファイルしか互換性のない状況に備えて、画像の8ビット・コピーを作成することをお勧めします。

ご注意： CMYKデータとして保存された TIFF ファイルは、1チャンネルあたり8ビットのカラー情報しか保存できません。

JPEG形式

最も広く使われているファイル形式のひとつであるJPEG形式を使用すると、同じハードディスク容量でも他のファイル形式より多くの画像を保存することができます。このような小さなファイルを作成するために、非可逆性圧縮方式が使用されるので、画質に影響します。この圧縮方式のため、JPEG形式を使用する場合は、メールで送信する画像や小さな画像ファイルが必要とされる場合に使用することをおすすめします。

画像をJPEG形式で保存して閉じると、調整した画像処理を再調整することはできません。

印刷方法

Capture NXで印刷するには、ファイルメニューから［印刷］を選択します。ブラウザー内で複数の画像を選択すると、レイアウト印刷が可能です。レイアウト印刷は基本的に、同時に印刷される画像の集まりであり、通常複数の画像が同一ページ上に印刷されます。レイアウト印刷では、プリンターおよび用紙を経済的に使用して出力できるので、画像をチェックしたり選択するために画像を一覧表示で印刷することができます。

ファイルメニューから［印刷］を選択したら、印刷のカラーマネージメント方法と、レイアウト印刷を作成するかどうかを指定できます。 Capture NXの［印刷］ダイアログボックス内のさまざまな設定の詳しい説明については、123ページを参照してください。

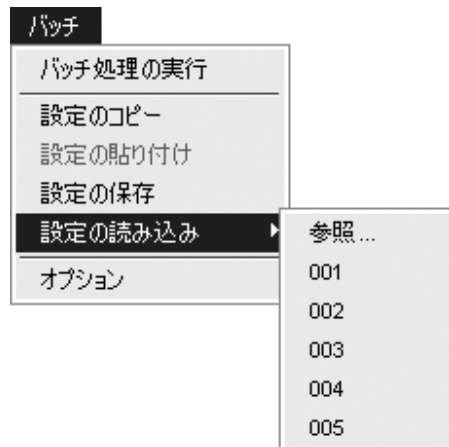
バッチ処理

バッチ処理は、あらかじめ設定した画像調整内容を複数の画像に一度に適用します。Capture NXは、多くのバッチ処理方式をサポートしています。調整する画像のフォルダを選択し、画像に適用する設定ファイルを選択する方法や、ある画像の画像処理を別の画像にコピーし、貼り付ける方法、Capture NXのブラウザーで複数の画像を選択し、設定ファイルを適用する、あるいはそれらの画像に画像処理を直接貼り付ける方法があります。

設定ファイルを作成する

設定ファイルは、Capture NXが画像処理で使用する一連の操作で構成されます。設定ファイルは、現在の画像から保存したい画像処理を指定することで作成されます。作成された設定ファイルを用いると、Capture NXでは、同じ画像処理を再度設定することなく、画像に適用することが可能です。

設定ファイルを作成するには、画像を開いて画像調整を行い、バッチメニューから［設定の保存］を選択します。現在の画像のエディットリストの内容を含む［設定の保存］ダイアログが、画像設定とともに表示されます。設定ファイルに保存したい画像処理ステップのチェックボックスをオンにします。他の画像に適用する画像処理と画像処理ステップをすべて選択し、設定ファイルの名前を入力します。バッチ処理を実行する際見つけるのが簡単なので、設定ファイルフォルダの初期設定場所を変更しないことを推奨しますが、別の場所に保存することも可能です。［設定の保存］について詳しくは、188ページを参照してください。

設定ファイルを使用してバッチ処理を実行する方法

設定ファイルが作成されていれば、イメージウィンドウ上あるいはブラウザー上の画像、またはコンピューター上のフォルダ全体に対し設定ファイルの画像処理を実行することができます。

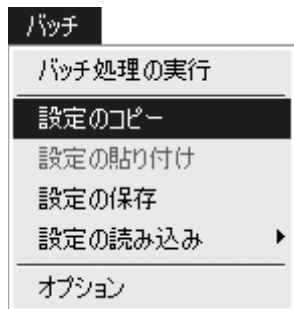
バッチ処理をイメージウィンドウまたはブラウザーで実行するには、バッチメニューの［設定の読み込み］から適用したい設定ファイルの場所を選択します。設定ファイルを選択することにより、その内容を、イメージウィンドウ上の現在の画像またはブラウザー上で選択されている画像に適用されます。

ブラウザー上の複数の画像に設定ファイルを適用する場合は、［待機リスト］ウィンドウが表示され、バッチ処理を開始することができます。初期設定で画像の処理を開始するには、［開始］ボタンをクリックします。初期設定では、バッチ処理を行うと、画像は NEF 形式で元画像と同じ名前で同じフォルダに保存されます。

待機リスト内では、別のファイル形式、保存先フォルダ名、ファイル名を選ぶ選択肢が提供されます。 待機リストについて詳しくは、190ページを参照してください。

設定ファイルをコピーして貼り付けることでバッチ処理を実行する方法

一連の画像処理を多数の画像に適用する場合、設定ファイルは非常に便利ですが、一連の画像処理を少数の画像に適用したい場合は別の方法も可能です。まず画像をひとつ処理することで、設定ファイルを作成することなく、その画像処理を複数の画像に貼り付けることができます。

バッチ
バッチ処理の実行
設定のコピー
設定の貼り付け
設定の保存
設定の読み込み
オプション

設定ファイルをコピーして貼り付けるには、画像を開いて、画像処理を行い、バッチメニューの[設定のコピー］を選択します。初期設定では、調整した画像に適用した設定をすべてコピーします。特定の画像処理だけをコピーしたい場合、［設定のコピー］を選択する前に、エディットリスト内でその画像処理をクリックします。複数の画像処理ステップを選択するには、Ctrl（Windows）キーまたは[Command]（Mac OS）キーを押したまま、エディットリストから画像処理ステップを選択します。これにより、複数の画像処理ステップが選択されますので、次に［設定のコピー］を選んでコピーします。

必要な設定をコピーした後、画像処理を適用する画像を指定します。イメージウィンドウ上で開いている別の画像をひとつ選択するか、またはブラウザー上から画像（複数可）を選択することができます。バッチメニューから[設定の貼り付け］を選択します。これによって、選択してコピーした画像処理が全て、対象画像に適用されます。なお、画像処理はすべて、画像に適用された時と同じ順序で適用されますが、対象画像内にすでに存在する全画像処理の後に適用されます。

ブラウザー内でバッチ処理を実行する方法

イメージウィンドウでバッチ処理を適用する方法やバッチ処理機能を利用する方法に加え、Capture NXでは、ブラウザーで直接バッチ処理を適用することも可能です。

まず、任意の数の画像をブラウザーから選択します。次に、[バッチ] メニュー内の [設定の読み込み] メニューを参照して画像に適用する設定ファイルを選択します。[バッチ] メニューから適用する設定ファイルを選択すると [待機リスト] ウィンドウが表示されますので、いつでもバッチ処理を開始することができます。[待機リスト] 内の [開始] ボタンを押すと、Capture NXは標準保存設定を使用して画像をそれぞれ処理します。画像はNEF形式で、同じ名前、同じフォルダに保存されます。これらの設定を変更する場合は、[待機リスト] 内の ▶ ボタンをクリックして、[待機リスト] 内の設定機能を全て表示します。

待機リスト内では、別のファイル形式、別の保存先フォルダ、別のファイル名を選ぶ選択肢が提供されます。待機リストについて詳しくは、190ページを参照してください。

ブラウザー

Capture NXには、複数画像を表示・ソート・整理することができるだけでなく、複数画像に対し同時に回転・バッチ処理などの編集作業を行うことができる非常に強力なブラウザーが搭載されています。

ブラウザー

1 フォルダ表示ツールバー (30ページ) **2** フォルダメニュー (31ページ) **3** ラベルメニュー (32ページ) **4** ソートメニュー (33ページ) **5** バッチメニュー (34ページ)

ブラウザーには、次のいずれかの方法でアクセスできます。

1. ドッキングされている [ブラウザー] バーの ＋ ボタンをクリックします。

2. ファイルメニューから [ブラウザーでフォルダを開く] を選択します。

ブラウザーが開いたら、フォルダアイコンをダブルクリックする、ファイルディレクトリパレットを使用する、ブラウザーのフォルダメニューの [開く] を使用するなどの方法で別のフォルダに移動します。ファイルディレクトリ機能について詳しくは、37ページを参照してください。

選択ツールを使用してブラウザー内の画像を選択して移動したり、手のひらツールを使用して、ブラウザー画面をスクロールします。ズームツールを使用すると、サムネイルのサイズが拡大・縮小されます。さらに、ズームツールが選択されている時に、画像上でマウスを移動させ1秒以上サムネイル上に置くと、拡大された画像が表示されます。

ブラウザー内では、表示されている現在のウィンドウの場所を変更すると共に、

ブラウザー専用に設計されたコントロール機能を含む次の4つのメニューを表示させることができます。

4つのメニューの下には、フォルダ表示ツールバーがあります。

前のフォルダへ

このボタンをクリックすると、ブラウザー内で最後に開いたフォルダに移動します。

フォルダを開く

このボタンは、これまでに表示されたフォルダを一覧表示します。リストからフォルダをどれか選択すると、そのフォルダが表示されます。

次のフォルダへ

このボタンをクリックすると、[前のフォルダへ] ボタンを使用する前に最後に表示されたフォルダが表示されます。[前のフォルダへ] ボタンを使用するまで、このボタンは無効です。

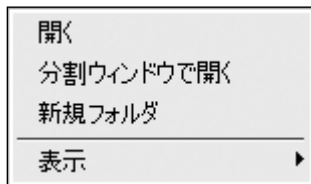
逆順ソートボタン

このボタンをクリックすると、ブラウザー内に表示される画像の順番が逆になります。アルファベット順、日付順、ラベル毎など、どのソート方法を指定した場合でも、いつでもソート順を逆にすることができます。

ヒント：右クリック（Windows）またはControlを押してクリック（Mac OS）することにより、追加の画像コントロール機能が表示されます。ブラウザー内の画像上でこのメニューを開くと、次の操作を行うことができます。

- 画像（複数可）を開きます。
- ブラウザーまたはイメージウィンドウ内で画像を比較します。画像の比較について詳しくは、205ページを参照してください。

- 画像にラベルを付けます。 画像のラベル付けについて詳しくは、32ページを参照してください。
- バッチ処理と同じ名称変更方法を使用して、画像の名前を変更します。 画像の名称変更について詳しくは、191ページを参照してください。
- バッチ処理で利用する設定をコピー・貼り付け・読込みます。 バッチ処理について詳しくは、187ページを参照してください。

フォルダメニュー

フォルダメニューには、現在のフォルダの表示に関連するメニューがあります。

開く

フォルダの参照ダイアログを開き、そこからブラウザー上に表示されるフォルダを選択することができます。

分割ウィンドウで開く

この選択肢を用いてフォルダの参照ダイアログを開き、現在のフォルダの横に表示される別のブラウザーウィンドウ上に表示するフォルダを選択することができます。2つのフォルダを開くことにより、ひとつの場所から別の場所にすばやく画像を整理することができます。

新規フォルダ

この選択肢は、ブラウザーウィンドウ上に表示されている現在のフォルダ内に新規フォルダを作成します。

表示

表示サブメニューを使用することで、現在のフォルダの内容を別の方法で表示させることができます。

■ 行

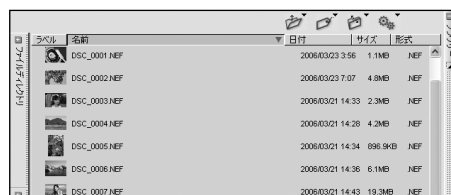
行表示は、ブラウザーの初期設定の表示です。この表示を選択すると画像は行形式で表示され、ブラウザーのサイズを変更するたびに画像は再ソートされます。

ショートカットキー：
Alt + 1 (Windows)
Option + 1 (Mac OS)

■ ライトテーブル

ライトテーブル表示は、ライトテーブル上に並べられたように画像を表示します。ブラウザーのサイズを変更しても画像は再ソートされません。ライトテーブル表示では、水平方向にも垂直方向にも画面をスクロールすることができます。この表示ではナビゲーターパレットにアクセスでき、ライトテーブル上に表示されている画像の現在の位置を表示します。

ショートカットキー：
Alt + 2 (Windows)
Option + 2 (Mac OS)

■ 詳細表示

詳細表示は、画像の重要情報を列として表示し、各列別にソートすることができます。

ショートカットキー：
Alt + 3 (Windows)
Option + 3 (Mac OS)

ラベルメニュー

ブラウザー内のラベルメニューには、画像をソートする際に重要になるラベルを画像などに加えるためのツールが含まれています。

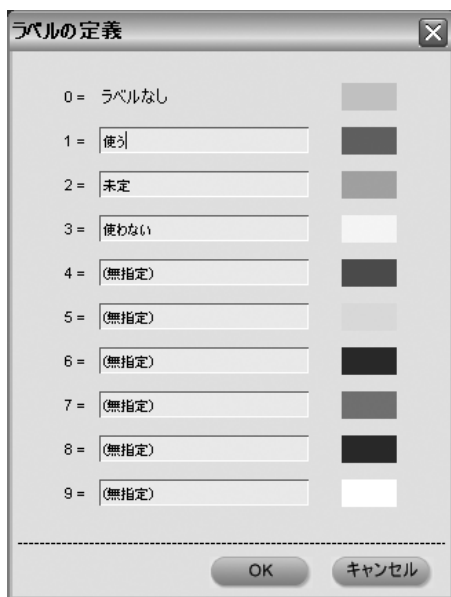
利用可能なラベル

Capture NXのラベルメニュー内には、初期設定で［ラベルなし］、［使う］、［使わない］、［未定］の４つのラベルがあります。［ラベルなし］に加え、最高９つのラベルをカスタム作成することができます。各ラベルには、あらかじめ設定する番号があり、この番号がラベルの色、ショートカット、アイコンを示します。ショートカットは基本的にラベルの番号です。例えば、［ラベルなし］のショートカットが“0”に設定してあれば、そのラベルを取り除くには、ラベルが付いた画像を選択してキーボードから“0”を入力します。

ラベル名のカスタム化

ラベルの定義

0＝ ラベルなし
1＝ 使う
2＝ 未定
3＝ 使わない
4＝ (無指定)
5＝ (無指定)
6＝ (無指定)
7＝ (無指定)
8＝ (無指定)
9＝ (無指定)

OK キャンセル

［ラベル名のカスタム化］を選択すると、［ラベル名のカスタム化］ダイアログが開きます。このダイアログでは、カスタム化したラベルを９つまで指定することができます。あるラベルを使用しない場合は、関連するボックス内のテキストを削除すると、ラベルメニューからそのラベルが削除されます。

ソートメニュー

アルファベット
日付
ラベルによるソート

ブラウザー内のソートメニューを使用することで、ブラウザー上での画像の並び方を変更することができます。

アルファベット

このソート方法を使用すると、ファイル名に基づいてアルファベット順に画像を並べることができます。

日付

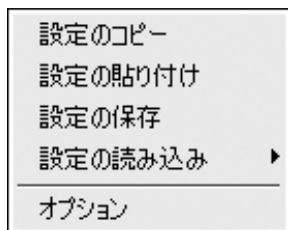
このソート方法を使用すると、画像が作成された日付に基づいて画像を並べることができます。

ラベルによるソート

このサブメニューには現行の使用可能なラベルが含まれており、ラベルをひとつ選択することで、そのラベルがついた画像のみを表示できます。このメニュー内のどの選択肢を選択しても、表示が［ラベルによるソート］表示に切り替わり、ラベル名の横に［表示/非表示］三角形がついた状態で、利用可能なラベルが全て表示されます。▶ボタンをクリックすると、ラベルエリアが展開し、そのラベル

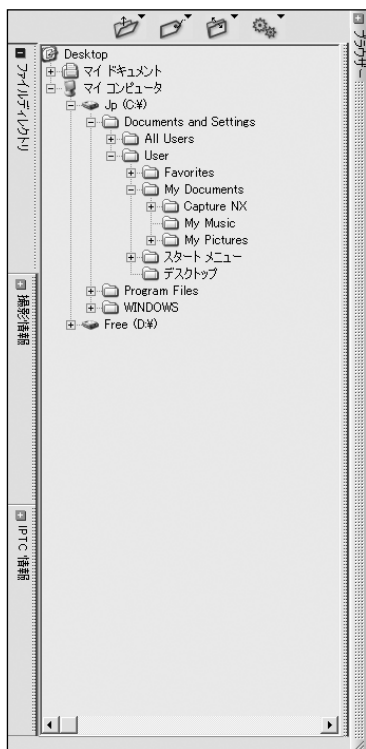
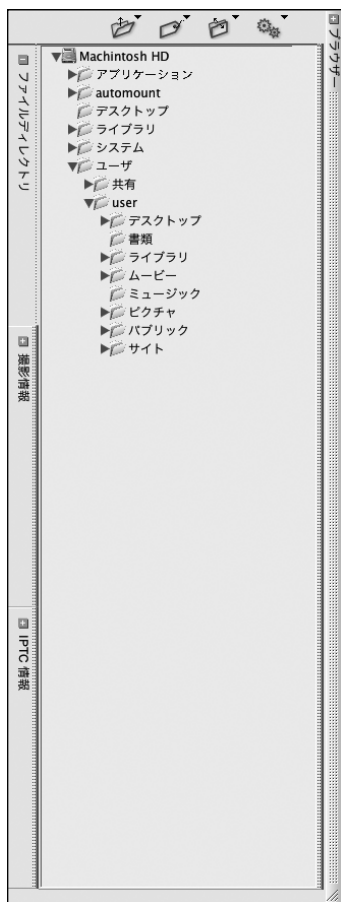
が付いた画像がすべて表示されます。標準表示に戻すには、アルファベット順、日付順など別のソート方法をどれか選択します。

バッチメニュー

設定のコピー
設定の貼り付け
設定の保存
設定の読み込み
オプション

ブラウザー内の［バッチ］メニューからバッチ処理を行うことができます。

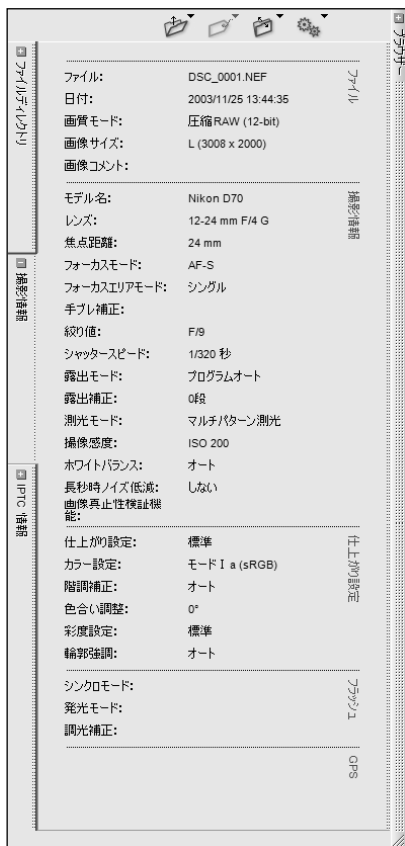
Capture NXのバッチ処理機能について詳しくは、187ページを参照してください。

ファイルディレクトリ

ファイルディレクトリは、OSと同様の方法で、Capture NXウィンドウ内にパソコンのフォルダ構造を表示します。ブラウザーを開いた状態でファイルディレクトリ内のフォルダを選択すると、ブラウザー上でフォルダ内の画像を表示することができます。

Windows OS

Mac OS

撮影情報

撮影情報パレットには、カメラ名、撮影日時、露出など、選択した画像に関連する情報が全て表示されます。

ブラウザーで作業を行う場合、撮影情報パレットに選択されている画像の情報を表示させることができます。

IPTC情報

IPTC情報パレットには、画像の著作権情報や使用条件を示すために用いることができる、標準のテキストフィールドの一覧が含まれています。この基準を作成した国際新聞電気通信評議会 (IPTC) にちなんで名付けられたIPTC情報パレットの内容は、写真をさまざまな出版物で共有する場合に必要な情報を簡易化し、明確化するために考案されています。

これらの欄を利用し、画像にキャプション、キーワード、カテゴリー、クレジット、作成元などの重要情報を加えることができます。

ブラウザーやイメージウィンドウで、画像のさまざまなIPTC情報の内容を表示させ変更することができます。ブラウザー上で操作を行う場合、複数の画像を選択して、それらの画像のIPTC情報を直接変更することもできます。

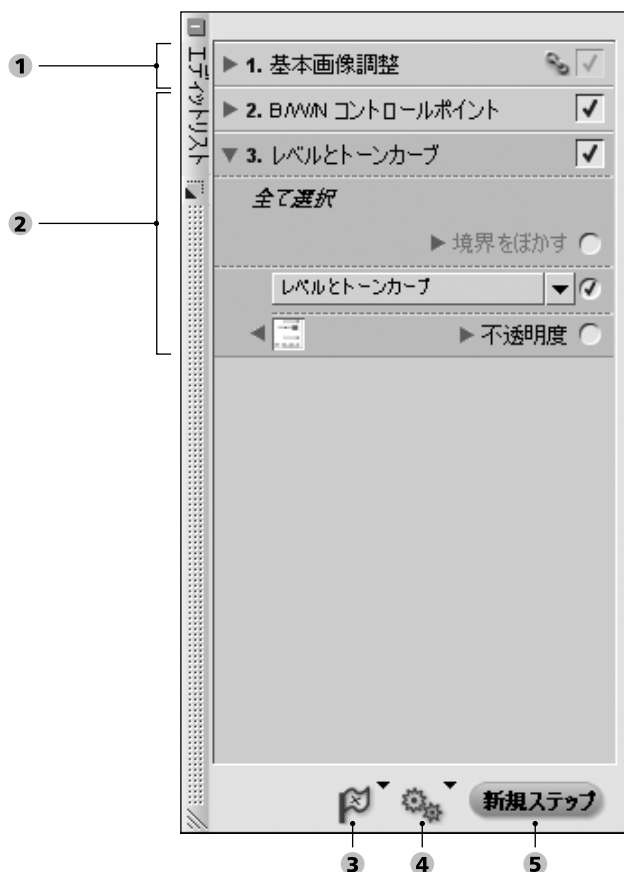
IPTC情報の追加または編集が完了したら、[適用] をクリックします。

バッチメニュー

IPTC情報内の [バッチ] メニューからバッチ処理を行うことができます。IPTC情報の [バッチ] メニューから [設定の保存] を選択すると、現在の画像に適用されたIPTC情報も保存できます。

Capture NXのバッチ処理機能について詳しくは、187ページを参照してください。

エディットリスト

エディットリストは、Capture NXのメインとなる機能です。エディットリストには、画像に適用された画像処理が基本画像調整を除き全て適用した順番で保存されます。エディットリストは、画像にすでに適用した処理を変更するための履歴として使用できます。

エディットリスト

1 基本画像調整 (44ページ) 2 画像処理ステップ (64ページ)
3 編集バージョンメニュー (70ページ) 4 バッチメニュー (71ページ)
5 新規ステップボタン (71ページ)

Capture NX内で画像に適用した画像処理は、全てエディットリストに記録されます。エディットリストには、以下の項目があります。

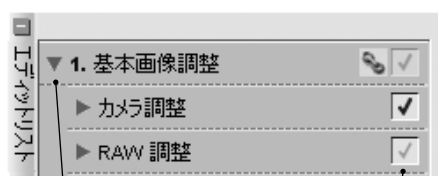
- 基本画像調整
- 画像処理ステップ
- 編集バージョンメニュー
- バッチメニュー
- 新規ステップボタン

画像をNEF形式として保存する場合、エディットリストにはすべての画像処理が保存されます。

エディットリストはまた、画像のバッチ処理の基礎として利用することもできます。 バッチ処理の作成にエディットリストを使用する方法について詳しくは、本章の「バッチ処理」および187ページのバッチメニューを参照してください。

基本画像調整と画像処理ステップの各項目については、「付録:ヒントと追加情報」も合わせてご覧ください。

エディットリストには適用された画像処理ステップが適用順に表示されるので、エディットリストを利用して、すでに適用された画像処理の設定を変更することができます。これを行うには、変更したい画像処理ステップをダブルクリックするか、そのステップの横にある をクリックして内容を表示させます。画像処理の内容が表示されたなら、すでに適用された処理の設定を再び変更することができます。あるステップを変更することにより、以降のステップがすべて一時的に無効になります。ステップの変更が完了したら、一時的に無効になったステップの内、再適用する最後のステップの横にある [適用] チェックボックスをクリックします。Capture NXは、変更されたステップと [適用] チェックボックスをチェックした最後のステップの間にあるステップを全て自動的に適用します。その後、必要に応じてステップや画像処理のチェックを入れたり、外したりすることができます。

基本画像調整

基本画像調整には、JPEG画像や TIFF画像など全てのファイル形式に適用できる処理と、RAW画像にのみ適用できる処理が含まれます。基本画像調整は、エディットリスト内の基本画像調整の横にある をクリックすることで、最大化/最小化することができます。

基本画像調整は、5つのサブカテゴリーに分けられます。5つのサブカテゴリーはそれぞれ、基本画像調整のサブカテゴリーの横にある をクリックすることで、最大化/最小化することができます。

- カメラ調整 (RAW画像 (D-SLR) でのみ使用可能)
- RAW調整 (RAW画像でのみ使用可能)
- レンズ調整 (ヴィネットコントロールはRAW画像でのみ使用可能)
- 明るさと色の調整 (どの画像でも使用可能)

• 細部の調整（どの画像でも使用可能）

RAW画像を開く場合は、カメラ調整とRAW調整の両方の機能が利用できます。これらの2つの機能では、カメラで設定された設定を調整することも、RAW画像でのみ有効な画像処理を変更することもできます。

基本画像調整内の各処理には、[表示/非表示］三角形と［適用］チェックボックスが含まれます。

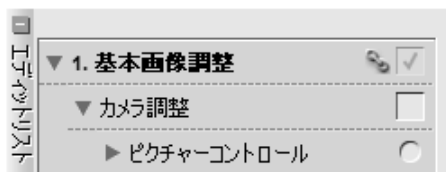
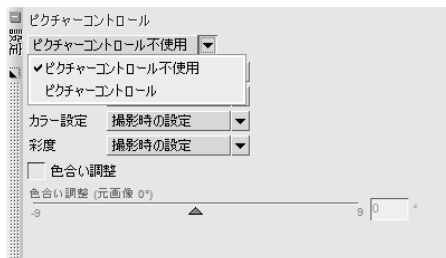
■ 表示/非表示 三角形

［表示/非表示］三角形は、その処理のダイアログウィンドウの内容の表示/非表示を切り換えます。をクリックしてどちらかに切り換えます。

■［適用］チェックボックス

［適用］チェックボックスにチェックを入れると、Capture NXで行った画像処理を画像に適用します。画像処理を調整すると、このチェックボックスは自動的にチェックされます。画像処理を適用しない場合は、［適用］チェックボックスのチェックを外します。

カメラ調整 RAWのみ

［カメラ調整］の横にある をクリックすると、下の画面が表示されます。

ピクチャーコントロールパレットには、[ピクチャーコントロール]と[ピクチャーコントロール不使用]のオプションがあります。ピクチャーコントロール機能を搭載していないカメラで撮影した画像の場合、[ピクチャーコントロール]と[ピクチャーコントロール不使用]を使用することができますが、ピクチャーコントロール機能を搭載しているカメラで撮影した画像では、[ピクチャーコントロール]のみ使用することができます。

メモ：カメラ調整で適用されるどの機能も全て画像全体に適用され、選択ツールを使用して調整することはできません。

■ ピクチャーコントロール

RAW(D-SLR) のみ

「ピクチャーコントロール (Picture Control) システム」とは、対応するカメラまたはソフトウェアで調整した画像調整の設定を相互に利用できるニコン独自の画作りシステムです。

ピクチャーコントロールからお好みのメニューを選ぶだけで、撮影する画像の仕上がりを簡単に設定できます。さらに、明るさやコントラストを簡単に調整したり、5つの要素 (輪郭強調、コントラスト、明るさ、色の濃さ (彩度)、色合い (色相)) を細かく調整することもできます。

好みに合わせて調整したピクチャーコントロールは、[カスタムピクチャーコントロール] として登録できます。[カスタムピクチャーコントロール] は、任意に名前を付けたり、後から編集することも可能です。また、登録した [カスタムピクチャーコントロール] をカメラに登録することもできます。

ピクチャーコントロール
ピクチャーコントロール
ピクチャーコントロール
スタンダード
クイック調整:
-2 2 0
リセット
▼ 高度な編集
自動輪郭強調
輪郭強調:
0 9 3
自動コントラスト
コントラスト:
-3 3 0
明るさ:
-1 1 0
色の濃さ(彩度)の自動調整
色の濃さ(彩度):
-3 3 0
色合い(色相):
-3 3 0
OK キャンセル

ピクチャーコントロールを使うことで、画像調整の設定を対応カメラとソフトウェアで相互利用でき、写真表現がさらに広がります。

撮影時の設定

撮影時の設定を使用します。このモードは、ピクチャーコントロールを搭載している機種でのみ使用できます。

スタンダード

鮮やかでバランスの取れた標準的な画像になります。

ニュートラル

素材性を重視した自然な画像になります。

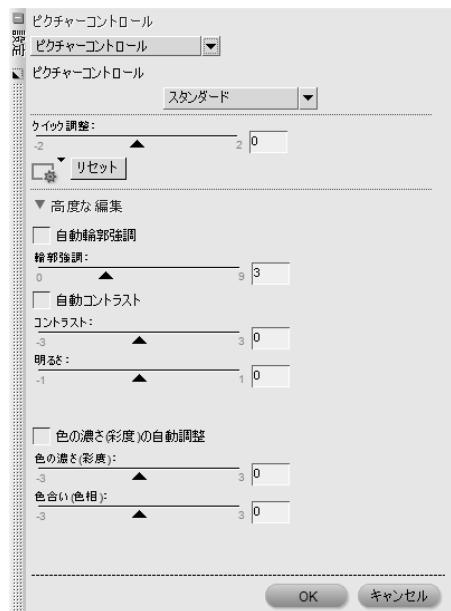
ビビッド

メリハリのある生き生きとした色鮮やかな画像になります。

モノクローム

白黒やセピアなど、単色の濃淡で表現した画像になります。

D2XMODE1、D2XMODE2、D2XMODE3

D2XおよびD2Xsの [カラー設定] の各カラーモードに対応した3種類の「オプションピクチャーコントロール」のセットです。D2XおよびD2Xsと近似した色再現を適用することができます。

ピクチャーコントロールは、さらに次のような調整が可能です。

クイック調整

クイック調整スライダーを使用すると、各項目のレベルを自動的に調整します。[－2]～[＋2]まで5段階の調整ができます。－側にするとそれぞれのピクチャーコントロールの特徴を抑えた画像になり、＋側にするとそれぞれのピクチャーコントロールの特徴を強調した画像になります。たとえば[ビビッド]を選んで＋側にクイック調整すると、色鮮やかさを強調します。[ニュートラル]と[モノクローム]はクイック調整できません。カスタムピクチャーコントロールの場合もクイック調整できません。個別調整した後にクイック調整を行うと、個別調整で設定した値は無効になります。

「カスタムピクチャーコントロール」メニュー（ ）

「カスタムピクチャーコントロール」メニューには、カスタマイズしたピクチャーコントロール設定の保存、取り込みや管理を行う機能が用意されています。このメニューのアイコンをクリックすると、次の項目が表示されます：

➲ ピクチャーコントロールを現在の設定で登録

この項目を選択すると、新しいピクチャーコントロールの調整値を[カスタムピクチャーコントロール]の設定として登録することができます。登録された新しい[カスタムピクチャーコントロール]は、ピクチャーコントロールのプルダウンメニューに新しい選択項目として追加されます。カスタムピクチャーコントロールの設定はクイック調整することはできません。

➲ カスタムピクチャーコントロールの設定を読み込み

この項目を選択すると、カメラで作成した[カスタムピクチャーコントロール]を読み込むことができます。読み込まれた[カスタムピクチャーコントロール]は、選択項目に追加されます。カスタムピクチャーコントロールの設定はクイック調整することはできません。

➲ Picture Control Utiityを起動

この項目を選択すると、Picture Control Utilityを起動することができます。Picture Control Utilityは、Capture NX をVer.1.3にアップデートする際に自動的にインストールされます。Picture Control Utilityを起動すると、カスタムピクチャーコントロールの作成、その設定の編集、D3、D300からメモリーカードへのエクスポートやメモリーカードからのインポートなどができるようになります。詳細はPicture Control Utilityのヘルプボタンをクリックしてヘルプをご覧ください。

リセット

[リセット]ボタンを押すと、選択されたピクチャーコントロールの設定を初期設定に戻すことができます。

高度な編集

輪郭強調、コントラスト、明るさ、彩度や色合いを個々に調整します。

高度な編集 ボタンをクリックすると、ピクチャーコントロールをさらに詳しく調整できる画面が表示されます。

➲ 輪郭強調

画像の輪郭強調の度合いを調整します。

［自動輪郭強調］のチェックボックスにチェックを入れると、Capture NXが画像の輪郭強調の適切な度合いを判断し、その値に自動的に設定します。なお、［自動輪郭強調］を選択すると、輪郭強調スライダーは使用できません。

輪郭強調を手動で調整する場合は、輪郭強調スライダー使用します。スライダーを左方向（－側）に動かすと輪郭強調の度合いが弱まり、右方向（＋側）に動かすと度合いが強まります。

➲ コントラストと明るさ

画像のコントラストと明るさを調整します。

［自動コントラスト］チェックボックスにチェックを入れると、Capture NXが画像の最適なコントラストを判断し、自動的に設定します。［自動コントラスト］を選択すると、コントラストスライダーは使用できません。

コントラストを手動で調整する場合、コントラストスライダーを使用します。スライダーを左方向（－側）に動かすと画像全体のコントラストが弱まり、右方向（＋側）に動かすとコントラストが強まります。

明るさスライダーを使うと、画像全体の明るさを調整できます。スライダーを左方向（－側）に動かすと画像が暗くなり、右方向（＋側）に動かすと明るくなります。

Picture Control Utilityでカスタムトーンカーブを設定したカスタムピクチャーコントロールが適用されている場合、およびアクティブD- ライティングが適用されている場合は選択できません。

➲ 色の濃さ（彩度）と色合い（色相）

色の濃さ（彩度）と色合い（色相）を調整します。［モノクローム］や［モノクローム］を元にしたカスタムピクチャーコントロールの場合は表示されません。

［色の濃さ（彩度）の自動調整］チェックボックスにチェックを入れると、Capture NXが現在表示中の画像の最適な彩度を判断し、その値に自動的に設定します。［色の濃さ（彩度）の自動調整］を選択すると、色の濃さ（彩度）スライダーは使用できません。

彩度を手動で調整する場合、色の濃さ（彩度）スライダーを使って調整値を変更できます。スライダーを左方向（－側）に動かすと画像の彩度が弱まり、色の鮮やかさも減ります。右方向（＋側）に動かすと彩度が強まり、色がより鮮やかになります。

色合い（色相）スライダーを使えば、画像の明るさまたは彩度設定に影響を与えずに、画像全体の色合い（色相）を調整することができます。肌色を基準にした場合、スライダーを左方向（－側）に動かすと赤味が増し、右方向（＋側）に動かすと黄色味が増します。

➲ フィルター効果 **モノクロームのみ**

［フィルター効果］は、白黒写真の撮影時に使用する色つきフィルターと同様の機能です。［フィルター効果］を使うと、画像内の被写体の色関係が、使用するフィルターの色に応じて変化します。

［フィルター効果］プルダウンメニューは下記の選択項目で構成されています：

Off：Capture NXが画像を初期設定の白黒画像に変換します。

Yellow：Capture NXがカメラレンズに黄色のフィルターを装着して撮影した時の画像を作成します。この色のフィルターをかけると、画像内の黄色の被写体は明るくなり、青色の被写体は暗くなります。このフィルターは、明るめの肌色のコントラストを最適化したい時などに使用すると効果的です。

Orange：Capture NXがカメラレンズにオレンジ色のフィルターを装着して撮影した時の画像を作成します。この色のフィルターをかけると、画像内のオレンジ色の被写体は明るくなり、青色や紫色の被写体は暗くなります。このフィルターは、青空が広がる風景写真のコントラストを最適化したい時などに使用すると効果的です。

Red：Capture NXがカメラレンズに赤色のフィルターを装着して撮影した時の画像を作成します。この色のフィルターをかけると、画像内の赤色の被写体は明るくなり、シアン色の被写体は暗くなります。このフィルターは、晴天下で撮影した写真のコントラストをよりくっきりさせたい時などに使用すると効果的です。

Green：Capture NXがカメラレンズに緑色のフィルターを装着して撮影した時の画像を作成します。この色のフィルターをかけると、画像内の緑色の被写体は明るくなり、マゼンタ色の被写体は暗くなります。このフィルターは、葉の色を明るくしたい時あるいは肌や唇の色を抑えたい時などに使用すると効果的です。

➲ 調色 モノクロームのみ

印画紙を調色したときのように、画像全体の色調を調整できます。

［調色］プルダウンメニューは下記の選択項目で構成されています：

Black-and-white：色味や調色を加えていない白黒画像が得られます。

Sepia：セピア色の画像を作成します。

Cyanotype：従来の青写真法で加工された時の画像を作成します。この項目を選択した時に得られる画像には、特徴的な青味がかかっています。

Red：画像に赤色味が加わります。

Yellow：画像に黄色味が加わります。

Green：画像に緑色味が加わります。

Blue Green：画像に青緑色味が加わります。

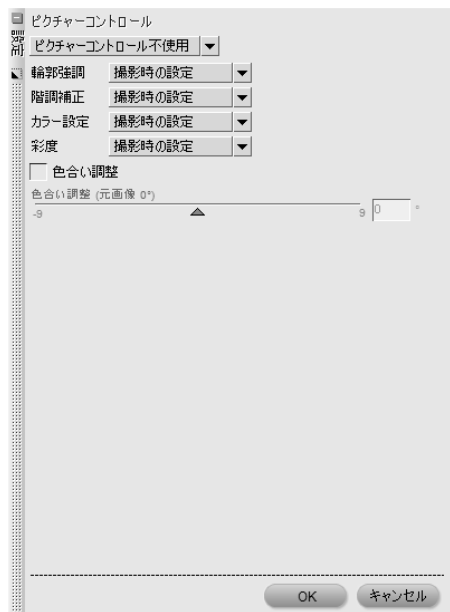
Blue：画像にシアン色味が加わります。

Purple Blue：画像に青紫色味が加わります。

Red Purple：画像にマゼンタ色味が加わります。

➲ 色の濃淡を調整 モノクロームのみ

［色の濃淡を調整］スライダーを使うと、白黒以外の調色機能で選択された調色効果や色の鮮やかさを調整することができます。スライダーを左方向に動かすと調色効果がより控えめになり、右方向に動かすとより強く鮮明になります。

■ ピクチャーコントロール不使用

輪郭強調

輪郭強調では、カメラで設定された輪郭強調の度合いを調整することができます。

輪郭強調には次のメニュー項目があります。

- 撮影時の設定 – カメラで設定した輪郭強調を使用します。
- しない
- 弱め
- やや弱め（D-SLRのみ）
- 標準
- やや強め（D-SLRのみ）
- 強め

元の輪郭強調に戻すには、エディットリストの［ピクチャーコントロール］の横にある適用チェックボックスのチェックを外します。

メモ：D1で撮影した画像の場合は、撮影時の輪郭強調設定がファイルに記録されないため、［撮影時の設定］を選択した場合は［しない］と同じ設定になります。

階調補正

階調補正では、カメラで設定された画像のコントラストを調整することができます。

階調補正には次のメニュー項目があります。

- 撮影時の設定 – カメラで設定した階調補正を使用します。
- コントラスト弱め
- コントラストやや弱め（D-SLRのみ）
- 標準
- コントラストやや強め（D-SLRのみ）
- コントラスト強め
- ユーザーカスタム（D-SLR+別売のCamera Control Pro 2でのみ可能）– コントラストをユーザー設定カスタムカーブに設定します。

元の階調補正に戻すには、エディットリストの［ピクチャーコントロール］の横にある適用チェックボックスのチェックを外します。

カラー設定

画像の色再現モードを設定します。フィルムカメラでは好みの色調に応じてフィルムを選択しますが、Capture NXではカラー設定を変更することで色相、彩度、色域を特徴づけることができます。

元のカラー設定に戻すには、エディットリストの［ピクチャーコントロール］の横にある適用チェックボックスのチェックを外します。

彩度

彩度では、カメラで設定された彩度設定の度合いを調整することができます。

彩度には次のメニュー項目があります。

- 撮影時の設定 – カメラで設定した彩度設定を使用します。
- 弱め
- 標準
- 強め

元の彩度設定に戻すには、エディットリストの［ピクチャーコントロール］の横にある適用チェックボックスのチェックを外します。

色合い調整

色合い調整機能を使用すると、明るさや彩度に影響を与えることなく、画像全体の色相を（－9°から+9°）変更することができます。色合い調整を変更するには、［色合い調整］のチェックボックスをオンにして、スライダーで調整します。

ヒント：各調整項目のポップアップメニューには、カメラで設定していた項目に「*」マークが表示されます。調整後の画像を撮影時の状態に戻したい時は、各調整項目のポップアップメニュー内で［撮影時の設定］もしくは「*」マークが付いている項目を選択すれば、画像を撮影時の元の状態に戻すことができます。

［OK］をクリックすると［ピクチャーコントロール不使用］の設定が確定され、ダイアログが閉じます。設定を変更しない場合は［キャンセル］をクリックします。

RAW調整

RAW調整の内容は、RAW画像にのみ適用することができます。

メモ：カメラ調整内で適用されるどの機能も画像全体に適用され、選択ツールを使用して調整することはできません。

■ 露出補正 RAWのみ

露出補正機能は、カメラでの露出補正に相当する機能です。

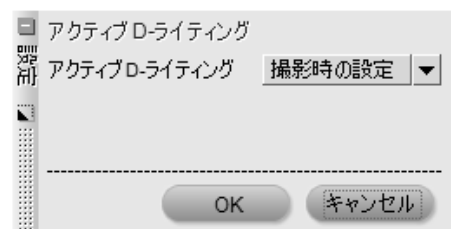
露出補正値を変更するには、露出補正の ▶ ボタンをクリックし、スライダーで調整します。この機能を使用することで、-2から+2 EVの間で露出補正値を選択することができます。

[OK] をクリックして新しい露出補正値にするか、または、[キャンセル] をクリックして露出補正を取り消します。

露出補正効果を無効にする場合は、露出補正の横にある [適用] チェックボックスのチェックを外します。

メモ：露出補正機能は、露出の正しくない画像の修正に非常に便利です。しかしながら、露出オーバー（細部がハイライトで失われている）または露出不足（細部が影で失われている）の部分が画像にある場合、この機能を使用しても細部を回復することができるわけではありません。

■ アクティブD-ライティング

アクティブD-ライティングは、撮影メニューでアクティブD-ライティングをOFF以外に設定しているカメラで撮影されたRAW画像にのみ有効です。

アクティブD-ライティングを使用すると、画像の明るい部分(ハイライト)の白とびや暗い部分(シャドー)の黒つぶれを軽減する効果が得られます。カメラの撮影メニューでアクティブD-ライティングを設定しておくと、ハイライトの白とびを防ぐために露出をアンダー側に制御した状態で撮影されます。その画像をCapture NXのアクティブD-ライティング機能で加工すると、シャドーを補正して、画像全体の色調を適切なレベルに調整することによって、その画像を見た目のコントラストに近い状態に仕上げることができます。

撮影時の設定

この項目を選択すると、画像は撮影時の設定に戻ります。

しない

この項目を選択すると、アクティブD-ライティングの設定を行いません。カメラで撮影した画像よりも暗くなります。

弱め

この項目を選択すると、画像に低レベルのアクティブD-ライティング処理が行われます。

標準

この項目を選択すると、画像に適度のアクティブD-ライティング処理が行われます。

強め

この項目を選択すると、画像に高レベルのアクティブD-ライティング処理が行われます。

■ ホワイトバランス RAWのみ

ホワイトバランス調整機能を使用すると、画像内で設定されたホワイトバランスを変更できます。

ホワイトバランス調整機能は、最初に選択されていたホワイトバランス設定を修正できるだけでなく、寒色系または暖色系の色合いとなるようホワイトバランスを調整することが可能です。

ホワイトバランスを変更するには、ホワイトバランスの ▶ ボタンをクリックして、ホワイトバランス調整ダイアログを表示します。ホワイトバランス調整ダイアログ内で、ホワイトバランスの色温度を選択するか、画像内からグレー点の設定を行うことができます。

色温度設定モード

このモードでは、色温度を調整します。

カメラのホワイトバランス

画像撮影時のカメラで設定されたホワイトバランスを表示します。

新規ホワイトバランス

このプルダウンメニューには、新しいホワイトバランス値を設定するための数多くの項目を選択できます。

➲ グレーポイントを使用

グレーポイントの設定画面（P.54）で設定された値が反映されます。

➲ 撮影時の設定

これは、カメラでの撮影時の設定値にホワイトバランスを設定します。

➲ 自動調整（D-SLRのみ）

これを選択すると、Capture NXが、ホワイトバランスを自動的に調整します。

➲ 電球

撮影時の照明に白熱電球（タングステン球）が使用されていた場合、これを選択します。

➲ 自然光

太陽光で撮影した場合、これを選択します。

➲ 晴天

色温度を5,200 Kに設定するので、直射日光で撮影された画像に適しています。

➲ 曇天

色温度を6,000 Kに設定するので、曇り空の時に撮影された画像に適しています。

➲ 晴天日陰

色温度を8,000 Kに設定するので、日陰で撮影された画像に適しています。

➲ 蛍光灯と高演色蛍光灯

撮影時の照明が蛍光灯の場合、使用された蛍光灯の種類に従い、いずれかを選択します。どの種類の蛍光灯が使用されていたか不明の場合は、画像が自然に見えるまで、さまざまな設定を試してください。蛍光灯サブメニューを使用して、これらの設定をさらに細かく調整することができます。

蛍光灯サブメニュー

このサブメニューでは、最も広く使用されている蛍光ランプの色温度から選択することができます。

➲ 電球色 (3,000K)

➲ 温白色 (3,700 K)

➲ 白色 (4,200 K)

➲ 昼白色 (5,000 K)

➲ 昼光色 (6,500 K)

➲ 高色温度の水銀灯 (7,200 K)

➲ フラッシュ

ニコン製スピードライトを光源として使用して撮影された場合に選択します。

➲ ナトリウム灯混合光

野球場、体育館などのナトリウム灯の混合光を使った撮影に適しています。

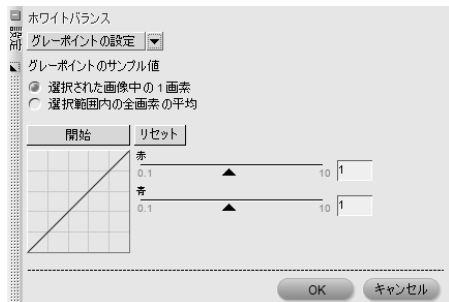
[グレーポイントを使用]、[撮影時の設定] 以外の項目では、さらに以下の調整行うことができます。

微調整スライダー

このスライダーを使用すると、選択されている色温度をプラスマイナス50ミレッドの範囲で調整することができます。

その他の色味スライダー

スライダーを左に動かすと緑色が弱まり(マゼンタ色が加わり)、右に動かすとマゼンタ色が弱まり(緑色が加わり)ます。

グレーポイントの設定

このモードでは、画像の中からニュートラルグレーの部分を指定して、それをホワイトバランスの基準とするか、または画像の一部分の平均を取り、そこからホワイトバランスを計算することができます。

選択された画像中の１画素

開始をクリックすると、ニュートラルグレーの１画素を指定することができます。主光源に照らされたグレーカードが含まれる画像に最も適しています。処理結果は、赤と青のスライダーとグラフにも反映されます。赤と青のスライダーを手動で移動させることにより、ホワイトバランスを調整することも可能です。赤スライダーで画像のホワイトバランスをシアンから赤にシフトさせ、赤チャンネルのゲインを調整します。青スライダーで画像のホワイトバランスをイエローから青にシフトさせ、青チャンネルのゲインを調整します。初期設定に戻すには、[リセット] ボタンをクリックします。

選択範囲内の全画素の平均

開始をクリックすると、ホワイトバランス設定の基準としてCapture NXが使用する選択範囲を指定できます。ホワイトバランスの設定対象となる光源によって照らされた部分を範囲として描画します。処理結果は、赤と青のスライダーとグラフにも反映されます。赤と青のスライダーを手動で移動させることにより、ホワイトバランスを調整することも可能です。赤スライダーで画像のホワイトバランスをシアンから赤にシフトさせ、赤チャンネルのゲインを調整します。青スライダーで画像のホワイトバランスをイエローから青にシフトさせ、青チャンネルのゲインを調整します。初期設定に戻すには、[リセット] ボタンをクリックします。

[OK] をクリックして新しいホワイトバランスにするか、[キャンセル] をクリックしてカメラで設定されたホワイトバランスを保持します。

元のホワイトバランスに戻すには、ホワイトバランス調整の横にある [適用] チェックボックスのチェックを外します。

■ 色モアレリダクション

RAW(D-SLR)のみ

色モアレリダクション機能を使用することで、ノイズリダクション処理を適用できます。

色モアレリダクション機能を適用するには、▶ボタンをクリックして、プルダウンメニューから選択します。この処理によって色モアレ（規則的な重複パターンによる色干渉）が低減されます。強度を[しない]から、[低]、[標準]、[高]に変更することができます。

[OK]をクリックして新しい色モアレリダクション効果を適用するか、または、[キャンセル]をクリックして色モアレリダクション効果が反映されないようにします。

色モアレリダクション効果を無効にする場合は、色モアレリダクションの横にある[適用]チェックボックスのチェックを外します。

その他のノイズリダクション機能は、162ページの調整メニューを参照してください。

■ イメージダストオフ

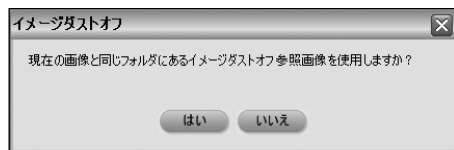
RAW(D-SLR)のみ

イメージダストオフ機能は、カメラのローパスフィルタに付着したゴミやホコリの影響を軽減することができます。イメージダストオフ機能を使用してセンサー上にあるゴミの位置を参照用画像に登録することができます。以降撮影される画像のゴミやホコリは、この参照用画像と比較され、低減されます。

メモ：ローパスフィルタについたゴミの量と位置は変わる場合があります。参照用画像を定期的に作成すると共に、処理対象となる画像の1日以内に作成された参照用画像を使用されることを推奨します。

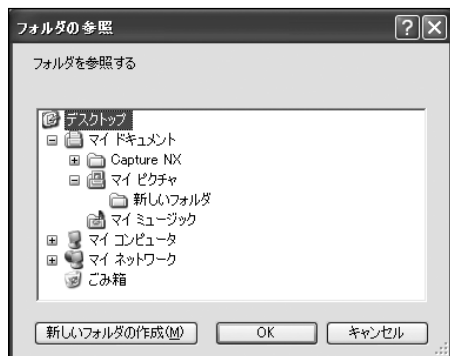
イメージダストオフ機能を適用するには、イメージダストオフの▶ボタンをクリックして、[イメージダストオフ]ダイアログウィンドウを表示します。[変更]ボタンをクリックして、現在の画像に適用するイメージダストオフ参照用画像を選択します。

D2HやD200など、.NDFという拡張子を持つイメージダストオフ参照用画像を作成する一部のカメラについては、Capture NXは現在の画像と同じフォルダ内の参照用画像を選択します。

➲ Capture NXは、現在のフォルダ内でイメージダストオフ参照用画像を見つけると、その画像をイメージダストオフ処理に使用するか尋ねるメッセージを表示します。

- [はい]を選択すると、Capture NXはその参照用画像を使用してイメージダストオフ効果を適用します。
- [いいえ]を選択すると、ハードディスク上のイメージダストオフ参照用画像が入ったフォルダを検索するための検索ウィンドウが表示されます。

➲ 現在の画像と同じフォルダ内にイメージダストオフ参照用画像がなければ、参

照用画像が入ったフォルダをハードディスク上で検索するための検索ウィンドウが表示されます。

➲ イメージダストオフ取得機能のない他の機種の場合は、イメージダストオフ参照用画像が入ったフォルダをハードディスク上で検索するための検索ウィンドウが表示されます。

• Capture NXが同じフォルダ内に複数のイメージダストオフ参照用画像がある場合、使用する画像を選択するダイアログが表示されます。できるだけ現在の画像の撮影時間に近い画像を選択することを推奨します。

正しいイメージダストオフ参照用画像を選択したら、[OK] をクリックして画像にダストオフ効果を適用します。

イメージダストオフ効果を無効にする場合は、イメージダストオフの横にある [適用] チェックボックスのチェックを外します。

メモ：現在の画像に多数のゴミが検出された場合、Capture NXはイメージダストオフ機能の結果を保証しないことを示す警告を表示します。[はい] をクリックして次に進みます。

■ 自動色収差補正 RAW(D-SLR)のみ

自動色収差補正は、画像内の倍率色収差(色にじみ) を自動的に低減します。この機能は初期設定で有効に設定されていて、RAW画像内の色収差を自動的に低減します。自動色収差補正効果を取り除く場合は、自動色収差補正の横にある [適用] チェックボックスのチェックを外します。

メモ：この機能は、多重露出画像や画像合成で作成された画像には利用できません。

明るさと色の調整

基本画像調整の[明るさと色の調整]の内容は、NEF、JPEG、TIFF形式であれば、どんな画像にも適用することができます。

メモ：明るさと色の調整で適用されるどの機能も全て画像全体に適用され、選択ツールを使用しても調整することはできません。

また[明るさと色の調整]内の機能は、メニューおよび、エディットリストの画像処理ステップにあるプルダウンメニューにも配置されています。メニュー、プルダウンメニューのいずれかからアクセスして、これらの機能を選択範囲に適用することができます。

■ カラーバランス

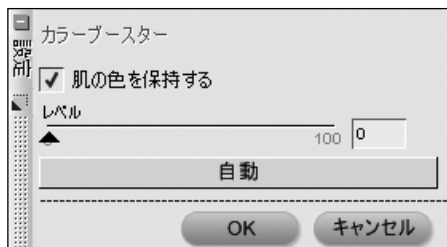
カラーバランス機能は、画像全体にわたる全体的な明るさ、コントラスト、カラーバランスを簡単に調整できます。

カラーバランス機能を適用するには、カラーバランスの横にある ▶ ボタンをクリックして、[カラーバランス] ダイアログを表示します。

カラーバランスの機能の詳しい説明については、156ページを参照してください。

カラーバランス効果を適用するには、[OK] をクリックして適用します。カラーバランス機能が画像に反映されないようにするには [キャンセル] ボタンをクリックします。

カラーバランス効果を無効にするには、カラーバランスの横にある [適用] チェックボックスのチェックを外します。

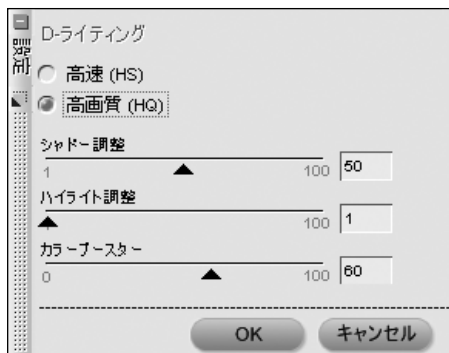
■ カラーブースター

カラーブースターを使用することで、色の彩度を最適な状態に調整することができます。画像の彩度を上げるには、カラーブースターを使用します。

この機能を適用するには、カラーブースターの横にある ▶ ボタンをクリックして、[カラーブースター] ダイアログを表示します。

カラーブースターの機能の詳しい説明については、157ページを参照してください。

カラーブースター効果を適用するには、[OK] ボタンをクリックして適用します。カラーブースター機能が画像に反映されないようにするには、[キャンセル] ボタンをクリックします。

カラーブースター効果を無効にするには、カラーブースターの横にある [適用] チェックボックスのチェックを外します。

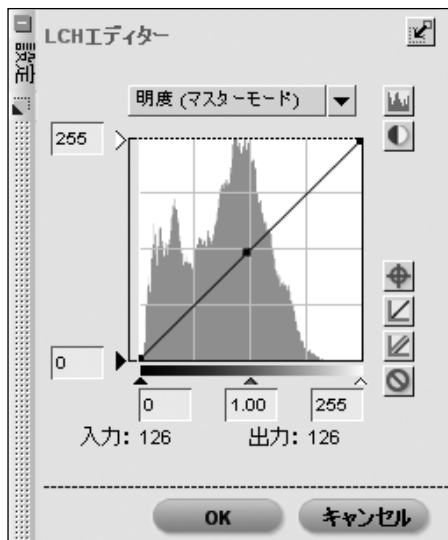
■ D-ライティング

D-ライティングは、適正露出の部分を損なわず、露出不足、逆光、フラッシュ不足を修正し、シャドーとハイライトの細部をくっきりさせます。D-ライティングは、照明が明るくて露出オーバーになっている部分の細部をくっきりさせるのにも役立ちます。

D-ライティングを適用するには、D-ライティングの横にある ▶ ボタンをクリックして、[D-ライティング] ダイアログを表示します。

D-ライティング機能の詳しい説明については、149ページを参照してください。

D-ライティング機能の効果を適用するには、[OK] ボタンをクリックします。D-ライティング機能をキャンセルするには、[キャンセル] ボタンをクリックします。

D-ライティング効果を無効にするには、D-ライティングの横にある [適用] チェックボックスのチェックを外します。

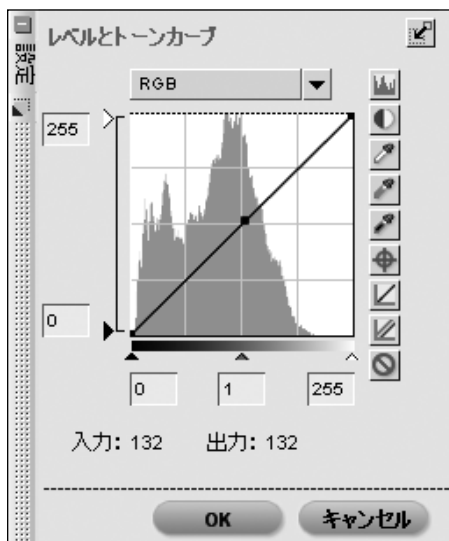
■ LCHエディター

LCHエディターでは、個別のチャンネルを用いて、画像の明度、彩度、色相を調整します。LCHエディターを使用することで、画像全体の個別の色の明度をコントロールすることができます。

LCHエディターを使用するには、LCHエディターの横にある ▶ ボタンをクリックして、[LCHエディター] ダイアログを表示します。

LCHエディターの機能の詳しい説明については、150ページを参照してください。

LCHエディターの効果を適用するには、[OK] ボタンをクリックします。LCHエディター機能をキャンセルするには、[キャンセル] ボタンをクリックします。

LCHエディターの効果を無効にするには、LCHエディターの横にある [適用] チェックボックスのチェックを外します。

■ レベルとトーンカーブ

レベルとトーンカーブ機能は、最もよく使用される階調処理の2つをひとつに統合したものです。レベルとトーンカーブ機能を使用することで、コントラスト、階調（明るさ）レベル、カラーバランスを調整します。

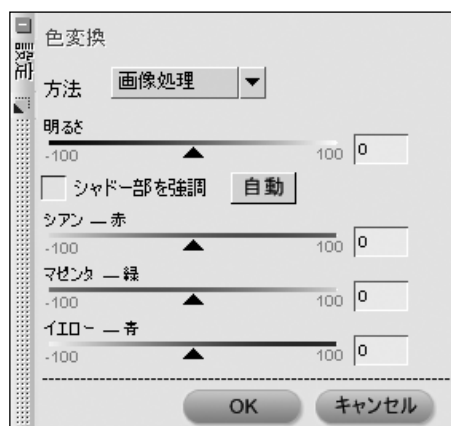
レベルとトーンカーブ機能で、画像の階調範囲内の特定の部分に対して階調調整を行うことができます。この調整は、画像全体または特定のカラーチャンネルに適用できます。

[レベルとトーンカーブ] を使用して画像の階調を調整するには、[レベルとトーンカーブ] の横にある ▶ ボタンをクリックします。[レベルとトーンカーブ] ダイアログが表示されます。

レベルとトーンカーブの機能の詳しい説明については、143ページを参照してください。

[レベルとトーンカーブ] の効果を適用するには、[OK] ボタンをクリックします。[レベルとトーンカーブ] 機能をキャンセルするには、[キャンセル] ボタンをクリックします。

[レベルとトーンカーブ] 効果を無効にするには、[レベルとトーンカーブ] の横にある [適用] チェックボックスのチェックを外します。

■ 色変換

色変換機能を使用することで、クリエイティブな画像を作成することができます。このツールを使用して、白黒、セピア、その他の色合いの画像を作成することができます。また、色変換機能を使用することにより、画像の階調を調整したり、シャドー部分を強調したり、カラーバランスを調整することができます。

色変換機能を使用するには、色変換の横にある ▶ ボタンをクリックすると、[色変換] ダイアログが表示されます。

色変換機能に関する詳しい説明については、179ページを参照してください。

色変換機能の効果を適用するには、[OK] ボタンをクリックします。色変換機能をキャンセルするには、[キャンセル] ボタンをクリックします。

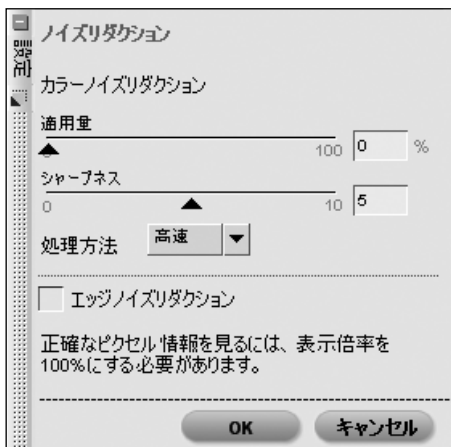
色変換を無効にするには、色変換の横にある [適用] チェックボックスのチェックを外します。

細部の調整

[細部の調整]機能は、NEF、JPEG、TIFF形式のいずれの画像にも適用することができます。

メモ：[細部の調整] で適用される機能は全て画像全体に適用され、どの選択ツールを使用しても選択範囲にのみ適用することはできません。

[細部の調整] 内の機能は、メニュー、またはエディットリストの画像処理ステップにあるプルダウンメニューにも配置されています。これらの機能は、メニュー、またはプルダウンメニューからアクセスすることで、選択範囲に適用することができます。

■ ノイズリダクション

ノイズリダクション機能は、デジタルカメラで撮影された画像に現れる場合があるノイズを低減することができます。

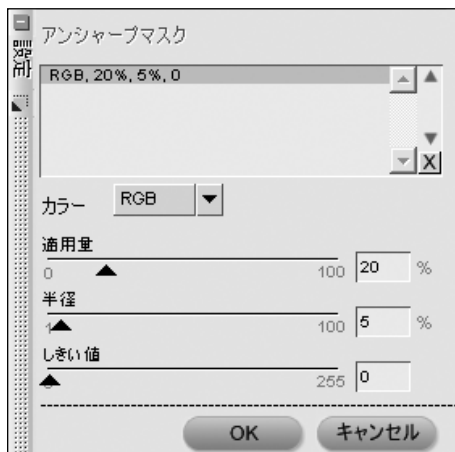
ノイズリダクション機能を使用するには、ノイズリダクションの横にある ▶ ボタンをクリックします。これにより、[ノイズリダクション] ダイアログが表示されます。

メモ：画像に適用するノイズリダクションの量を決定する際は、画像の拡大率を100%にしておくことをお勧めします。

ノイズリダクション機能の詳しい説明については、162ページを参照してください。

ノイズリダクション機能の効果を適用するには、[OK] ボタンをクリックします。ノイズリダクション機能をキャンセルするには、[キャンセル] ボタンをクリックします。

ノイズリダクション効果を無効にするには、ノイズリダクションの横にある [適用] チェックボックスのチェックを外します。

■ アンシャープマスク

アンシャープマスク機能は、画像の輪郭を強調することで、シャープネスを向上させる機能です。アンシャープマスクは、画像全体のエッジのコントラストを増加させることにより機能します。この機能では、[適用量]、[半径]、[しきい値] を設定することができます。

アンシャープマスク機能を使用するには、アンシャープマスクの横にある ▶ ボタンをクリックします。[アンシャープマスク] ダイアログが表示されますので、さまざまな設定を調整できます。

メモ：画像に適用する輪郭強調の量を決定する際は、画像の拡大率を100%にしておくことをお勧めします。
アンシャープマスク機能に関する詳しい説明については、159ページを参照してください。

アンシャープマスク機能の効果を適用するには、[OK] ボタンをクリックします。アンシャープマスク機能をキャンセルするには、[キャンセル] ボタンをクリックします。

アンシャープマスク効果を無効にするには、アンシャープマスクの横にある [適用] チェックボックスのチェックを外します。

■ 自動赤目補正

基本画像調整内の自動赤目補正機能は、ツールバーの赤目補正コントロールポイント機能とは異なります。 この機能に関する詳しい情報は、177ページをご覧ください。自動赤目補正機能は、現在の画像から赤目を自動的に見つけ出し補正します。

自動赤目補正の効果を適用する場合は [OK] ボタンを、適用しない場合は [キャンセル] をクリックします。

■ クロップ＆サイズ変更

クロップ＆サイズ変更機能は、Nikon CaptureまたはPictureProjectでクロップ処理あるいはサイズ変更を行った画像の場合、基本画像調整の細部の調整に表示されます。Nikon CaptureまたはPictureProjectで行ったクロップ処理あるいはサイズ変更を無効にするには、この項目の [適用] チェックボックスのチェックを外します。

■ 傾き

傾き補正機能は、Nikon CaptureまたはPictureProjectで傾き補正を行った画像の場合、基本画像調整の細部の調整に表示されます。Nikon CaptureまたはPictureProjectで行った傾き調整を無効にするには、この項目の [適用] チェックボックスのチェックを外します。

レンズ調整

基本画像調整の [レンズ調整] の内容は、RAW画像またはAF DXニッコールフィッシュアイ10.5 mm f2.8Gレンズで撮影した画像の場合に使用可能です。

■ ヴィネットコントロール

D-SLRのみ

ヴィネットコントロール機能は、画像周辺部の明るさの低下を引き起こすレンズを使用して撮影した場合に発生する周辺光量不足の調整に使用されます。

GおよびDタイプレンズ（距離情報出力機能付きレンズ）を装着して撮影したRAW画像の場合、Capture NXは、画像に記録された、レンズ情報を用いてヴィネットコントロールの最適な調整を行います。レンズ情報がない場合、ヴィネットコントロール効果は固定のレンズ特性を使用します。特定のレンズとカメラの組み合わせが距離情報を記録するかどうか判断するには、以下の表を参照してください。

カメラ	GおよびDタイプレンズ	その他のレンズタイプ
D40、D40x、D50、D70、D70s、D80、D100、D200、D300、D2H、D2Hs、D2X、D2Xs、D3	距離情報が記録されます	距離情報は記録されません
D1X/D1H（ファームウェアバージョン1.10以降）	距離情報が記録されます	距離情報は記録されません
D1X/D1H（ファームウェアバージョン1.01以前）	距離情報は記録されません	距離情報は記録されません
D1	距離情報は記録されません	距離情報は記録されません

ヴィネットコントロールを画像に適用するには、ヴィネットコントロールの横にある ▶ ボタンをクリックして、[ヴィネットコントロール] ダイアログを表示します。

適用量スライダーを右に動かし、画像の周辺部を明るくするか、左に動かして、画像の周辺部を暗くします。

距離情報が記録されていない画像の場合、ヴィネットコントロール設定の調整の際に、ヴィネットコントロール効果を適用しすぎないよう充分ご注意ください。

ヴィネットコントロールを使用して求める効果が得られたなら、[OK] をクリックして画像にヴィネットコントロールを適用します。

ヴィネットコントロール効果を無効にする場合は、ヴィネットコントロールの横にある [適用] チェックボックスのチェックを外します。

■ フィッシュアイレンズ画像変換

フィッシュアイレンズ画像変換機能を使用すると、互換性のあるフィッシュアイレンズで撮影した画像を、通常の広角レンズで撮影されたように変換することができます。この機能は、AF DXニッコールフィッシュアイ10.5 mm f2.8Gレンズで撮影した画像にのみ対応しています。

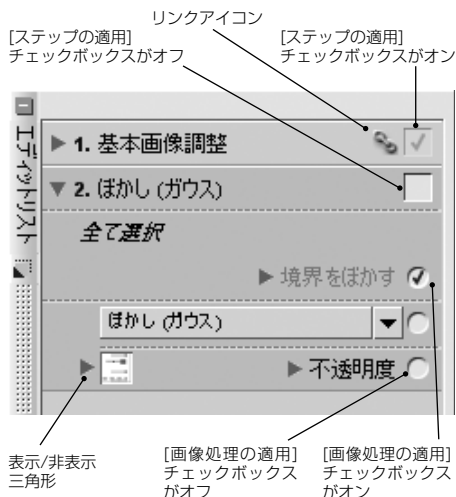
フィッシュアイレンズダイアログによって、フィッシュアイから通常のワイドレンズで撮影された画像に近い形に画像に自動的に変換します。初期設定ではフル画像が選択されます。画像情報が存在しない部分は、すべて切り取られます。

- 画像以外の部分を含めて処理

  画像データがない部分を含む、最大フル画像を表示するには、[全画像データ]を選択します。フィッシュアイから通常のワイドレンズで撮影された画像に近い形への変換を行った後、フル画像が表示されます。画像の一部が画像を通常のワイドレンズで撮影された画像に近い形に変形するために湾曲されることになります。フィッシュアイから通常のワイドレンズで撮影された画像に近い形への変換による処理の結果、画像の長辺方向により多くの情報が含まれます。

  画像の一部分には、変換処理によって画像情報が全く含まれない部分があります。さまざまなプリセットカラーを選択してこの部分を塗りつぶすことができます。

フィッシュアイレンズ画像変換機能の効果を適用するには、[OK] をクリックします。[キャンセル] ボタンをクリックすれば、この機能をキャンセルできます。

画像処理ステップ

画像処理ステップは、Capture NXで自動的に作成することも、[新規ステップ] ボタンを使用して作成することもできます。 この機能について詳しくは、71ページをご覧ください。画像処理ステップには、基本画像調整以降の全ステップが含まれています。

基本画像調整の場合は、画像全体に調整が適用されますが、画像処理ステップでは、ツールバーの選択ツールを使用して選択範囲にのみ適用することもできます。選択ツールについて詳しくは、95ページを参照してください。

また、画像処理ステップ内にあるどの項目でも、クリックすることにより、バッチ操作にコピー、貼り付け、削除、追加することができます。

画像処理のコピー、貼り付け、削除について詳しくは、72ページの「画像処理ステップ」を参照してください。 こ

のような機能をバッチ処理に付加する方法については、187ページのバッチ関連の章も参照してください。

画像処理ステップを新規に作成するには、調整またはフィルタメニューから編集機能をひとつ選択する、コントロールポイントツールのひとつを選択する（そのタイプのコントロールポイントがどれも現在のステップに適用されていない場合）、新規ステップボタンをクリックする、という3つの方法のうちどれかを使用します。各画像処理ステップには、以下の項目があります。

■ 表示/非表示 三角形

[表示/非表示] 三角形は、特定画像処理のダイアログウィンドウの内容を 表示または 非表示 にします。 ボタンをクリックして2つの状態を切り換えます。

■ [ステップの適用] チェックボックス

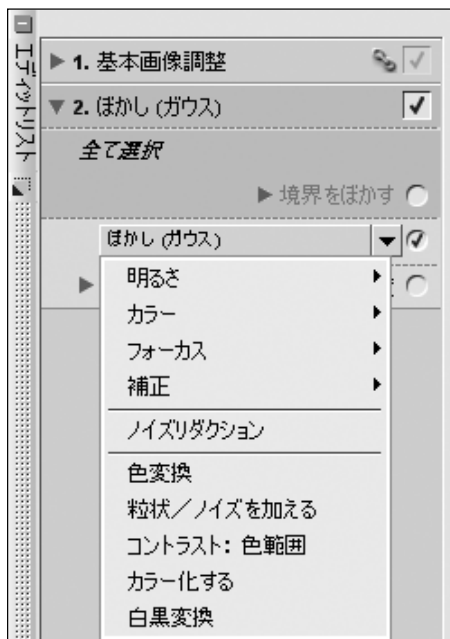
[ステップの適用] チェックボックスは、特定の画像処理ステップをオン またはオフ に指定でき、これにより、そのステップのすべての効果をオフにできます。ステップが新規作成された場合、このチェックボックスは自動的にオンになっています。特定の画像処理ステップを無効にするには、[ステップの適用] チェックボックスのチェックを外します。

■ [画像処理の適用] チェックボックス

[画像処理の適用] チェックボックスは、現在の画像処理ステップ内の画像処理による効果をオン またはオフ にできます。ステップ内で画像処理が適用されると、このチェックボックスは自動的にオンになります。特定の画像処理を無効にするには、[画像処理の適用] チェックボックスのチェックを外します。

■ リンクアイコン

リンクアイコン は、リンクされた画像処理が現在の画像処理ステップに含まれているかどうかを示します。 画像処理のリンク作成については、73ページを参照してください。

[調整を選択] プルダウンメニュー

調整メニューまたはフィルタメニューいずれかにより画像処理ステップに付加された機能は、エディットリストに表示されます。さらに、[新規ステップ] ボタンを使用して作成された新規画像処理ステップには、[調整を選択] プルダウンメニューが含まれています。実際の調整メニューまたはフィルタメニューに移動することなく、このメニューを用いて、調整メニューまたはフィルタメニュー内で利用可能な画像調整を選択できます。

さらに、このメニューを使用して、画像処理の置き換え機能も実行できます。この機能について詳しくは、74ページを参照してください。

不透明度

不透明度を使用すると、現在の画像処理の適用度合いを調整できます。

[調整]、[コントロールポイント]、[フィルタ] メニューから、何らかの機能を付加すると、不透明度が有効になります。調整したい機能のすぐ下にある [不透明度] の ▶ ボタンをクリックします。これによって、[不透明度] ダイアログが表示されます。

[不透明度] ダイアログ内では、現在の画像処理が反映される不透明度とチャンネルを調整し、前の画像処理ステップで適用された効果とは異なる方法で画像処理をブレンドできます。

■ チャンネル

まず、現在の画像処理を適用したいチャンネルを選択します。使用可能な項目は、[全て]、[明るさと色]、[RGB] です。

全て

[チャンネル] プルダウンメニューから [全て] を選択すると、画像のチャンネル全てに現在の画像処理が適用されます。

画像処理の効果を変更するための不透明度スライダーが表示されます。

➲ 不透明度

このスライダーは、現在の効果の不透明度全体を調整します。効果が思ったより強すぎる場合、このスライダーを左に動かすと不透明度が下がります。

RGB

[チャンネル] プルダウンメニューから [RGB] を選択すると、赤、緑、青チャンネルに対する、現在の画像処理による効果を、個別スライダーを使用して別々に調整することができます。

➲不透明度 (赤チャンネル)

このスライダーは、画像の赤チャンネルに対する現在の効果の量を調整します。

スライダーを左に動かして、現在の効果が赤チャンネルに適用されないようにするか、または、他の２つのスライダーを左に移動させ現在の効果が赤チャンネルにのみ適用されるようにすることができます。

➲ 不透明度 (緑チャンネル)

このスライダーは、画像の緑チャンネルに対する現在の効果の量を調整します。スライダーを左に動かして、現在の効果が緑チャンネルに適用されないようにするか、または、他の２つのスライダーを左に移動させ現在の効果が緑チャンネルにのみ適用されるようにすることができます。

➲ 不透明度 (青チャンネル)

このスライダーは、画像の青チャンネルに対する現在の効果の量を調整します。スライダーを左に動かして、現在の効果が青チャンネルに適用されないようにするか、または、他の２つのスライダーを左に移動させ現在の効果が青チャンネルにのみ適用されるようにすることができます。

明るさと色

[明るさと色] は、画像の明るさまたは色のいずれかに対する現在の効果の量を調整できます。

[チャンネル] プルダウンメニューから [明るさと色] を選択すると、以下の２つのスライダーが表示されます。

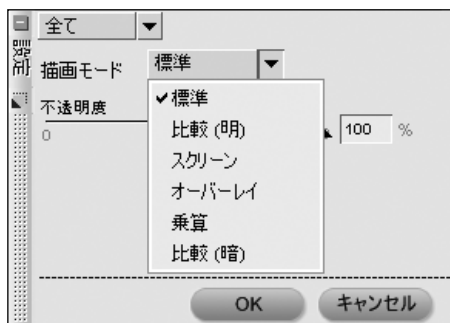
➲ 不透明度 (明るさチャンネル)

このスライダーは、画像の明るさに対する現在の効果の量を調整します。

このスライダーを左に動かすと画像の明るさに対する現在の効果の量が減少します。現在の画像処理が、確実に画像の色にのみ適用されるよう、この操作を行うことができます。

➲ 不透明度 (色チャンネル)

このスライダーは、画像の色に対する現在の効果の量を調整します。このスライダーを左に動かすと画像の色に対する現在の効果の量が減少します。色に対し効果が適用されないようにするには、このスライダーを0%にして、現在の処理を色に適用します。

■ 描画モード

[描画モード] プルダウンメニューから、すべてのチャンネルで利用可能な、さまざまな描画モードを選択することもできます。

描画モードは、現在の画像処理によって作成された画像を処理前の画像とブレンドさせる方法を決定します。描画モードは、現在の処理を画像に適用するための高度な方法です。使用可能な描画モードは、[標準]、[乗算]、[スクリーン]、[オーバーレイ]、[比較 (明)]、[比較 (暗)] です。

チャンネル、描画モード、不透明度を選択したら、[OK] をクリックして不透明度の効果を適用します。[キャンセル] をクリックすると不透明度が画像に適用されないようになります。

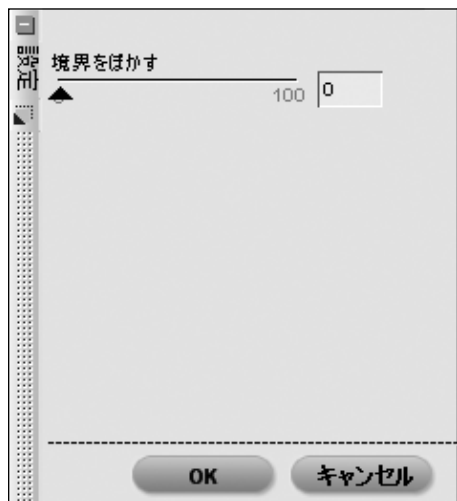
不透明度効果を無効にするには、不透明度の横にある [適用] チェックボックスのチェックを外します。

描画モードの結果	
標準	[標準] 描画モードは、画像処理を適用するための初期設定の描画モードです。全チャンネルで画像処理が 100%適用された場合、その結果は標準処理と見なされます。
乗算	[乗算] 描画モードは、結果画像のピクセルの情報を、元画像のピクセルの情報から除算するモードです。結果となる画像は、処理前の元画像よりも必ず暗くなります。
スクリーン	[スクリーン] 描画モードは、結果となる画像のピクセルの情報を、元画像のピクセルの情報まで増加させるモードです。結果となる画像は、処理前の元画像よりも必ず明るくなります。
オーバーレイ	[オーバーレイ] 描画モードは、結果となる画像のピクセルの情報を、元画像のピクセルの情報から加算または除算するモードです。Capture NXは結果となる画像の値に基づいて加算または除算するかどうかを決定します。128を上回る値は、最終画像の対応する部分を明るくしますが、128を下回る値は、最終画像の対応する部分を暗くします。値が128の場合は、最終画像は変更されません。
比較 (暗)	[比較 (暗)] 描画モードは、元画像の対応する部分よりも暗い要素にのみ、比較 (暗) の効果を適用するモードです。つまり、その処理によって暗くなる部分にのみ、画像処理が適用されます。
比較 (明)	[比較 (明)] 描画モードは、元画像の対応する部分よりも明るい要素にのみ、比較 (明) の効果を適用するモードです。つまり、その処理によって明るくなる部分にのみ、画像処理が適用されます。

選択範囲表示領域

選択範囲表示領域は、画像処理ステップ全てに表示されます。この領域は、現在の画像処理ステップが画像全体に適用されている場合は [全て選択] が表示されます。[一部を選択] が表示されている場合は、現在の画像処理ステップが選択ツールを使用して画像の一部に適用されています。[未選択] 表示されている場合は、現在の画像処理ステップが画像に適用されていないことを表しています。

表示メニューから [選択範囲の表示] を選択することで、現在のステップが適用される範囲を表示することができます。

境界のぼかし

[境界をぼかす] は、画像上に選択範囲が設定されると必ず表示されます。境界のぼかし機能を使用することで、選択ツールによる選択範囲の境界部分を滑らかにすることができます。境界部分を滑らかにすることで、選択過程で生じたノイズを低減できます。

境界のぼかし機能を使用するには、[選択範囲表示領域] 内の [境界をぼかす] の横にある ▶ ボタンをクリックします。これにより、[境界をぼかす] ダイアログが表示され、現在のステップの選択範囲に適用するぼかしの量を調整できます。

希望する結果が得られるまで、[境界をぼかす] スライダーを動かします。[境界をぼかす] スライダー内の設定値が高ければ高いほど、現在のステップによる選択範囲の境界部分の移行が滑らかになります。

[OK] をクリックして境界のぼかし効果を適用するか、または、[キャンセル] ボタンをクリックして効果をキャンセルします。

[OK] を選択した後、[選択範囲表示領域] 内の [境界をぼかす] の横にある [適用] チェックボックスのチェックを外して、境界のぼかし調整効果を無効にすることができます。

編集バージョンメニュー

元画像
最後に保存された状態
✔(最新)
編集バージョン 2
新規編集バージョン...
編集バージョンの編集...

画像調整後に編集バージョンを追加することにより、そのあとに別の画像調整を行った場合でも、編集バージョンを追加した時点の画像調整状態に戻すことができます。

編集バージョンの種類

Capture NXは、現在の画像のさまざまな処理結果が表示できるよう、初期設定で3種類の編集バージョンが用意されています。

■ 元画像

この編集バージョンは、開いている画像の編集バージョンポップアップメニューに常に表示されます。[元画像]で、Capture NX内で行われた全ての変更の前の状態の画像を表示します。NEF形式の場合、元画像編集バージョンは、Capture NX、Nikon Capture（マーカー）、PictureProject（マーカー）いずれかによる以前の画像調整における変更を含め、変更前の状態の画像を表示します。

■ 最後に保存された状態

この編集バージョンは、画像が保存されるとすぐに編集バージョンポップアップメニューに表示されます。この編集バージョンは、最後に保存された状態の画像を表示させます。

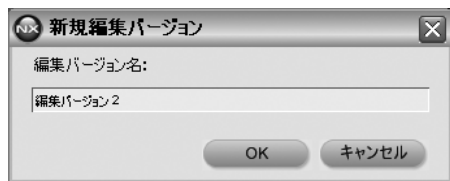
メモ：編集バージョンポップアップメニューからこのオプションを選択すると、最後の保存以降に行われた変更はすべて保持されますが、ファイルメニューから選択すると、最後の保存以降に行われた変更は全て削除されます。復帰機能に関して詳しくは、122ページを参照してください。

■（最新）

この編集バージョンは、保存後に変更が加えられ、違う編集バージョンに切り換えた際に一時的に利用可能になります。この編集バージョンを使用することで、ある状態に切り換えた後、切り換える前の状態に戻ることができます。また、ある状態から別の状態へと素早く切り換え、現在の画像に戻って違いをチェックすることができます。

編集バージョンの新規作成、編集

Capture NXでは、手動で編集バージョンを作成することもできます。手動で作成した編集バージョンは、行われた変更全てを含むエディットリストの現在の状態を保存するので、同一ファイル内に画像の複数の編集バージョンを作成することができます。Capture NXの元画像を損なわない編集機能という特徴により、さまざまな編集バージョンを作成し、ある編集バージョンから次の編集バージョンへと切り換え、これらの編集バージョンを今後使用するために保存することが可能です。

新規編集バージョン

編集バージョンを作成するには、ボタンをクリックして、ポップアップメニューから［新規編集バージョン］を選択します。新規編集バージョンの名前を入力して、［OK］をクリックします。新規編集バージョンは、編集バージョンメニューに表示され、表示されている画像のエディットリストの最新状態を表わすことになります。

■ 編集バージョンの編集

利用可能な編集バージョンを編集して、編集バージョン名を変更することや、現在のリストから編集バージョンを削除することが可能です。［編集バージョン］ポップアップメニューから［編集のバージョン］を選択して、［編集バージョン編集］ダイアログを表示します。

変更したい編集バージョンをクリックし、次に［名前の変更］または［削除］ボタンをクリックします。

バッチメニュー

エディットリスト内のバッチメニューは、メインバッチメニューと同じです。Capture NX内のバッチ機能の使用法について詳しくは、本章の「バッチ処理」および187ページのバッチメニューを参照してください。

新規ステップボタン

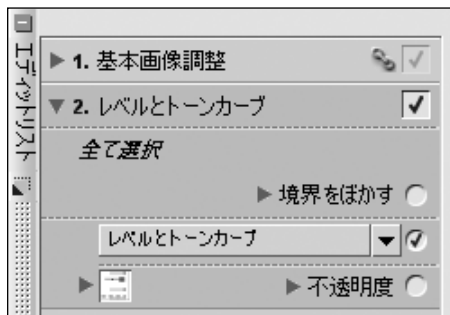
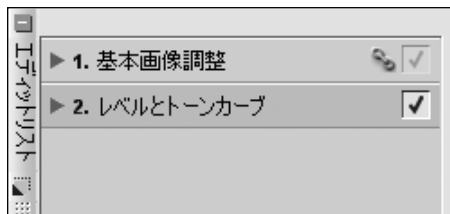
［新規ステップ］ボタンをクリックすると、新規画像処理ステップがエディットリスト内に作成されます。新しい一連の画像処理を開始するために、エディットリスト内に新しいステップを作成する場合は、このボタンをクリックします。

メモ：Capture NXは自動的に新規画像処理ステップを作成しますが、状況によっては［新規ステップ］ボタンが便利な場合があります。

画像処理ステップ

エディットリストでは、画像処理ステップの編集、削除、コピー、貼り付け、リンク、置き換えなどを行うことができます。

画像処理ステップを編集する

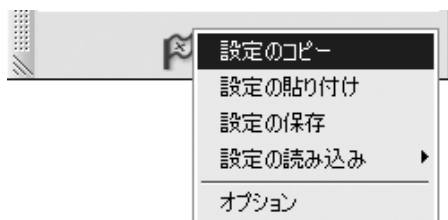
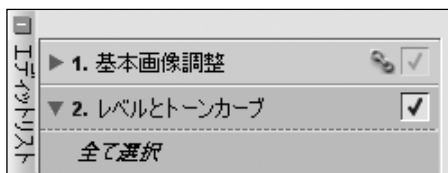
画像処理ステップを編集するには、まず、そのステップの横にある ▶ アイコンをクリックして、変更したいステップを開きます。これにより、ステップで適用された画像処理を含む、そのステップの内容が表示されます。画像処理をダブルクリックするか、変更したい画像処理の横にある、▶ ボタンをクリックします。変更対象の画像処理ステップの後に適用されたものは一時的に無効になり、Capture NXは変更対象の画像処理のコントロールまたはダイアログウィンドウを表示します。

画像処理を付加した場合と同じ方法で画像処理を変更します。変更したばかりの画像編集の後に追加された画像処理ステップを全て再適用するには、再適用する最後のステップの [適用] チェックボックスをクリックします。

画像処理ステップを削除する

画像処理ステップを削除するには、削除するステップをクリックして選択します。次に、[編集] メニューから [削除] を選択するか、キーボードの Deleteキーを押します。画像が更新され、この変更が反映されます。

画像処理ステップをコピーし貼り付ける

画像処理ステップを、ある画像からコピーして別の画像に貼り付けることも、同じ画像内で再度貼り付けることも可能です。まず、対象となる画像処理ステップを選択して、クリップボードにコピーする必要があります。

そのためには、コピーしたい画像処理ステップをクリックして選択します。

ヒント：複数の画像処理ステップを一度に選択するには、[Ctrl] (Windows) または [Command] (Mac OS) を押したまま、複数の画像処理ステップをクリックします。

また、画像処理ステップを範囲で選択することもできます。これには、コピーしたい最初の画像処理ステップをクリックし、次に [Shift] キーを押したまま、コピーしたい範囲の最後にある画像処理ステップを選択します。

画像処理ステップを選択したら、[バッチ] メニュー（メニューバーの [バッチ] メニューまたはエディットリストの [バッチ] メニュー）から [設定のコピー] を選択します。

これで画像処理ステップを貼り付ける準備ができました。コピーされた画像処理ステップを現在の画像に適用する場合を除き、その画像処理を貼り付ける対象の画像に移動し、バッチメニュー (メニュー

バーの [バッチ] メニューまたはエディットリストの [バッチ] メニュー) から [設定の貼り付け] を選択します。

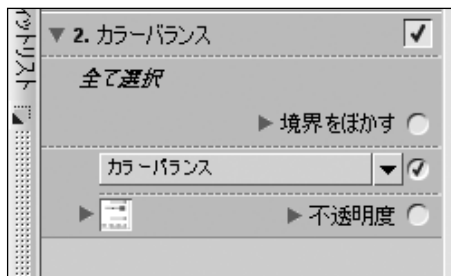
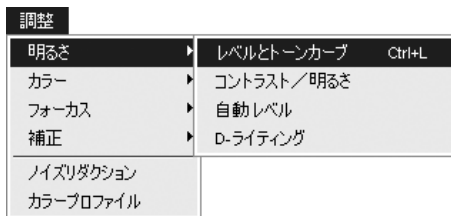
コピーされた画像処理ステップは、エディットリスト内の現在の画像処理の後ろに貼り付けられます。

基本画像調整をコピーして貼り付けることもできます。基本画像調整特有の性質上、1つの画像に、複数の基本画像調整を作成することも、基本画像調整内に同じ画像調整を複数作成することもできません。基本画像調整をコピーして貼り付けると、貼り付け先の画像にすでに存在する内容は、コピー元画像の基本画像調整の内容に置き換えられます。基本画像調整全体が上書きされないようにするには、コピー＆貼り付けする基本画像調整から画像処理を個別に選択します。

画像処理をリンクする

エディットリストで画像処理をリンクさせることで、1つのステップ内で複数の画像処理に適用することができます。初期設定では、各画像処理は個々のステップに適用されます。同一画像処理ステップ内で複数の画像処理をリンクさせることで、各画像処理が、そのステップに適用された同じ選択操作を利用できるようになります。

画像処理のリンクを作成するには、[Shift] キーを押したまま、調整メニューまたはフィルタメニューから別の画像処理を選択します。

メモ：同一ステップ内において、いくつでも画像処理をリンクできますが、同一ステップ内で適用される画像処理の数が多ければ多いほど、Capture NXによる画像処理の結果表示が遅くなる可能性があることにご注意ください。

ステップ 1. 画像調整を行います。

ステップ 2. シフトキーを押しながらリンクさせるメニューを［調整］または [フィルタ] メニューから選択します。

ステップ 3.　選択した画像調整が現在の画像処理ステップにリンクされ、同じステップで 2 つの画像調整が行われます。

画像処理の置き換え

[調整] メニューおよび [フィルタ] メニューのどの画像処理も、調整メニューまたはフィルタメニューに表示されている別の項目と置き換えることができます。

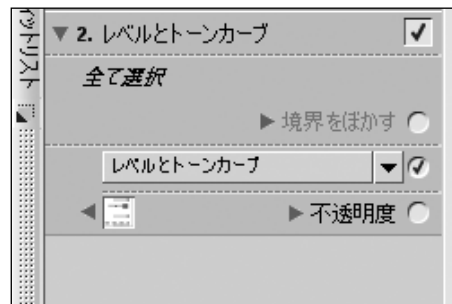
すでに適用された画像処理を置き換えるには、[調整を選択] プルダウンメニューをクリックします。現在の画像処理が最上部に表示され、調整メニューとフィルタメニューの両方の内容とも現在の画像処理の下に表示されます。

メニューから別の画像処理を選択すると、現在の画像処理が置き換えられます。

これが特に便利なのは、選択範囲を作成し、画像処理ステップに画像処理を適用した後、その選択範囲によって指定される領域内で、別の画像処理がどのように画像に反映されるかを見る場合です。

例えば、画像内の空にあたる部分を選択し、[レベルとトーンカーブ] 調整を選択した後、[レベルとトーンカーブ] 調整を [カラーバランス] 機能に置き換えたい場合などです。これにより、画像処理で望む結果が得られなかった場合でも、選択を再利用することができるので時間が節約できます。

ステップ 1. [調整を選択] プルダウンメニューをクリックして置き換える画像処理を選択します。

ステップ 2. 利用可能な画像処理のリストから適用する新規画像処理を選択します。

ステップ 3. 選択された新規の画像処理がエディットリスト内に表示されます。

ツールバー F2 - 表示ツール

これらのツールを使用して、画像の表示方法を調整・変更することが可能です。このツールバーは、ショートカットキー [F2] を用いて簡単に表示/非表示の切り換えが行えます。

選択ツール

選択ツールを使用すると、Capture NX 上の異なる画像やコントロールポイントなどを複数選択することができます。

[Ctrl] (Windows) または [Command] (Mac OS) キーを押しながら画像やコントロールポイントなどを選択することで、複数の画像やコントロールポイントなどを選択できます。

また、ある範囲の最初の画像やコントロールポイントをクリックし、次に [Shift] キーを押したまま、その範囲の最後の画像やコントロールポイントをクリックすることにより、その間の画像やコントロールポイントなどを選択することもできます。

コントロールポイントを選択するには、イメージウィンドウ内をクリックし、境界ボックスを描画すると、境界ボックス内のコントロールポイント全てが選択されます。

以下の種類の画像やポイントなどが選択できます。

- コントロールポイント
- ブラウザー上の画像
- エディットリスト内の画像処理ステップ

メモ：同時にひとつの種類しか選択できません。

ショートカットキー：[A] キー

手のひらツール

手のひらツールを使用すると、イメージウィンドウやブラウザーウィンドウをスクロールすることができます。現在のウィンドウよりも大きなイメージウィンドウやブラウザーウインドウを表示する場合、このツールを選択します。ドラッグして、ウィンドウをスクロールします。

ヒント：画像全体がイメージウィンドウ内に収まるようにサイズ変更するには、このツールアイコンをダブルクリックします。

ヒント：他のツールがどれか選択されている時に、スペースバーを押すと、一時的に手のひらツールに切り替わります。

ショートカットキー：[H] キー

ズームツール

ズームツールを使用することで、画像を拡大縮小することができます。画像を拡大表示するには、このツールを選択して画像をクリックします。縮小表示するには、[Alt] (Windows) または [Option] (Mac OS) キーをクリックします。

ヒント：現在の画像を100%の拡大率で表示するには、 アイコンをダブルクリックします。

ショートカットキー：[Z] キー

別のツールが選択されている時の拡大表示：

[Ctrl] + [スペース] キー (Windows)

[Command] + [スペース] キー (Mac OS)

別のツールが選択されている時の縮小表示：

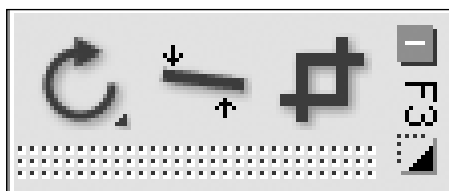
[Ctrl] + Alt + [スペース] キー (Windows)

[Command] + Option + [スペース] キー (Mac OS)

ツールバー F3 – 編集

このツールバーには、画像におおまかな調整を行うのに使用するツールが含まれています。ショートカットキー [F3] を使用して、このツールバーの表示/非表示を簡単に切り換えることができます。

ブラウザー内で複数の画像を選択して、次にこのボタンをクリックすることにより、複数の画像を同時に回転させることができます。

画像を回転させることで、エディットリスト内に画像処理ステップが作成され、以降いつでもこの回転を取り消すことができます。画像をNEF形式で保存すると、画像を保存して閉じた後でも、回転を取り消すことができます。

回転

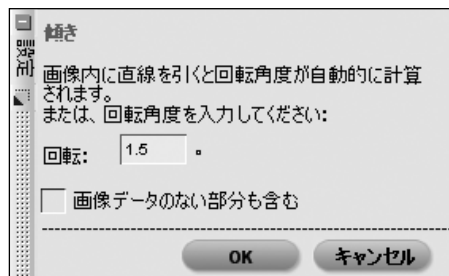
回転ツールは、画像を90度時計回りまたは反時計回りに回転します。画像を90度時計方向に回転するには、このボタンをクリックします。画像を90度反時計方向に回転するには、[Alt] (Windows) または [Option] (Mac OS) キーを押しながらこのボタンをクリックします。90度時計方向から、90度反時計方向に向きを変えるには、ツールバーのボタンをクリックしたまま、表示されるツールから選択します。

ショートカットキー：

時計方向へ 90度回転：
Ctrl + R (Windows)
Command + R (Mac OS)

反時計方向へ 90度回転：
Ctrl + Shift + R (Windows)
Command + Shift + R (Mac OS)

傾き

このボタンを選ぶと、[傾き] ダイアログが表示されます。[傾き] ダイアログでは、傾きの角度を入力して時計回りまたは反時計回りに画像を回転させるか、または水平または垂直の線を引くことで、画像の傾きを自動的に補正することができます。ブラウザーで画像を編集している間は、[傾き] は利用できません。

[傾き] ダイアログが表示されたら、画像内で水平線または垂直線を引くことで基準線を指定するか、または角度を数値で入力して、画像の傾きを補正することができます。水平線または垂直線を引くには、画像をクリックした後、傾きを補正する方向にマウスをドラッグします。基準線の開始点と終了点にアンカーポイントが表示されます。アンカーポイントのどちらかをクリックして更に細かく調整することで、回転角度を細かく調整することができます。何度回転させるか分かっている場合、[傾き] ダイアログに角度を入力します。プラスの数値を入力すると、時計方向に画像が回転し、マイナスの数値を入力すると、反時計方向に画像が回転します。

[傾き] ダイアログで、画像全体を表示させるかどうか選択することができます。初期設定では、Capture NXは、画像情報のない部分が表示されないよう縦横比を保ちつつ自動的にクロップします。画像を回転させることにより画像情報のない領域が生じますが、この部分は白のピクセルで表示されます。画像データのない部分も全て表示するにはこのボックスをチェックします。

画像の傾きを調整すると、エディットリスト内に画像処理ステップが追加され、以降この傾きを削除または変更することができます。画像をNEF形式で保存すると、画像を保存し閉じた後でも、傾きを削除または変更することができます。

クロップ

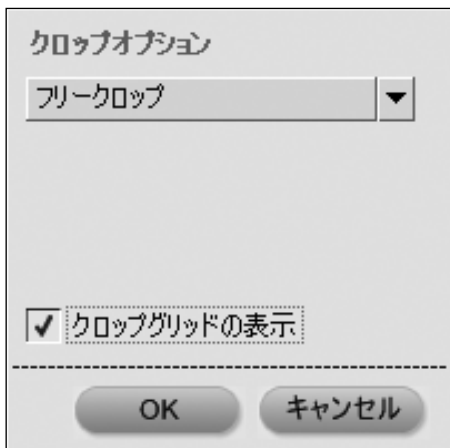
クロップツールを使用することで、画像を切り抜くか、画像の縦横比を変更することができます。ブラウザーで画像を編集している間は、[クロップ] ツールは利用できません。

このツールを選択後、画像を切り取るようにドラッグすることで、長方形を描画します。この長方形は、画像をクロップした後に保持される画像の領域を示しています。

この領域を調節するには、8つのアンカーポイントのいずれかをクリックして、希望する領域になるまでドラッグします。選択領域をクロップするには、長方形内のどこかをダブルクリックするか、[Enter] キーを押します。クロップ操作をキャンセルするには、選択領域外のどこかをクリックするか、[Esc]キーを押します。

画像をクロップすると、エディットリスト内にステップが追加され、後でこのクロップ効果を削除することができます。画像をNEF形式で保存すると、画像を保存して閉じた後でも、クロップ効果を削除することができます。

ショートカットキー：[C] キー

クロップオプションダイアログ

編集過程のどの時点でも、クロップオプションツールを呼び出してクロップツールの処理方法を変更することができます。クロップオプションを表示するには、アイコンをダブルクリックするか、クロップツールを選択した後、画像内をどこか右クリック (Windows) または [Control] クリック (Mac OS) します。

■ クロップの種類

- **フリークロップ**

  このクロップ方法では、クロップ用四角形を自由に作成することができます。

- **縦横比優先**

  この方法では、あらかじめ設定された縦横比から選択するため、最終画像のサイズを簡単に指定することができます。また、縦横比の値を任意に入力することもできます。

  あらかじめ設定されたクロップの縦横比を選択して画像をクロップすると、

画像のサイズは、設定されたクロップ縦横比に一致します。クロップした後も画像は補間されませんが、出力サイズはあらかじめ設定されたクロップのサイズとなり、指定されたサイズに画像を合わせるように出力解像度（dpi）が変更されます。

■ クロップグリッドの表示

[クロップグリッドの表示]チェックボックスをチェックすると、同一サイズの９個の長方形グリッドがクロップ用長方形内の画像の上に重ねて表示されます。クロップグリッドは、画像のクロップ作業の補助として役立つよう設計されています。また、クロップモードで［Alt］キー（Windows）または［Option］キー（Mac OS）を押すことで、一時的にこのグリッドを画像に重ねて表示させることができます。クロップグリッドは、写真の「三分割法」に基づき、４本の線が交差する付近に、焦点を当てる主要な対象物が配置されるようクロップためのガイドとして活用できます。また、グリッドによって地平線や大きな構造物など画像内の自然な水平線や垂直線がわかりやすくなり、このような線を４本の線のうちの１本の近くに置くと効果的であることがよくあります。

ツールバー F4 – ブラック、ホワイト、ニュートラルコントロールポイント

このツールバーには、ブラックコントロールポイント、ホワイトコントロールポイント、ニュートラルコントロールポイントの３つのコントロールポイントがあり、画像の階調と色を調整できます。これら３つのコントロールポイントを使用して、画像の階調や色を調整するだけでなく、その効果を調整、移動、取り消したりすることができます。このツールバーは、ショートカットキー [F4] を用いて、簡単に表示/非表示を切り換えることができます。

ブラックコントロールポイント

ブラックコントロールポイントは、画像上に直接配置することで、対象の色を黒にするだけでなく、画像の暗い階調を中間色化します。ブラウザーを開いている間は、[ブラックコントロールポイント]は利用できません。

ブラックポイントは通常、画像の最も暗い部分に設定し、画像のダイナミックレンジの一端を設定するために使用します。画像情報にある２階調化機能は、画像の最も暗い部分と最も明るい部分を見つけるのに役立ちます。２階調化機能の利用方法に関して詳しくは、106ページを参照してください。ブラックコントロールポイントは、ホワイトコントロールポイントと共に使用されることがあります。

これによって生じる色の変化は、画像全体に影響します。

ブラックコントロールポイントについて詳しくは、169ページを参照してください。

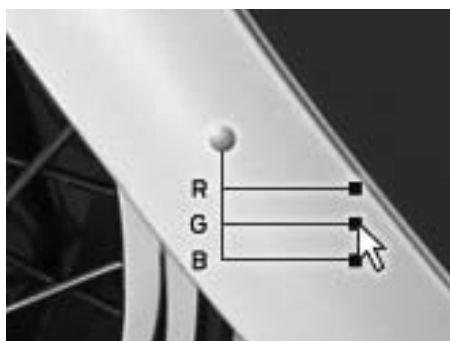
ホワイトコントロールポイント

ホワイトコントロールポイントは、画像に直接配置することで、対象の色を白にしますが、これは、画像の明るい階調から色かぶりを除去する場合の最初のステップです。ブラウザーを開いている間は、[ホワイトコントロールポイント] は利用できません。

ホワイトポイントは通常、画像の最も明るい部分に配置し、画像のダイナミックレンジの一端を設定するために使用します。画像情報にある 2 階調化機能は、画像の最も暗い部分と最も明るい部分を見つけるのに役立ちます。2階調化機能の利用方法に関して詳しくは、106ページを参照してください。ホワイトコントロールポイントは、ブラックコントロールポイントと共に使用されることがあります。

これによって生じる色の変化は、画像全体に影響します。

ホワイトコントロールポイントについて詳しくは、171ページを参照してください。

ニュートラルコントロールポイント

ニュートラルコントロールポイントは、対象色を中間色にすることにより、画像の色かぶりを除去します。ブラウザーを開いている間は、[ニュートラルコントロールポイント] は利用できません。

初期設定では、ニュートラルコントロールポイントは、赤・緑・青の値がそれぞれ同じ値になるよう、対象色の色値を変更します。ある色の赤・緑・青の値を等しくすると、その色は、中間色つまりグレーになります。画像が基準用のニュートラルポイント (例えばグレーカード) を含む画像であれば、彩度をなくす操作が役立つ場合があります。ニュートラルであるとはっきりしている画像の部分を選択することにより、Capture NXはその部分と現在の色との相違を計算します。ニュートラルコントロールポイントは、

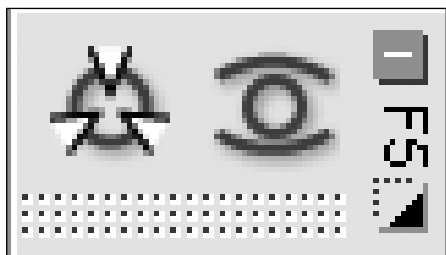
対象物を含め、画像全体から、色のその相違を取り除きます。

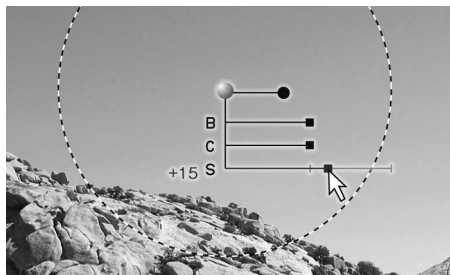
これによって生じる色の変化は、画像全体に影響します。

メモ：初期設定では、ニュートラルコントロールポイントは、画像の輝度に影響せず、画像内の色の相互関係に影響するだけです。

ニュートラルコントロールポイントの機能について詳しくは、173ページを参照してください。

ツールバー F5 – カラーコントロールポイント、赤目補正コントロールポイント

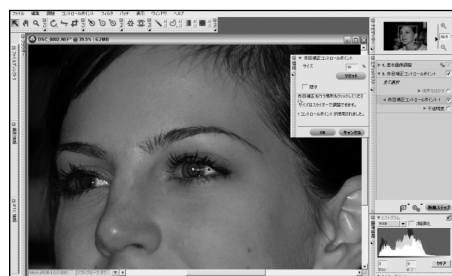
このツールバーには、画像の色や明るさを簡単に調整できるカラーコントロールポイントが含まれています。このツールバーは、ショートカットキー [F5] を用いて、簡単に表示/非表示を切り換えることができます。

カラーコントロールポイント

カラーコントロールポイントは、画像の色と明るさを調整する機能です。それぞれのカラーコントロールポイントは、選択範囲の設定やマスクを作成することなく、選択された範囲に対し高度な色の処理を行うことが可能になります。ブラウザーを開いている間は、[カラーコントロールポイント] は利用できません。

画像内の調整部分に置かれた各カラーコントロールポイントは、細部の明るさだけでなく、色の特性を識別し、調整部分の色を調整できるようにします。サイズスライダーを用い、カラーコントロールポイントから離れた調整部分の類似の色にも反映されるよう、現在のコントロールポイントの有効範囲つまりサイズを変更することができます。コントロールポイントは追加されるたびに他のコントロールポイントと一緒に機能するので、それだけ細かく色を調整することができるようになります。コントロールポイントを加えることにより、調整が特定の調整部分にのみ正確に適用されるようになります。

初期設定のコントロールポイントを調整部分に配置すると、他のコントロールポイントがその調整部分に影響しないようになります。

カラーコントロールポイントの機能の詳しい説明については、167ページを参照してください。

ショートカットキー：
Ctrl + Shift + A (Windows)
Command + Shift + A (Mac OS)

赤目補正コントロールポイント

赤目補正コントロールポイントは、フラッシュ撮影によって起きることがある赤目現象を補正することができます。赤目補正コントロールポイントを選択し、赤目となっている部分を指定します。赤目補正コントロールポイントは、ブラウザーを開いている間は利用できません。

サイズスライダーを動かし、赤目補正コントロールポイントの効果の適用範囲を調整します。

[隠す] によって、赤目補正コントロールポイントの効果が一時的にキャンセルされるので、画像に対する赤目補正コントロールポイント効果を処理前、処理後と比較して見ることができます。右クリック（Windows）または［Control］（Mac OS）を押してクリックして［コントロールポイントを隠す］を選択することにより、赤目補正コントロールポイントの [隠す] を簡単に有効にすることができます。

ツールバー F6 – 選択ツール

このツールバーには、Capture NXで利用可能な画像調整を選択範囲に適用するための選択ツールが含まれています。このツールバーは、ショートカット [F6] を用いて、簡単に表示/非表示を切り換えることができます。

[Alt] (Windows) または [Option] (Mac OS) キーを押したままにすることで一時的にこのツールに切り換えることができます。

選択ブラシ

選択ブラシは、処理を行った画像に対し、ブラシを用いることで効果を強調したり、低減したりできます。ブラウザーで画像を編集している間は、[選択ブラシ] ツールは利用できません。

選択ブラシを選択し、適用する画像処理ステップを指定した後、プラスブラシまたはマイナスブラシを指定します。

プラスブラシは、画像処理を画像に加えます。現在の画像処理ステップが画像全体にすでに適用されている場合、プラスブラシを選択してペイントすることで、画像から現在の画像処理ステップの効果を一旦取り消し、プラスブラシでペイントしている領域にのみ効果を適用することができます。このツールに切り換えるには、ツールバーから選択ブラシツールを選択した後に [+] キーを押すか、または、マイナスブラシが選択された状態で

元の画像

最終画像

ステップ1. 明るさ/コントラスト処理を画像に適用し、次にプラスブラシで花の部分のみペイントします。

ステップ1. 選択されている範囲

ステップ2. 次にマイナスブラシで背景に適用された処理を取り除きます。.

ステップ2. 選択されている範囲

マイナスブラシで、現在の画像処理ステップの効果を部分的に画像から削除することができます。このツールに切り換えるには、ツールバーから選択ブラシを選択した後に [-] キーを押すか、または、プラスブラシが選択された状態で [Alt] (Windows) または [Option] (Mac OS) キーを押したままにすることで一時的にこのツールに切り換えることができます。

ヒント: 他の画像処理をまだ含んでいない新規画像処理ステップ内で最初の画像処理を行う前にこのツールを選択することも可能です。この場合、画像全体に色を付ける [カラー化する] という機能が自動的に有効になります。その後、[調整を選択] プルダウンメニューから他の画像処理を選択することで、[カラー化する] を他の画像処理に置き換えることができます。 エディットリスト内の画像処理の置き換えについて詳しくは、74ページを参照してください。

ショートカットキー :[B] キー

選択ブラシオプションダイアログ

[選択ブラシオプション]ダイアログを表示するには、アイコンをダブルクリックするか、選択ブラシを選択した後、画像内を右クリック (Windows) または [Control] クリック (Mac OS) します。

■ サイズ

このスライダーを調整することで、ブラシのサイズを拡大/縮小できます。

ショートカットキー :

ブラシサイズの縮小:[
ブラシサイズの拡大:]

■ ブラシの硬さ

このスライダーを調整することで、柔らかいブラシから硬いブラシまで、ブラシの形状を変更することができます。

ショートカットキー

ブラシを柔らかく:Shift + [
ブラシサイズを硬く:Shift +]

■ 不透明度

このスライダーを調整することで、適用されるブラシの不透明度を調整します。この数値を増やすと、プラスブラシの場合は画像に加えられる画像処理の程度が大きくなり、マイナスブラシの場合は画像から取り除く画像処理の程度が大きくなります。

ショートカットキー:1～2桁の数字

メモ: 1桁、または2桁の数字を入力すると、[選択ブラシオプション] ダイアログの不透明度を設定することができます。1桁の数字 (0～9) には、不透明度が10%単位で割り当てられています(1=10%、2=20%...0=100%)。2桁の数字を入力すると、1%単位で不透明度を入力できます(55と入力すると55%に、06と入力すると6%に設定されます)。

■ 筆圧調整

このプルダウンメニューでは、ペンタブレットのような筆圧感知型入力装置を使用している場合ブラシの筆圧を調整することができます。

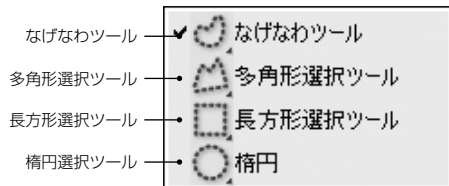
➲ しない – 筆圧感知型入力装置を使用している場合に、ブラシのサイズも不透明度も変更されないようにします。

➲ 不透明度 – 筆圧感知型入力装置を使用している場合、ブラシの不透明度を調整します。

➲ サイズ – 筆圧感知型入力装置を使用している場合、ブラシのサイズを調整します。

➲ 不透明度とサイズ – 筆圧感知型入力装置を使用している場合、ブラシのサイズと不透明度を調整します。

なげなわと選択ツール

- なげなわツール
- 多角形選択ツール
- 長方形選択ツール
- 楕円選択ツール

なげなわと選択ツールは、画像処理が反映される場所を限定するための選択範囲を画像上に作成します。範囲を選択した後、塗りつぶし/削除ツール（100ページ）を使用して画像処理の効果を適用します。なげなわと選択ツールによって作成された選択範囲は、別の選択ツールが適用される場所を限定することもできます。これらのツールは、ブラウザーで画像を操作している間は利用できません。

なげなわと選択ツールは4種類あります。この4つの選択ツールから選ぶには、ツールバーのボタンをクリックしたまま、表示されるツールから選択します。

なげなわツールが初期設定で、これを利用して、画像上に自由に選択範囲を作成することができます。

多角形選択ツールを使用すると、直線を接続して、直線の辺を持つ選択範囲を描画できます。各接続点にはアンカーポイントが作成され、これらのアンカーポイントを移動させることにより選択範囲を変更することができます。

メモ: 選択範囲をさらに設定すると、これらのアンカーポイントが削除されます。

長方形選択ツールを使用すると、長方形の選択範囲を作成できます。

選択範囲を正方形にするには、作成開始後に [Shift] キーを押します。

角からではなく中心から選択範囲を作成するには、[Alt] (Windows) または [Option] (Mac OS) キーを押した状態で作成します。

楕円選択ツールでは、楕円形の選択範囲を作成できます。

選択範囲を円にするには、作成開始後に [Shift] キーを押します。

始点を基準ではなく中心から選択範囲を作成するには、[Alt] (Windows) または [Option] (Mac OS) キーを押した状態で作成します。

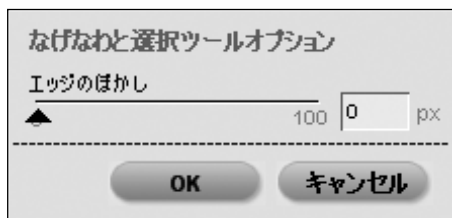
使用する [なげなわと選択ツール] を選択した後、+ または − アイコンをクリックして、プラス/マイナスを切り換えることができます。+ を選択すると選択した範囲の内側に効果が適用され、− を選択すると選択した範囲の効果を削除します。

なげなわと選択ツールで選択範囲を設定し、別の選択ツールのどれかを使用して変更することができます。

選択範囲を完全に解除するには、範囲外のどこかをダブルクリックします。

ショートカットキー :[L] キー

なげなわと選択ツール

オプションダイアログ

[なげなわと選択ツール]ダイアログを表示するには、ツールバー内のツールをダブルクリックするか、[なげなわと選択ツール]を選択した後に画像内で右クリック (Windows) または [Control] クリック (Mac OS) します。

■ エッジのぼかし

[エッジのぼかし]では、なげなわと選択ツールで作成した選択範囲のエッジをぼかすことができます。

選択範囲グラデーション

[選択範囲グラデーション]ツールは、選択範囲の境界上の画像処理効果にグラデーションをかけることができます。ブラウザーで画像を編集している間は、[選択範囲グラデーション]ツールは利用できません。

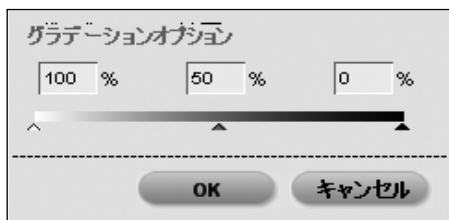
最初に、プラス + またはマイナス − のグラデーションをいずれか選択します。[Alt] (Windows) または [Option] (Mac OS) キーを押すと、一時的に切り替わります。プラスのグラデーションは、既に適用されている選択範囲にグラデーションを付加し、マイナスのグラデーションは、既に適用された選択範囲からグラデーションを削除します。

グラデーションを適用するには、画像上でドラッグして線を引きます。最初にクリックした点がグラデーションの開始点となり、マウスを離した地点がグラデーションの終点となります。2点間の距離は、グラデーションの変化を定義し、垂直および水平の差は角度を定義します。

グラデーションが一旦設定されたなら、2つの端いずれかをドラッグすることにより、グラデーションを調整できます。

画像に複数のグラデーションを適用することができますが、グラデーションを加えると、前のグラデーションのアンカーポイントにはアクセスできなくなります。

ショートカットキー :[G] キー

グラデーションツール

オプションダイアログ

[グラデーションツール] を表示するには、ツールバー内の アイコンをダブルクリックするか、または [グラデーションツール] の選択後、画像内で右クリック (Windows) または [Control] クリック (Mac OS) します。

■ グラデーションの範囲

このスライダーで、グラデーションの値をあらかじめ設定することができます。数値は、不透明度のパーセントを表し、グラデーションの最大、最小、中間値を設定できます。中間点を調整することにより、中間点の一方ではグラデーションが速く、他方ではゆっくりとなるようにすることが可能です。

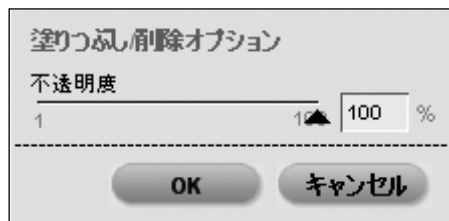
塗りつぶし/削除ツール

塗りつぶし/削除ツールは、画像全体または選択範囲内の一部分を、現在の効果で適用するか、削除することができます。塗りつぶし/削除ツールは、ブラウザーで画像を編集している間は利用できません。

現在の画像処理ステップの効果で画像または選択範囲を塗りつぶすには、+ アイコンをクリックします。現在のステップの効果を画像または選択範囲から削除するには、− アイコンをクリックします。

塗りつぶし/削除オプションダイアログ

[塗りつぶし/削除] はツールバー内の アイコンをダブルクリックすると表示されます。

■ 不透明度

[不透明度]スライダーを調整することで、塗りつぶし/削除ツールが現在の画像処理ステップにおよぼす効果の程度を100%から 0%まで調整します。100%未満の値の場合、[塗りつぶし] または [削除] ボタンのどちらをクリックしても、その効果で完全に塗りつぶされることも、効果が完全に削除されることもありません。これにより、低い割合で現在のステップから削除したり、現在のステップに加えることが可能になります。

ナビゲーター

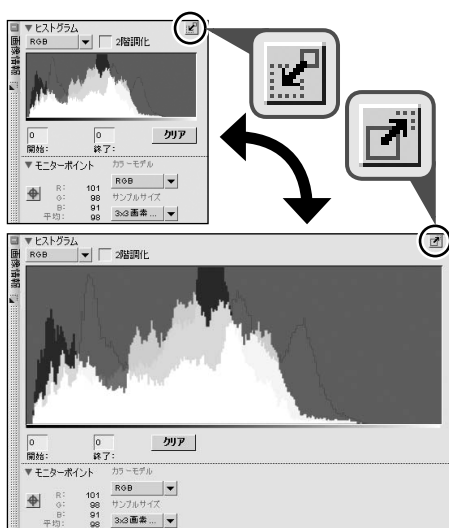
ナビゲーターパレットを使用することにより、イメージウィンドウに表示されている画像が画像全体のどの部分であるかを見ることができます。この機能は、画像を拡大してイメージウィンドウに画像全体が表示されない場合は便利です。

全体画像の縮小画像がナビゲーターパレットに表示され、イメージウィンドウに表示されている画像部分が、赤い枠で表示されます。赤い枠をドラッグすることで、イメージウィンドウに表示されている画像部分を変更できます。

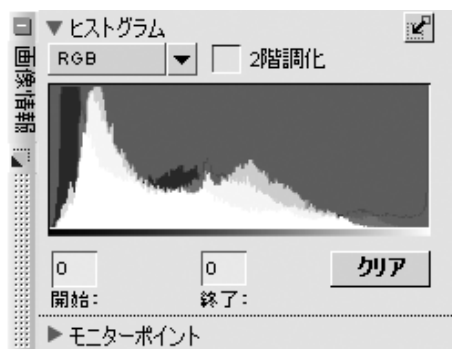
ナビゲーターパレット上で画像を拡大あるいは縮小するには、 ボタンまたは ボタンをクリックするか、ズームバーを動かすか、テキストボックスに拡大率を直接入力します。

ブラウザーで作業中のときは、ライトテーブル表示モードに設定されている場合のみ、ナビゲーターパレットを利用することができます。ライトテーブル表示モードでは、画像を表す小さな長方形の枠が表示され、ライトテーブル上におけるブラウザーの現在位置を示します。赤い枠をドラッグすることにより、ブラウザー上に表示されるライトテーブルの部分を変更することができます。

画像情報

画像情報パレットは、画像に関する重要な情報をリアルタイムで表示します。画像情報表示では、現在の画像のヒストグラムとモニターポイントの両方へアクセスできます。

画像情報パレットが最小化されている場合、 ボタンをクリックして表示させます。モニターポイントとヒストグラムの両方に、[表示/非表示] 三角形があり、内容を隠すか表示することができます。初期設定では、画像情報パレットは、画像情報パレットのヒストグラム部分のみ表示します。

/ ボタンをクリックすると、画像情報パレットの表示サイズを切り換えることができます。

ヒストグラム

ヒストグラムパレットは、現在のウィンドウのレベル分布のヒストグラムをリアルタイムで表示します。

ヒストグラムは、輝度レベルごとに表示されたピクセルの合計数のグラフです。水平軸は輝度レベルを表し、垂直軸は画像内の各輝度レベルごとのピクセル数を表します。水平軸上で左は、画像の最も暗い階調を表し、右は画像の最も明るい階調を表します。

チャンネルプルダウンメニューを使用して、画像のさまざまな構成要素から、ヒストグラムで表示するものを選択することができます。初期設定では、3つのチャンネル（赤・緑・青）がすべて表示されます。

3つのチャンネルがすべて表示されている時、赤・緑・青ヒストグラムは、相互に重なり合って表示されます。ヒストグラムが重なる所には、白色が表示されます。白い領域は、3つの色のピクセル数が全て同じであることを示しています。

また、赤、緑、青ヒストグラムは、個別に表示することも選択できます。

ヒストグラムのある領域を選ぶと、選択された範囲のピクセルがイメージウィンドウ内で点滅します。範囲を選択するには、マウスをヒストグラム表示上でドラッグします。選択をキャンセルするには、[クリア]をクリックします。[開始]および [終了] テキストボックスに、それぞれ対応するピクセル値を入力することで、この範囲の開始値と終了値を指定することもできます。

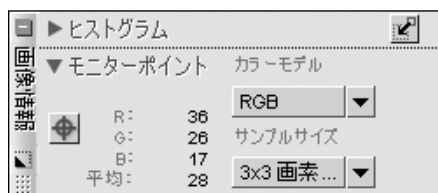
メモ：チャンネル範囲の値は0から255までで、16ビット画像の値はこの範囲に収まるよう調整されています。

2階調化

[2階調化] 機能を用いると、画像内で最も暗い色と明るい色を表示することができます。このチェックボックスをチェックすると、2階調化機能が有効になります。これにより、ヒストグラムウィンドウの下に2つのスライダーが表示され、画像全体がニュートラルグレーになります。2つのスライダーをヒストグラムウィンドウの中央へ向かってドラッグすることで、画像のピクセル値が表示されます。シャドースライダーを右に向かって動かすと、暗いピクセルが表示されます（背景上の黒いピクセル

として表示されます)。ハイライトスライダーを左に向かって動かすと、明るいピクセルが表示されます(背景上の白いピクセルとして表示されます)。

この機能は通常、ホワイトポイントやブラックポイント（コントロールポイントやレベルとトーンカーブ機能のポイントどちらのポイントでも）を配置するために、最も明るい部分と最も暗い部分を見つけるために使用されます。数個のピクセルが表示されるまでスライダーを中央へ向かってドラッグし、次に、近接した部分にピクセルのかたまりの存在する対応領域にホワイトポイントまたはブラックポイントを配置することを推奨します。

モニターポイント

画像情報パレットのモニターポイントは、マウスポインターの置かれたピクセルの色を表示します。

モニターポイントでは、以下のコントロール機能が提供されます。

モニターポイント作成ボタン

ボタンをクリックすることで、画像にモニターポイントを最大4つまで付加できます。このボタンをクリックすると、マウスカーソルがモニターポイントに変わり、直接画像上に配置することが可能になります。モニターポイントを配置した場所にはモニターポイントアイコンが表示され、画像情報パレットでは選択されたピクセルの色が常時モニターされます。

ドラッグすることで、画像上に置かれたモニターポイントを移動することができます。画像情報パレット内にある削除したいモニターポイントの ボタンをクリックすることで、モニターポイントを削除することができます。

カラーモデル

このプルダウンメニューを使用すると、モニターポイントを配置したピクセル情報を表示するために使用されるカラーモデルを選択することができます。RGB、HSBのカラーモデルから選択することができます。

サンプルサイズ

マウスポインターの下にある色と各モニターポイントにおける色のサンプリングに使用されるピクセル数を変更します。

- [1画素]では、1ピクセルのみサンプリングします。これは、色を選択する際非常に厳密に特定の色の1画素を目標とする場合便利です。
- [3x3画素平均]は、縦横3ピクセルの合計9個のピクセルをサンプリングし、各ピクセルの色の平均値を表示します。画像の各部分は一般的にわずかに異なる色で構成されていますので、[3x3画素平均]を選択すると、目標領域の色のより正確な描写が可能になります。

➲[5x5 画素平均] は、縦横5ピクセルの合計25個のピクセルをサンプリングし、各ピクセルの色の平均値を表示します。高解像度画像には、[5x5 画素平均] を推奨します。

メモ：チャンネル範囲の値は0から255までで、16ビット画像の値はこの範囲に収まるよう調整されています。

イメージウィンドウ

イメージウィンドウは、画像および、画像処理に役立つ重要なデータを表示するウィンドウです。イメージウィンドウは、Capture NXが全画面表示モードでない限り表示されます。「ファイル名」、「拡大率」、「ファイルサイズ」などが表示されていない場合は、表示メニューの［全画面表示］を選択するか、[F] キーを押して、全画面モードを終了します。

イメージウィンドウ

1 ファイル名　2 拡大率　3 ファイルサイズ　4 カラープロファイル　5 ソフトプルーフ

イメージウィンドウには、重要な画像情報が表示されています。

1 ファイル名

現在の画像のファイル名です。

2 拡大率

[拡大率] は、画像の現在の拡大率を表します。100%以上の場合、実際の画像データを見ていることになり、100%未満の場合、色が間引かれた画像を表示していることになります。ズームツールまたはナビゲーターパレットを使用して拡大、または縮小します。

3 ファイルサイズ

画像のファイルサイズが表示されます。

4 カラープロファイル

カラープロファイルエリアには、現在画像に適用されているプロファイルが表示されます。 カラープロファイルは、調整メニューの [カラープロファイル] 機能で変更できます。カラープロファイル機能については、163ページで説明しています。

5 ソフトプルーフ

ソフトプルーフ機能は、画像上で出力プロファイルの効果をプレビューでき、これにより、プリンターによる印刷結果がどうなるか予想することができます。ソフトプルーフ機能により、異なるプロファイルの使用結果をプレビューすることが可能です。また、使用するカラーマネージメントシステムに対し異なるパラメーターを用いるよう設定することもできます。

■ 目標プロファイル

リストからカラープロファイルを選択してカラーマネージメントシステムの結果をプレビューし、異なるカラーマネージメント設定が画像にどのように反映されるかを見ることができます。

■ マッチング方法

[マッチング方法] では、画像に適用するための、4つのマッチング方法を選択することができます。これらのマッチング方法は、画像の色を (プリンタープロファイルによって示される) プリンターが出力できる色に合わせる方法を指定します。

メモ：プリンターと用紙の組合わせが異なる場合など、マッチング方法を変える利

点があります。使用するワークフローで最もうまく行く方法を見つけ出すために、さまざまなマッチング方法をお試しいただくことをお勧めします。

- 知覚的

  このマッチング方法は、印刷画像が自然に見えるよう色の関係を維持します。このマッチング方法は、色の関係を維持しますが、実際の色値は変更されます。

- 彩度

  このマッチング方法は、彩度の高い色を作り出しますが、画像における正確な色を作り出すとは限りません。

- 相対的な色域

  このマッチング方法は、画像のホワイトポイントをプリンタープロファイルで定義されているホワイトポイントにマッピングし、色域内の色を正確に再現します。また、色域外の色は、できる限り再現可能な色にシフトされます。本来の色を可能な限り保持するため、画像の印刷には最適な選択肢となることがあります。

- 絶対的な色域

  このマッチング方法は、画像のホワイトポイントをプリンタープロファイルで定義されているホワイトポイントにマッピングしない点を除けば、「相対的な色域」に非常によく似ています。このマッチング方法は、用紙の色の影響も含め、出力機器の結果を再現するため、使用するプリンター以外の特定の印刷機器で画像を校正する場合にお勧めです。

■ 黒点補正を使用

このボックスをチェックして黒点補正を使用します。これにより、画像の黒点がプリンターの黒点に対応するようになりますので、プリンターのカラー範囲をフルに使用することができます。印刷結果にグレーのシャドー部分がある場合、または画像に細かい絵柄があまりない場合、この設定をオフにしてください。特定のプリンターとプロファイルの組み合わせで問題が発生しない限り、常に使用することをお勧めします。

カラーピッカー

カラーピッカーは、多くの画像処理に使用でき、RGB、HSB、Lab色空間内であらゆる色を選択できる機能があります。さらに、色見本と記憶色を使用して、あらかじめ用意された色から選択することができます。

カラーピッカー

1 色ホイール　2 色三角形　3 Lab 選択ボックス　4 HSB 選択ボックス

5 RGB 選択ボックス　6 色見本表示 / 非表示三角形　7 記憶色領域

8 色見本　9 色スポイトツール　10 前回選択された色　11 最後に選択された色

12 現在選択している色

カラーピッカーには、以下の機能があります。

色ホイール

色ホイールでは、ある色の目標とする色相を選択することができます。色ホイール内をクリックすると、クリックした色の色相になります。色ホイール外をドラッグすることで、色相を細かく回転させ選択する色を調整します。色三角形の先端は、選択された色の色相を示します。色三角形は、反映させせることができる彩度と明度の範囲で更新されます。

色三角形

色三角形では、色ホイールで指定された色の色相の彩度と明度を調整できます。色三角形の各頂点には100%の彩度を表わす色が含まれます。色三角形の左辺では、色が白に近くなる場合の色明度を調整し、右辺では色が黒に近くなる場合の色明度を調整します。下辺には中間色が表示され、下辺の中央はニュートラルグレーを表しています。

RGB選択ボックス

RGB選択ボックスは、赤、緑、青で現在のカラーを表示します。RGB選択ボックスに別の数値を直接入力することで、目標となる色に変更できます。

HSB選択ボックス

HSB選択ボックスは、色相、彩度、明るさで現在の色を表示します。HSB 選択ボックスに別の数値を直接入力することで、目標となる色に変更できます。

Lab選択ボックス

Lab選択ボックスは、輝度､a（緑から赤）､b（青から黄色）で現在の色を表示します。Lab選択ボックスに別の数値を直接入力することで、目標となる色に変更できます。

最後に選択された色/前回の選択された色

最後に選択された色/前回の選択された色見本では、最後に選択された色５色が表示されます。最後に選択された色見本は、最後に選択された色を表示し、前回選択された色見本は、最後に選択された色見本より前に選択された４色を表示します。

色スポイトツール

色スポイトツールでは、イメージウィンドウに現在表示されている画像の色からあらゆる色を選択することができます。色スポイトツールボタンを選択し、次にカーソルを使用してCapture NXで表示されている画像から色を選択します。

カラーピッカーに表示されている色は、色スポイトツールによって選択された色に変わります。

色見本表示/非表示 三角形

ボタンをクリックすると、あらかじめ設定されている色見本と４つの記憶色領域が含まれている色見本のセクションが表示されます。

色見本のセクション

色見本のセクションには、現在の画像処理で使用する色を選択する際、さらに細かく調整できる２つのセクションがあります。

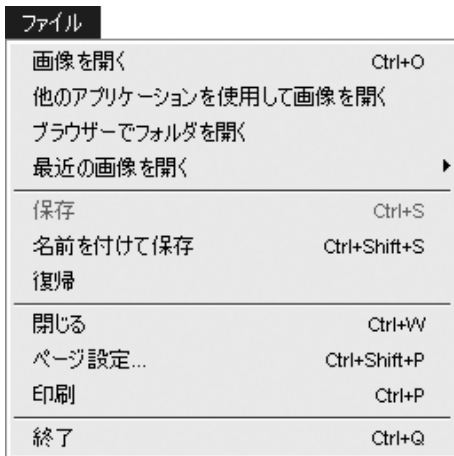
■ 色見本

色見本のセクションは、あらかじめ決められた色見本のグループを提供します。現在の画像処理に適した色を含む色見本を選択し、[OK] をクリックします。

■ 記憶色領域

記憶色領域は、記憶色を含む４つの異なる色領域を表示します。記憶色は、空の色、肌の色、葉の色など、普段目にする色を表します。さらに、色相がない中間色が選択できるよう、ニュートラル色領域が表示されます。

ファイルメニュー

ファイル
画像を開く Ctrl+O
他のアプリケーションを使用して画像を開く
ブラウザーでフォルダを開く
最近の画像を開く
保存 Ctrl+S
名前を付けて保存 Ctrl+Shift+S
復帰
閉じる Ctrl+W
ページ設定... Ctrl+Shift+P
印刷 Ctrl+P
終了 Ctrl+Q

画像を開く

画像を開く機能は、「画像を開く」ダイアログを表示し、開いたり編集したりする画像をここで選択することができます。

ショートカットキー：
Ctrl + O (Windows)
Command + O (Mac OS)

他のアプリケーションを使用して画像を開く

[他のアプリケーションを使用して画像を開く] により、現在の画像処理をすべて反映して現在の画像を別のアプリケーションで開きます。環境設定で画像を開く別のアプリケーションを選択することができます。

ブラウザーでフォルダを開く

これを選択すると、ダイアログが表示され Capture NXで開くフォルダを指定することができます。

最近の画像を開く

ここにCapture NXのイメージウィンドウで最近開いた画像が10点表示されます。このリスト内のファイル名をクリックして、Capture NXで開きます。

保存

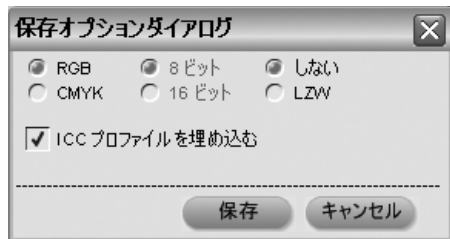
保存機能を利用して、画像を保存します。保存する際、ファイル形式によっては保存時に設定オプションダイアログが表示されます。

NEF

圧縮

RAW画像を圧縮するかどうか選択します。

メモ：非圧縮RAWで撮影した画像のみ選択できます。

TIFF

■ カラーモデル

画像を保存する際のカラーモデルを選びます。

- RGB
  このカラーモデルは、画像を赤、緑、青色チャンネルの画像情報として保存するので、ほとんどの画像にお勧めします。

- CMYK
  このカラーモデルは、画像をシアン、マゼンタ、イエロー、黒色チャンネルの画像情報として保存するので、CMYK画像を必要とする印刷機器で利用する場合に限りお勧めします。

■ 圧縮

2つの圧縮方法から選択します。

- しない
  画像を圧縮しません。

- LZW
  LZWに基づく画データ損失のない圧縮方式を用います。

■ ビット数

チャンネルあたり8ビットの画像か16ビットの画像かいずれかで画像を保存するかを選択します。

メモ：16ビットは、TIFF (CMYK) ファイル形式では利用できず、元画像がRAW画像および16ビットの場合のみ16ビット画像として保存できます。

■ 埋め込み ICC プロファイル

現在のプロファイルを画像中に埋め込む場合は、このボックスをチェックします。プリンターがカラープロファイルを画像中に埋め込まないことを要求しない限り、このボックスはチェックしたままにしておくことをお勧めします。

JPEG

■ 画質

最高圧縮率（低画質）、高圧縮率、標準、高画質、最高画質（低圧縮率）から選択します。画質が高ければファイルサイズが大きくなります。

■ ICC プロファイルを埋め込む

現在のプロファイルを画像中に埋め込む場合は、このボックスをチェックします。プリンターがカラープロファイルを画像中に埋め込まないことを要求しない限り、このボックスはチェックしたままにしておくことをお勧めします。

■ 高度な編集

「高度な編集の表示/非表示」三角形で画質スライダーが表示されます。

■ 画質

画質スライダーを右に動かすと画質が高くなり、左に動かすと圧縮率が高くなります。

ショートカットキー：
Ctrl + S (Windows)
Command + S (Mac OS)

名前を付けて保存

「名前を付けて保存」機能は、現在の画像を、ファイルの場所、ファイル名、ファイル拡張子の変更も含め、別ファイルとして保存できるようにします。

NEF

■ 圧縮

RAW画像を圧縮するかどうか選択します。

メモ：非圧縮RAWで撮影した画像のみ選択できます。

TIFF

■ カラーモデル

画像を保存する際のカラーモデルを選びます。

- RGB
  このカラーモデルは、画像を赤、緑、青色チャンネルの画像情報として保存するので、ほとんどの画像にお勧めです。
- CMYK
  このカラーモデルは、画像をシアン、マゼンタ、イエロー、黒色チャンネルの画像情報として保存するので、CMYK画像を必要とする印刷機器で利用する場合に限りお勧めできます。

■ 圧縮

2つの圧縮方法から選択します。

- 圧縮無し
  画像を圧縮しません。
- LZW
  LZWに基づく画データ損失のない圧縮

方式を用います。

■ ビット数

チャンネルあたり8ビットの画像か16ビットの画像かいずれかで画像を保存するかを選択します。

ご注意：16ビットは、TIFF（CMYK）ファイル形式では利用できず、元画像がRAW画像および16ビットの場合のみ16ビット画像として保存できます。

■ ICCプロファイルを埋め込む

現在のプロファイルを画像中に埋め込む場合は、このボックスをチェックします。プリンターがカラープロファイルを画像中に埋め込まないことを求めてこない限り、このボックスはチェックしたままにしておくことをお勧めします。

JPEG

■ 画質

最高圧縮率（低画質）、高圧縮率、標準、高画質、最高画質（低圧縮率）から選択します。画質が高ければ高いほどファイルサイズが大きくなります

■ 埋め込みICCプロファイル

現在のプロファイルを画像中に埋め込む場合は、このボックスをチェックします。プリンターがカラープロファイルを画像中に埋め込まないことを求めてこない限り、このボックスはチェックしたままにしておくことをお勧めします。

■ 高度な編集

「高度な編集の表示/非表示」三角形で画質スライダーが表示されます。

■ 画質

画質スライダーを右に動かすと画質が高くなり、左に動かすと圧縮率が高くなります。

ショートカットキー：

Ctrl + Shift + S (Windows)
Command + Shift + S (Mac OS)

復帰

復帰を選択して、最後にファイルを保存した時から行なわれた変更を全て取り除きます。

閉じる

「閉じる」で現在の画像を閉じます。画像に対する変更で保存されていないものがあれば、変更を保存するかどうかのダイアログが表示されます。

ショートカットキー：

Ctrl + W (Windows)
Command + W (Mac OS)

ページ設定

ページ設定で、プリンターおよび印刷環境の設定が行なえます。用紙サイズ、給紙方法、印刷の向きなどを設定できます。印刷を実行する前に、このダイアログを開いて設定を調整することをお勧めします。

印刷

印刷では、画像を印刷するために必要な設定をすることができます。レイアウト印刷を作成したり、印刷する情報、撮影日時の写し込みを印刷に加えたり、印刷のカラーマネージメントを行なうことができます。

メニューから [印刷] を選択することにより画像を印刷できます。ブラウザー内で複数の画像を選び [印刷] を選択することにより、レイアウト印刷やコンタクトシートを作成したり、複数の画像を印刷したりできます。

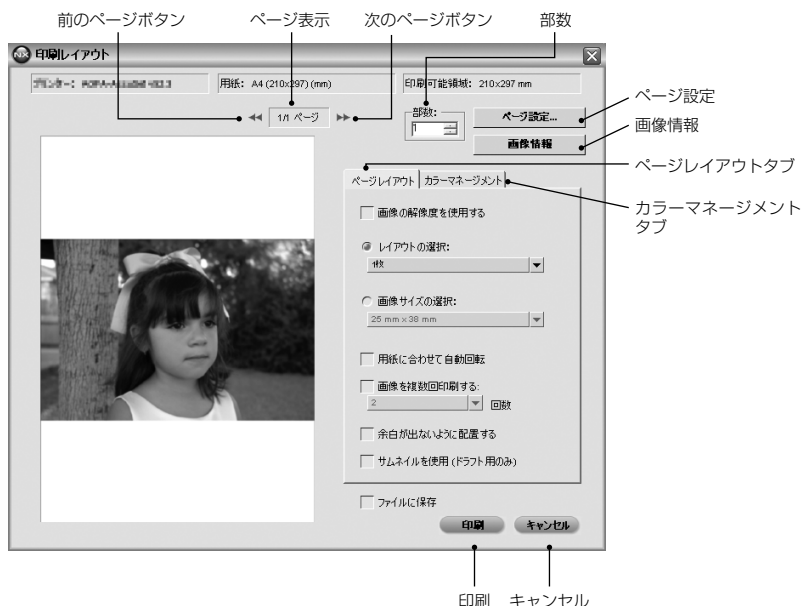
メニューから [印刷] を選ぶと印刷ダイアログが表示されます。印刷ダイアログ内に現在の画像のプレビューが表示され、その画像の方向や表示を変更するメニューが表示されます。

以下のコントロールが印刷ダイアログ中に表示されます。

[ページ表示] および [次のページ]/[前のページ] ボタン

[ページ表示] は、選択された画像数に基づき、プリンターに何枚のページが送られるかを示します。[次のページ]/[前のページ] ボタンにより、プリンターに送られる異なるページのプレビューを見ることができます。ブラウザーからの印刷で複数画像を選択した場合利用できます。

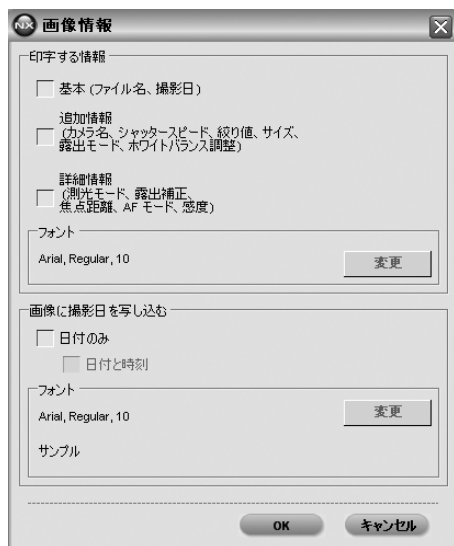
部数

現在のページを何部印刷するか選択できます。

ページ設定

このボタンをクリックしてページ設定ダイアログを起動します。

画像情報

このボタンをクリックすると画像情報設定ダイアログが開き、画像の周りに印刷されるファイル情報やカメラ情報のような情報印字設定を選択できます。

■ 印字する情報

各画像の下に画像に関する具体的な情報を配置します。次の3つのセットから選択することができます。

- **基本情報**

  基本情報には、ファイル名および撮影日が含まれます。

- **追加情報**

  カメラ名・シャッタースピード・絞り値・画像サイズ・露出モード・ホワイトバランスが含まれるようになります。

- **詳細情報**

  測光モード、露出補正、焦点距離、AFモード、感度（ISO）が含まれるようになります。

- **フォント**

  印字される情報が表示されるフォントがここに示されます。[変更] ボタンをクリックして設定します。

■ 画像上に撮影日を写し込む

画像上に日付あるいは日付と時刻を印刷します。

- **フォント**

  日付および時間が印刷されるフォントがここに示されます。[変更] ボタンをクリックして設定します。

ページレイアウト

ページレイアウト | カラーマネージメント

画像の解像度を使用する

レイアウトの選択:

1枚

画像サイズの選択:

25 mm x 38 mm

用紙に合わせて自動回転

画像を複数回印刷する:

2 回数

余白が出ないように配置する

サムネイルを使用（ドラフト用のみ）

適用するレイアウト印刷設定を含め画像のサイズとレイアウトを設定できます。

■ 画像の解像度を用いる

印刷ダイアログ中の設定により画像のサイズあるいは解像度が変更されないようにします。これにより、画像サイズ/画像解像度ダイアログ内の設定に基づき画像のサイズが決定されるようにします。この項目を選択すると、[用紙に合わせて自動回転] のみ選択できます。

■ レイアウトの選択

この印刷モードでは、レイアウト印刷のリストから選択できます。ポップアップメニューから希望するレイアウト印刷を選択すると、印刷プレビューもそれに従って更新されます。

■ 画像サイズの選択

この印刷モードでは、希望する画像サイズに基づき異なるレイアウト印刷を設定できます。ポップアップメニューから希望する画像サイズを選択します。

メモ：ポップアップメニューの内容は、環境設定内で設定された単位によって異なります。

■ 用紙に合わせて自動回転

このチェックボックスをクリックしておくと、画像の向きが用紙の向きに合わない場合、自動的に現在の画像を回転させます。

■ 画像を複数回印刷する

レイアウト印刷内で各画像を何回印刷するか指定します。プルダウンメニューで各画像の印刷枚数を指定するだけで、レイアウト印刷は更新されます。

■ 余白がでないように配置する

元の画像：8” x 12”

自動的にクロップされた画像：8” x10”

画像を自動的にクロップし、印刷したものに無駄なスペースがなくなります。画像の縦横比が用紙のそれに合わない場合は、画像の一部が切り取られます。

■ サムネイルデータの使用（ドラフト用のみ）

画像のサムネイルデータだけを用いて印刷を行ないます。印刷速度は速くなりますが、画質が大きく低下しますので、ドラフトや校正シートでのみお勧めします。

ファイルに保存

画像をファイルとして保存する場合に選択します。

カラーマネージメント

カラーマネージメントでは、印刷する際の画像のカラーマネージメントを設定できます。カラーマネージメントの設定は、初期設定では、Capture NX環境設定で指定されている設定と同じです。

メモ：印刷ダイアログ内でカラーマネージメントを指定する場合、プリンタードライバー内のカラーマネージメントをオフにしておくことがポイントです。プリンターのカラーマネージメントをオフにする方法については、プリンターの使用説明書を参照してください。

■ 画像プロファイル

これは、画像に割り当てられている現在のプロファイルを表示します。

■ プリンタープロファイル

このメニューを用いて、プリンターで使用する正しいプロファイルを選択します。どのプロファイルを使用するか不確かな

場合は、リストの一番上にある画像プロファイルを選択します。

■ マッチング方法

このマッチング方法では、画像に適用する４種類のマッチング方法のひとつを選択します。マッチング方法は、プリンタープロファイルに基づいてプリンターが作成することのできる色に合うように、画像の色をコントロールします。

メモ： プリンターと用紙の組合わせが異なる場合など、マッチング方法を変える利点があります。使用するワークフローで最もうまく行く方法を見つけ出すために、さまざまなマッチング方法をお試しいただくことをお勧めします。

- **知覚的**

  このマッチング方法は、印刷画像が自然に見えるよう色の関係を維持します。このマッチング方法は、色の関係を維持しますが、実際の色値は変更されます。

- **彩度**

  このマッチング方法は、彩度の高い色を作り出しますが、画像における正確な色を作り出すとは限りません。

- **相対的な色域**

  このマッチング方法は、画像のホワイトポイントをプリンタープロファイルで定義されているホワイトポイントにマッピングし、色域内の色を正確に再現します。また、色域外の色は、できる限り再現可能な色にシフトされます。本来の色を可能な限り保持するため、画像の印刷には最適な選択肢となることがあります。

- **絶対的な色域**

  このマッチング方法は、画像のホワイトポイントをプリンタープロファイルで定義されているホワイトポイントにマッピングしない点を除けば、「相対的な色域」に非常によく似ています。このマッチング方法は、用紙の色の影響も含め、出力機器の結果を再現するため、使用するプリンター以外の特定の印刷機器で画像を校正する場合にお勧めです。

■ 黒点補正を使用する

このボックスをチェックして黒点補正を使用します。これにより、画像の黒点がプリンターの黒点に対応するようになりますので、プリンターのカラー範囲をフルに使用することができます。印刷結果にグレーのシャドー部分がある場合、または画像の絵柄が細かくない場合、［黒点補正を使用］をオフにしてください。特定のプリンターとプロファイルの組み合わせで問題が発生しない限り、常に使用することをお勧めします。

印刷の設定を設定後、［印刷］ボタンをクリックすると、印刷が開始します。

ショートカットキー：

Ctrl + P (Windows)
Command + P (Mac OS)

終了

Capture NXを終了します。

ショートカットキー：
Ctrl + Q (Windows)
Command + Q (Mac OS)

メモ：Mac OSでは、[終了] は、Capture NXメニューの下です。

編集メニュー

編集

元に戻す	Ctrl+Z
やり直し	Ctrl+Shift+Z
切り取り	Ctrl+X
コピー	Ctrl+C
貼り付け	Ctrl+V
複製	Ctrl+D
削除	Del
全て選択	Ctrl+A
反転	▸
回転	▸
画像サイズ／画像解像度	
画像の大きさを合わせる	
環境設定	▸

元に戻す

元に戻す機能では、1ステップずつ元に戻ることができ、画像に対して行なった変更や現在のダイアログ内での変更を取り消すことができます。画像を保存するまで、無限の回数まで元に戻すことが可能で、画像に対して行なった変更は元に戻すことができます。Capture NXでは画像を損なうことなく、エディットリスト内で設定を削除あるいは変更することにより画像処理を元に戻すことができます。

ショートカットキー：
Ctrl + Z (Windows)
Command + Z (Mac OS)

やり直し

やり直し機能は、[元に戻す] を使用した後に利用できるようになるもので、これにより [元に戻す] で元に戻されたものをすべて再び適用することが可能になります。

ショートカットキー：
Ctrl + Shift + Z (Windows)
Command + Shift + Z (Mac OS)

切り取り

[切り取り] は、テキストやコントロールポイント、ブラウザー内の画像などを消去し、Capture NXのクリップボード上に一時的に保存し、[貼り付け] が利用できるようにします。[切り取り] は、次のものに対して利用できます。

- テキストボックス内のテキスト
- 選択されたコントロールポイント
- ブラウザー内の画像

ショートカットキー：
Ctrl + X (Windows)
Command + X (Mac OS)

コピー

[コピー] は、選択されたもののコピーをCapture NXのクリップボード上に一時的に保存し、[貼り付け] が利用できるようにします。[コピー] は、次のものに対して利用できます。

- テキストボックス内のテキスト
- 選択されたコントロールポイント
- ブラウザー内の画像

ショートカットキー：
Ctrl + C (Windows)
Command + C (Mac OS)

貼り付け

[貼り付け] は、Capture NXのクリップボード上に置かれているものを現在の選択エリアに配置します。[貼り付け] は、次のものに対して利用できます。

- テキストボックス内のテキスト
- 選択されたコントロールポイント
- ブラウザー内の画像

ショートカットキー：
Ctrl + V (Windows)
Command + V (Mac OS)

複製

[複製] は、現在選択されているものの複製を作成します。[複製] は、次の複製を作成します。

- 現在の画像
- ブラウザー内の画像
- 選択されたコントロールポイント

ショートカットキー：
Ctrl + D (Windows)
Command + D (Mac OS)

削除

[削除] は、現在選択されているものを削除します。[削除] は、次のものに対して利用できます。

- 選択されたテキスト
- 選択されたコントロールポイント
- ブラウザー内の画像
- エディットリスト内で選択された画像処理ステップあるいは画像処理

ショートカットキー：
Delete

全て選択

[全て選択] は、選択領域内のものを全て選択します。[全て選択] は、次のものの中で利用できます。

- テキストボックス内で全てのテキストの選択
- 画像内で画像内に現在あるコントロールポイント全ての選択
- エディットリストの全ての画像処理ステップの選択
- ブラウザー内で全ての画像の選択

ショートカットキー：
Ctrl + A (Windows)
Command + A (Mac OS)

反転

［反転］は、画像を水平、または垂直方向に反転させます。

- 垂直方向に反転させるには［垂直方向］を選択します。
- 水平方向に反転させるには［水平方向］を選択します。

元画像

水平反転

垂直反転

回転

画像を時計方向、反時計方向に90度回転させたり、画像の傾きを調整したりできます。

回転および傾き調整の機能説明については、81ページをご覧ください。

元画像

時計回り

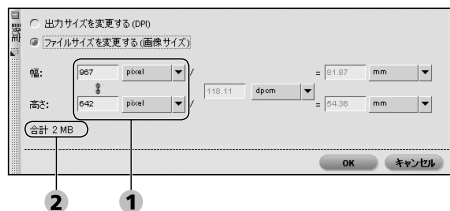
反時計回り

画像サイズ / 画像解像度

出力サイズを変更する (DPI)

このモードでは、出力する画像のサイズを変更することができます。

1. 出力機器の解像度に合わせて画像の解像度を指定します。単位は［dpi］または［dpcm］から選択できます。
2. 出力サイズ（幅と高さ）を入力します。画像が印刷されるときの実際の大きさをセンチやインチなどの単位で指定します。［幅］と［高さ］のどちらか一方に新しい値が入力されると、幅と高さのアスペクト比が保たれるようにもう一方の値が自動的に決定されます。

ファイルサイズを変更する（画像サイズ）

このモードでは、画像のファイルサイズを変更します。

1. ピクセルを入力してファイルサイズを変更します。また、拡大縮小率（パーセント）を指定することも可能です。[幅] と [高さ] のどちらか一方に新しい値が入力されると、幅と高さのアスペクト比が保たれるようにもう一方の値が自動的に決定されます。
2. 指定したピクセル数、または拡大縮小率にした場合の画像サイズ（メガバイト）が表示されます。

画像の大きさを合わせる

画像の大きさを合わせるコマンドで、複数の画像を最大サイズに合わせることができます。これは、縦横向きの異なる大量の画像のサイズを変更する際特に有効です。「画像の大きさを合わせる」では、画像の比率は変更しませんが、サイズを変更します。

サイズを変更するには、入力可能な最大画像寸法（高さおよび幅）をダイアログウィンドウで入力するだけです。
最大画像の長い方の辺に基づき、同じ寸法を両方のウィンドウに入力することをお勧めします。例えば、フォルダ内のさまざまな寸法の画像を4インチ x 6インチに変更する場合、高さ、幅両方に6インチを入力します。これをすることにより縦横どちらの画像も長い方の辺が6インチに設定されます。

環境設定

環境設定は、Capture NXのユーザー環境を変更します。

ショートカットキー：

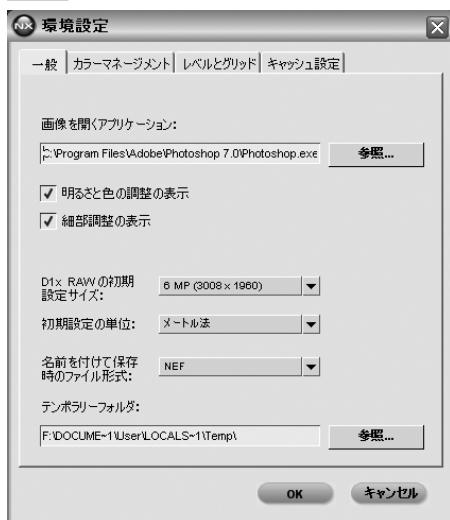
Ctrl + K (Windows)
Command + K (Mac OS)

メモ： Mac OSでは、[環境設定] は、Capture NXメニューの下です。

ヒント: Capture NX起動時に次のショートカットを利用して初期設定にリセットすることができます。

ショートカットキー：

Ctrl + Shift + Alt (Windows)
Control + Shift + Command (Mac OS)
環境設定には4つのタブがあります。

一般

■ 画像を開くアプリケーション

ファイル メニューで［画像を開くアプリケーション］を利用する時に使用するアプリケーションのプログラムファイルを指定します。

■ 明るさと色の調整の表示

非RAW画像に対し基本画像調整の「明るさと色の調整」を使用しない場合は、オフにします。

■ 細部調整の表示

非RAW画像に対し基本画像調整の「細部調整」を使用しない場合は、オフにします。

メモ：カメラ調整とRAW調整の2つのRAWセクションがRAW画像に対し表示されます。

■ D1X RAWの初期設定サイズ

D1Xで撮影したRAW画像の初期設定サイズを設定します。D1X画像を10メガピクセル相当画像にサイズ変更を行なう独自のサイズ変更アルゴリズムを利用しています。

■ 初期設定の単位

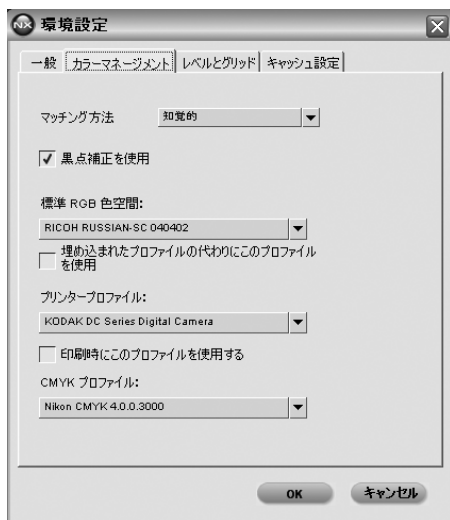
単位をインチまたはミリメートルに設定します。

■ 名前を付けて保存時のファイル形式

名前を付けて保存する場合のファイル形式を設定します。

■ テンポラリーフォルダ

一時データを保存するフォルダを設定できます。起動ディスク以外のディスク上のフォルダを選ぶことをお勧めします。

カラーマネージメント

■ マッチング方法

この環境設定で、カラープロファイル、ソフトプルーフ、印刷のカラーマネージメント機能における初期設定のマッチング方法を設定します。

メモ：プリンターと用紙の組合わせが異なる場合など、マッチング方法を変える利点があります。使用するワークフローで最もうまく行く方法を見つけ出すために、さまざまなマッチング方法をお試しいただくことをお勧めします。

- **知覚的**

  このマッチング方法は、印刷画像が自然に見えるよう色の関係を維持します。このマッチング方法は、色の関係を維持しますが、実際の色値は変更されます。

- **彩度**

  このマッチング方法は、彩度の高い色を作り出しますが、画像における正確な色を作り出すとは限りません。

- **相対的な色域**

  このマッチング方法は、画像のホワイトポイントを設定したプロファイルで定義されているホワイトポイントにマッピングし、色域内の色を正確に再現します。また、色域外の色は、できる限り再現可能な色にシフトされます。本来の色を可能な限り保持するため、画像の印刷には最適な選択肢となることがあります。

- **絶対的な色域**

  このマッチング方法は、画像のホワイトポイントを設定したプロファイルで定義されているホワイトポイントにマッピングしない点を除けば、「相対的な色域」に非常によく似ています。このマッチング方法は、用紙の色の影響も含め、出力機器の結果を再現するため、使用するプリンター以外の特定の印刷機器で画像を校正する場合にお勧めです。

■ 黒点補正を使用

このボックスをチェックして黒点補正を使用します。これにより、画像の黒点がプリンターの黒点に対応するようになりますので、プリンターのカラー範囲をフルに使用することができます。印刷結果にグレーのシャドー部分がある場合、または画像の絵柄が細かくない場合、［黒点補正を使用］をオフにしてください。特定のプリンターとプロファイルの組み合わせで問題が発生しない限り、常に使用することをお勧めします。

■ 標準RGB色空間

画像で使用する標準 RGB色空間を設定します。

■ 埋め込まれたプロファイルの代わりにこのプロファイルを使用

このチェックボックスをオンにすると、標準RGB空間で設定された色空間が作業用色空間となります。チェックボックスをオフにすると、画像ファイルに埋め込まれているプロファイルが作業用色空間となります。

■ プリンタープロファイル

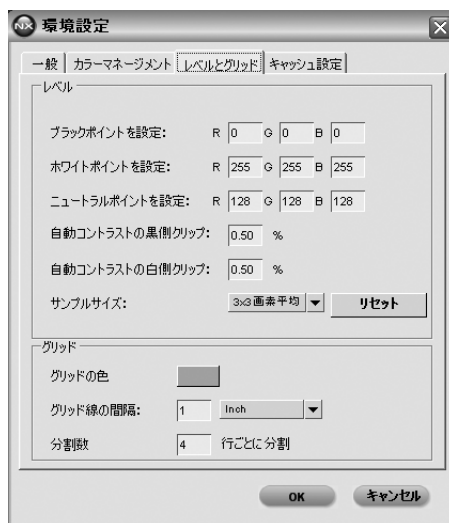
この環境設定で、初期設定プロファイルが使用するプリンターだけでなくソフトプルーフ機能内でも利用できるようにします。

■ 印刷時にこのプロファイルを使用する

カラーマネージメントのプリンタープロファイルを使用して印刷する場合はこのチェックボックスをオンにします。

■ CMYKプロファイル

この環境設定で、画像をTIFF（CMYK）で保存する際、初期設定プロファイルを使用するようにします。

レベルとグリッド

■ ブラックポイントを設定

[レベルとトーンカーブ］ダイアログ内でブラックポイントを設定する際、初期設定の0，0，0以外の別の色にブラックポイントを設定します。

■ ホワイトポイントを設定

[レベルとトーンカーブ］ダイアログ内でホワイトポイントを設定する際、初期設定の255，255，255以外の別の色にホワイトポイントを設定します。

■ ニュートラルポイントを設定

[レベルとトーンカーブ］ダイアログ内でニュートラルポイントを設定する際、初期設定の128，128，128以外の別の色にニュートラルポイントを設定します。

■ 自動コントラストの黒側クリップ

[レベルとトーンカーブ] ダイアログ内でシャドーを使用する際、除外する最も暗いピクセルのパーセンテージを決定する数字を設定します。

■ 自動コントラストの白側クリップ

[レベルとトーンカーブ] ダイアログ内でハイライトを使用する際、除外する最も明るいピクセルのパーセンテージを決定する数字を設定します。

■ サンプルサイズ

[レベルとトーンカーブ] ダイアログ内のサンプルサイズを設定します。

- 1画素

  [1画素]はひとつのピクセルだけのサンプルです。これは、色を選択する際非常に厳密に特定の色の1画素をターゲットとする場合便利です。

- 3x3画素平均

  3x3画素平均は、3ピクセル X 3ピクセルの合計9ピクセルをサンプル化し、平均値を表示します。画像の各部分は一般的にわずかに異なる色で構成されていますので、目標エリアの色のより正確な描写が可能になります。

- 5x5画素平均

  5x5画素平均は、5ピクセル X 5ピクセルの合計25ピクセルをサンプル化し、平均値を表示します。解像度の高い画像に対しお勧めです。

■ グリッドの色

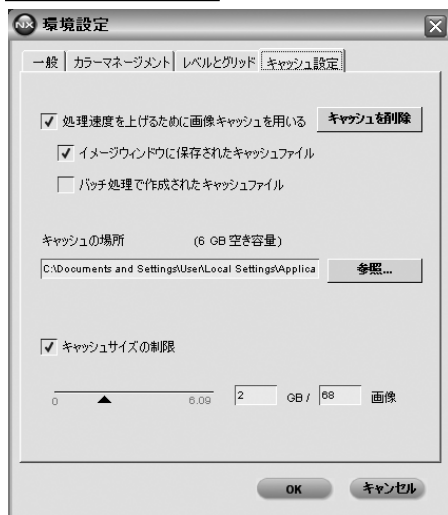
カラーパッチをクリックしカラーピッカーを表示させ、[グリッドを表示] がオンの場合グリッドラインの色を選択します。[グリッドを表示]に関する詳しい情報は、202ページをご覧ください。

■ グリッド線の間隔

[グリッドを表示] がオンの場合グリッド線の間隔と単位を設定します。[グリッドを表示] に関する詳しい情報は、202ページをご覧ください。

■ 分割数

グリッド線環境設定で定義された主要グリッド線の間に細いグリッド線を表示するよう設定できます。

キャッシュ設定

キャッシュ機能は、Capture NXで開いたことのあるNEF形式の画像をすばやく開けるようにします。Capture NXでは、NEF形式の画像のさまざまなキャッシュ作成方法を選択できると同時に、キャッシュファイルのためのハードディスク上の容量も設定可能です。

キャッシュ機能が有効に設定されている場合、NEF形式で保存すると、環境設定で指定されたフォルダにキャッシュファイルが自動的に作成されます。キャッシュファイルに含まれる情報をもとに、Capture NXは以降そのファイルを開く時間を短縮することができます。

初期設定では、Capture NXはキャッシュファイルの保存容量として2GBをハードディスク上に確保します。この2GBが全てキャッシュファイルで利用されてしまうと、Capture NXは古いものから順番に新規キャッシュファイルで置き換えていきます。このため、最も新しいファイルが最も速く開かれます。キャッシュファイルが無くなっても画像ファイルの情報が失われたり画質が低下したりすることはなく、画像を開くときに時間がかかるだけです。

キャッシュファイルをどの時点で作成するか、キャッシュファイルをどこに保存するか、キャッシュファイルのためのハードディスク上にどれだけの容量を確保するかなどは、キャッシュ設定を変更することにより設定可能です。

■ 処理速度を上げるために画像キャッシュを用いる

このチェックボックスをチェックすると、NEF形式の画像を開く速度をスピードアップするCapture NXのキャッシュファイル機能が有効になります。

■ イメージウィンドウに保存されたキャッシュファイル

このチェックボックスをチェックすると、イメージウィンドウで画像をNEF形式で保存したときにキャッシュファイルを作成します。

■ バッチ処理で作成されたキャッシュファイル

このチェックボックスをチェックすると、バッチ処理で画像をNEF形式で保存したときにキャッシュファイルを作成します。これには、バッチ処理と監視フォルダ両方が含まれます。

■ キャッシュを削除

このボタンをクリックしてCapture NXが作成したキャッシュファイルを全て削除します。

■ キャッシュの場所
参照ボタンをクリックしてキャッシュファイルを保存する新規の場所を選択します。

■ キャッシュサイズの制限
このボックスをチェックして、Capture NXがキャッシュファイルの保存に確保するハードディスク上の容量を制限します。

これで、Capture NXのキャッシュ機能に割り当てる容量をスライダーで調整することができるようになります。スライダーの隣には、現在キャッシュ用に割り当てられている容量とそこに保存可能な大まかな画像数が表示されます。

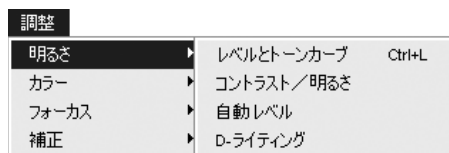
調整メニュー

明るさ

レベルとトーンカーブ

「レベルとトーンカーブ」機能は、頻繁に使用される2つの階調を調整する機能をまとめたものです。「レベルとトーンカーブ」機能では、コントラスト、階調レベル(明るさ)、カラーバランスを調整することができ、プリンターやモニターのような特定の出力機器が持つ階調および全カラー領域を最大限に利用できるようにします。

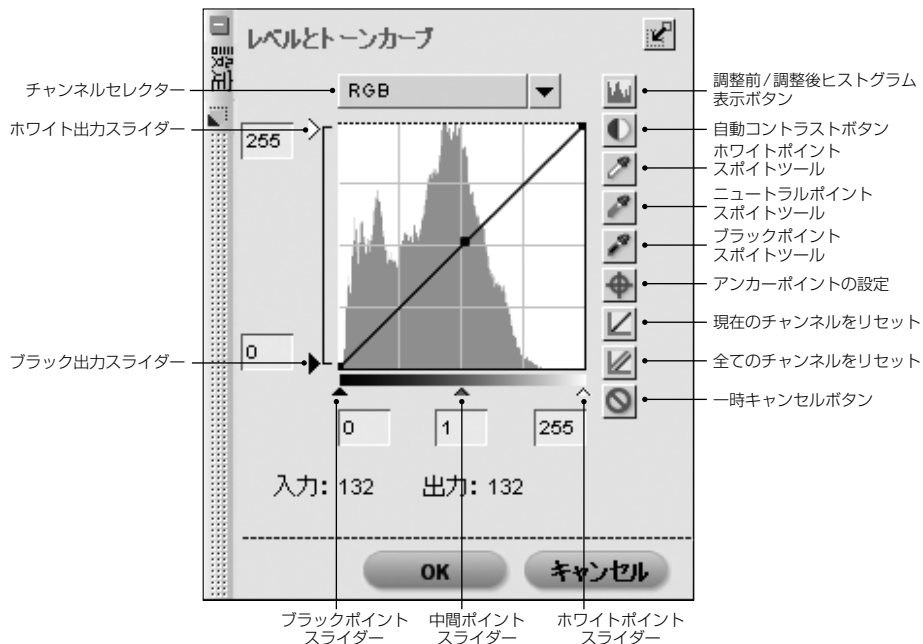
「レベルとトーンカーブ」機能では、画像の階調の特定の部分に関し、画像全体あるいは特定のカラーチャンネルに対する階調調整を行い、細部を保ちつつ画像を強調できます。

調整
明るさ
カラー
フォーカス
補正
レベルとトーンカーブ　Ctrl+L
コントラスト／明るさ
自動レベル
D-ライティング

「レベルとトーンカーブ」では、効果の対象となるカラーチャンネルあるいはカラー部分を選択できます。「レベルとトーンカーブ」は、初期設定では、画像内で同時に全てのチャンネル（赤緑青）の編集を開始します。これを変更する場合は、チャンネルプルダウンメニューをクリックし、赤緑青の個々のチャンネルからひとつ選択します。

ヒント： 次のキーボードショートカットにより各チャンネルにすばやくアクセスすることができます。

RGB チャンネル： Ctrl + ～ (Windows)
Command + ～ (Mac OS)
赤チャンネル： Ctrl + 1 (Windows)
Command + 1 (Mac OS)

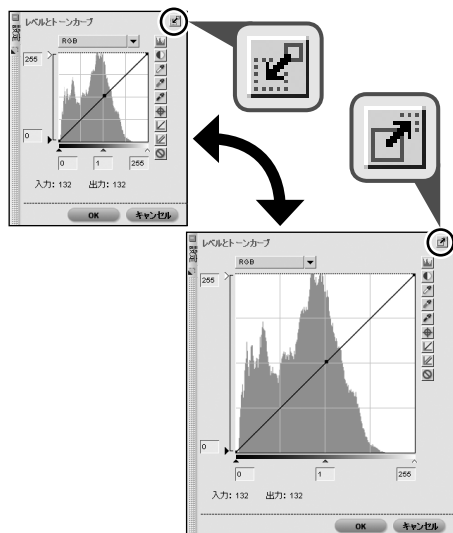
レベルとトーンカーブ

チャンネルセレクター
ホワイト出力スライダー
ブラック出力スライダー
調整前/調整後ヒストグラム表示ボタン
自動コントラストボタン
ホワイトポイントスポイトツール
ニュートラルポイントスポイトツール
ブラックポイントスポイトツール
アンカーポイントの設定
現在のチャンネルをリセット
全てのチャンネルをリセット
一時キャンセルボタン
RGB
255
0
0　1　255
入力: 132　出力: 132
OK　キャンセル
ブラックポイントスライダー
中間ポイントスライダー
ホワイトポイントスライダー

緑チャンネル：Ctrl + 2 (Windows)
Command + 2 (Mac OS)

青チャンネル：Ctrl + 3 (Windows)
Command + 3 (Mac OS)

[レベルとトーンカーブ]では、画像内の総輝度値を表すヒストグラムが表示されます。入力輝度値と出力輝度値の関係をコントロールできるようにするトーンカーブが、このヒストグラムに重ねて表示されます。

ヒストグラムは、異なる輝度レベルで表現されているピクセル数の合計をグラフで表示するものです。水平軸は輝度レベルを表し、垂直軸は現在の画像内の各輝度レベルのピクセル数を表します。選択されたチャンネルに基づき、水平軸の左側は、画像内の最も暗い色合いを表し、右側は、最も明るい色合いを表します。

/ ボタンをクリックすると、[レベルとトーンカーブ]の表示サイズを切り換えることができます。

全チャンネルを同時に編集する場合は、ヒストグラムは、ブラックからホワイト

への明るさを表します。個別のチャンネルを編集する場合は、ヒストグラムは、その色を一切含まないものからその色の最大輝度までの明るさを表します。

ヒストグラムは、[レベルとトーンカーブ]で設定をどのように調整するか決定する際非常に便利です。

画像の輝度を変更するには、ブラックポイントスライダー、ホワイトポイントスライダー、中間ポイントスライダーを動かすか、トーンカーブを直接編集することにより行ないます。

■ ブラックポイントスライダー、ホワイトポイントスライダー、中間ポイントスライダー

ブラックポイントスライダー、ホワイトポイントスライダー、中間ポイントスライダーは、自動的にトーンカーブを調節します。

- ブラックポイントスライダー
  ブラックポイントスライダーを右に動かし、選択した点より左側の輝度値を完全な黒（個別チャンネルの場合は、そのチャンネルの色がない色合い）に設定し、可能な数値範囲に輝度範囲が収まるよう広げて再配分します。ブラックポイントスライダーを右端に動かし、表示されているヒストグラムの左端の情報に合わせることをお勧めします。これにより、画像の最も暗い部分がデジタルファイルで表示できる最も暗い部分に合うよう、画像が調整されます。

- ホワイトポイントスライダー
  ホワイトポイントスライダーを左に動かし、選択した点より右側の輝度値を完全なホワイト（個別チャンネルの場合は、そのチャンネルの色の最大輝度値）に設定し、可能な数値範囲に輝度範囲が収まるよう広げて再配分します。ホワイトポイントスライダーを左端に動かし、表示されているヒストグラムの右端の情報に合わせることをお勧めします。これにより、画像の最も明るい部分がデジタルファイルで表示できる最も明るい部分に合うよう、画像が調整されます。

- 中間ポイントスライダー
  中間ポイントスライダーを左右に動かし、画像の中間色調を明るくしたり、暗くしたりします。

トーンカーブを直接クリックし、移動調整ができるアンカーポイントを追加することもできます。トーンカーブの傾きを大きくすると、画像のコントラストが強くなります。トーンカーブの傾きを小さくすると、画像のコントラストが弱くなります。アンカーポイントは、画像の色調範囲に起きる変化量を最小限にするよう設定することもできます。

アンカーポイントは、クリックしてヒストグラムの外にドラッグすることにより削除できます。

[レベルとトーンカーブ] には、この他にもコントロール機能があります。

■ ブラック出力スライダーおよびホワイト出力スライダー

この2つのスライダーで、画像の最大明るさレベルと最小明るさレベルを設定します。ブラック出力スライダーを上にドラッグすることにより、画像の最も暗い

輝度レベルを明るくし、ホワイト出力スライダーを下にドラッグすることにより、画像の最も明るい輝度レベルを暗くします。この2つのスライダーは、最も暗い色が黒でなく最も明るい色がホワイトでない場合、使用することが一般的です。

■ [調整前/調整後ヒストグラム表示] ボタン

このボタンは、調整前のヒストグラムと調整後のヒストグラムを切り換え表示します。調整前のヒストグラムは、変わることはなく、現在のチャンネルで画像の調整が行なわれる前のヒストグラムを表します。調整後のヒストグラムは、[レベルとトーンカーブ] で行なわれた変更に基づき常に更新されます。

■ [自動コントラスト] ボタン

このボタンをクリックして、それぞれの個別チャンネル内のホワイトポイントとブラックポイントを変更することにより、個別チャンネルの色を自動的に配分します。Ctrl (Windows) またはOption (Mac OS) をクリックすることで現在のチャンネルのみ対象になります。

Capture NXは、画像内の最も明るいピクセルと最も暗いピクセルをある割合で除外するホワイトポイントおよびブラックポイントを自動的に選択し、コントラストを強調するようトーンカーブを急にします。除外されるピクセルの厳密な割合は、環境設定で指定することができます。初期設定では、最も明るいピクセルと最も暗いピクセルの0.5%が除外され、シャドーとハイライトの細部を保ちつつ出力色調範囲を最適に利用できるトーンカーブを作成します。

■ ホワイトポイントスポイトツール

このボタンをクリックすると、マウスカーソルはスポイトツールに変わります。次に画像をクリックすると、3つのカラーチャンネルのホワイトポイントスライダーは、ホワイトポイントスポイトツールで選択された色の値に設定されます。画像情報パレットの2階調化コマンドとともにこのツールを利用して、ホワイトにしたい、画像中の最も明るい数値を見つけ出します。ホワイトポイントスポイトツールは、カラーバランスだけでなく、画像の色調にも影響します。2階調化機能に関するさらに詳しい情報については、106ページをご覧ください。

ヒント： 画像中のホワイトポイントをさらに細かく設定するには、コントロールポイントメニューのホワイトコントロールポイントを試してみてください。ホワイトコントロールポイントに関するさらに詳しい情報については、171ページをご覧ください。

■ ニュートラルポイントスポイトツール

このボタンをクリックすると、マウスカーソルはスポイトツールに変わります。次に画像をクリックすると、3つのカラーチャンネルの中間ポイントスライダーを設定することで、色調値に影響を与えずに選択された色をニュートラルに近づけます。ニュートラルポイントスポイトツールは、画像のカラーバランスのみに影響を与えようとしますが、目標となる色がかなりの色合いを含んでいると、画像の色調に影響することがあります。

ヒント： 画像中のニュートラルポイントをさらに細かく設定するには、コントロールポイントメニューのニュートラルコントロールポイントを試してみてください。ニュートラルコントロールポイントに関するさらに詳しい情報については、173ページをご覧ください。

■ ブラックポイントスポイトツール

このボタンをクリックすると、マウスカーソルはブラックポイントスポイトツールに変わります。次に画像をクリックすると、3つのカラーチャンネルのブラックポイントスライダーは、ブラックポイントスポイトツールで選択された色の値に設定されます。画像情報パレットの2階調化コマンドとともにこのツールを利用して、黒にしたい、画像中の最も暗い数値を見つけ出します。ブラックポイントスポイトツールは、カラーバランスだけでなく、画像の色調にも影響します。2階調化機能に関するさらに詳しい情報については、106ページをご覧ください。

ヒント： 画像中のブラックポイントをさらに細かく設定するには、167ページのコントロールポイントメニューのブラックコントロールポイントを試してください。

■ アンカーポイントの設定

このボタンをクリックすると、マウスカーソルは十字カーソルに変わります。画像をクリックすると、マウスが置かれている点の色を表すカーブ上の点にアンカーポイントを設定します。この新たに作成されたアンカーポイントを用いて画像処理を行うことができます。Ctrl (Windows) またはOption (Mac OS) をクリックすることで現在のチャンネルのみ対象になります。

■ 現在のチャンネルをリセット

このボタンをクリックして、現在のチャンネルだけを初期設定値にリセットします。

■ 全てのチャンネルをリセット

このボタンをクリックして、[レベルとトーンカーブ]の全てのチャンネルを初期設定値にリセットします。

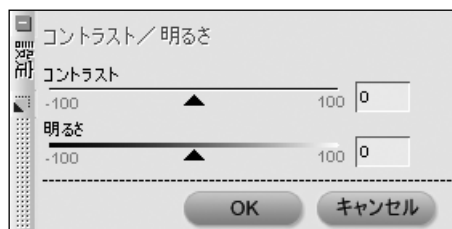
■ [一時キャンセル] ボタン

このボタンを押している間は、[レベルとトーンカーブ] の効果が一時的にキャンセルされます。

[レベルとトーンカーブ] の効果を適用するには、[OK] ボタンをクリックします。[レベルとトーンカーブ] をキャンセルするには、[キャンセル] ボタンをクリックします。

ショートカットキー：

Ctrl + L (Windows)
Command + L (Mac OS)

コントラスト/明るさ

コントラスト/明るさ機能は、高画質を維持しつつ画像のコントラストと明るさ両方を効果的に調整できます。コントラ

スト/明るさ処理は、選択ツールをどれか利用して希望する部分にコントラスト効果または明るさ効果を、簡単に作り出す方法です。スライダーを使用して画像を調整します。

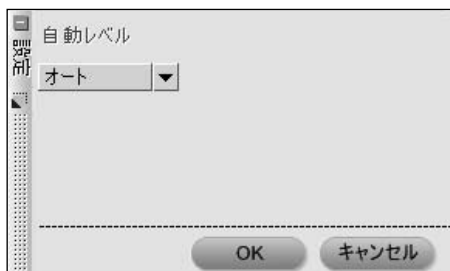
■ コントラスト

スライダーで、画像のコントラストをコントロールすることができます。コントラストアルゴリズムは、望ましくない色調変化が起こらないよう考案されています。スライダーを左に動かすと画像全体のコントラストが弱まり、右に動かすとコントラストが強まります。

■ 明るさ

明るさスライダーで、望ましくない色調のずれを起こさずに画像を明るくしたり暗くしたりできます。明るさスライダーを左に動かすと画像が暗くなり、右に動かすと明るくなります。

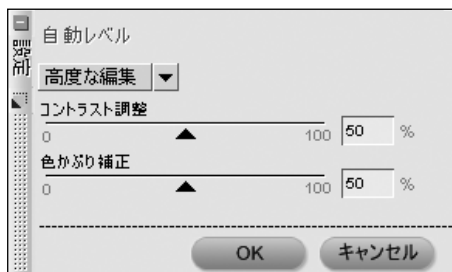
コントラスト/明るさ機能の効果を適用するには、[OK] ボタンをクリックします。キャンセルボタンをクリックすると、この機能が画像に影響を与えないようになります。

自動レベル

自動レベル機能を用いて、Capture NXが画像を分析し、画像内の色情報を可能な色調の範囲全体に広げるよう正しい調整値を決定できるようにします。[レベルとトーンカーブ] ダイアログ内の自動コントラストボタンに似ていますが、自動レベル機能には、他の調整機能もあります。

プルダウンメニューで2つの自動レベル方式いずれかを選択します。

■ オート

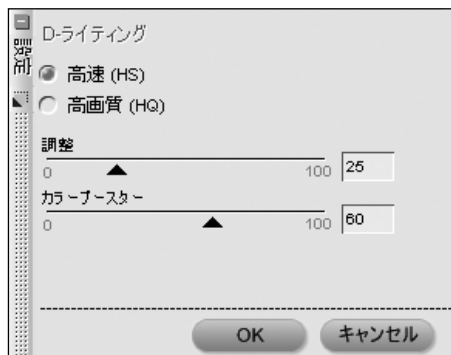
オートは、自動的にホワイトポイントとブラックポイントを設定し、画像上の最も明るいピクセルを白に、最も暗いピクセルを黒に定義し、階調の再配分を行って画像全体のコントラストを調整します。

■ 高度な編集

高度な編集をクリックすると、最初はオートと同じ結果ですが、効果を調整するスライダーが2つあります。

- コントラスト調整
  コントラスト調整スライダーを用いて、画像に適用されているコントラストを調整します。

- 色かぶり補正
  色かぶり補正スライダーを用いて、画像に適用されている色かぶり補正を調整します。

[OK]をクリックすると、コントラスト/明るさ画像処理の効果を適用され、[キャンセル] をクリックすると効果は適用されません。

D-ライティング

D-ライティングは、逆光やフラッシュの光量不足などで暗くなり、隠れて見える被写体を明るく調整したり、明るくなりすぎて白くとび気味な画像のハイライト部分の階調を調整する場合に使用します。

D-ライティングを画像に適用する方式をまず選択します。

■ 高速(HS)

高速でD-ライティング処理を行います。[高画質 (HQ)] よりも短い時間で調整を行うことができます。

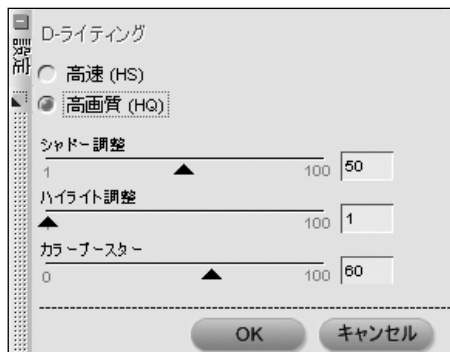
- 調整
  暗い部分、および白とび気味のハイライト部分を調整します。スライダーの右側のテキストボックスに数値 (0～100) を入力して調整することもできます。

- カラーブースター
  調整後、D-ライティングに適した彩度を調整する場合に使用します。スライダーの右側のテキストボックスに数値 (0～100) を入力して調整することもできます。

■ 高画質(HQ)

高品位でD-ライティング処理を行います。処理に時間がかかりますが、[高速 (HS)] よりも細かい調整を行います。

- シャドー調整

  画像の暗い部分を明るく調整します。

  スライダーの右側のテキストボックスに数値 (0～100) を入力して調整することもできます。

- ハイライト調整

  白く飛び気味のハイライト部分のコントラストを補正し、ハイライト部分の階調を補正します。スライダーの右側のテキストボックスに数値 (0～100) を入力して調整することもできます。

- カラーブースター

  シャドー調整、ハイライト調整後、D-ライティングに適した彩度を調整する場合に使用します。スライダーの右側のテキストボックスに数値 (0～100) を入力して調整することもできます。

D-ライティング機能の効果を適用するには、[OK] ボタンをクリックします。D-ライティング機能をキャンセルするには、[キャンセル] ボタンをクリックします。

カラー

LCHエディター

LCHエディターでは、画像の輝度、カラー明度、彩度、色相を個別に調整することができます。

チャンネルプルダウンメニューから、編集する現在の画像の最初の項目を選択します。明度 (マスターモード)、カラー明度、彩度、色相から選びます。

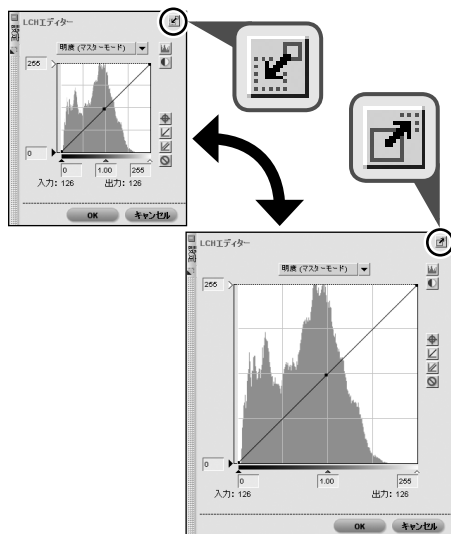
ヒント： 次のキーボードショートカットにより各チャンネルをすばやく表示させることができます。

明度(マスターモード)： Ctrl + ～ (Windows) Command + ～ (Mac OS)

カラー明度： Ctrl + 1 (Windows) Command + 1 (Mac OS)

彩度： Ctrl + 2 (Windows) Command + 2 (Mac OS)

色相： Ctrl + 3 (Windows) Command + 3 (Mac OS)

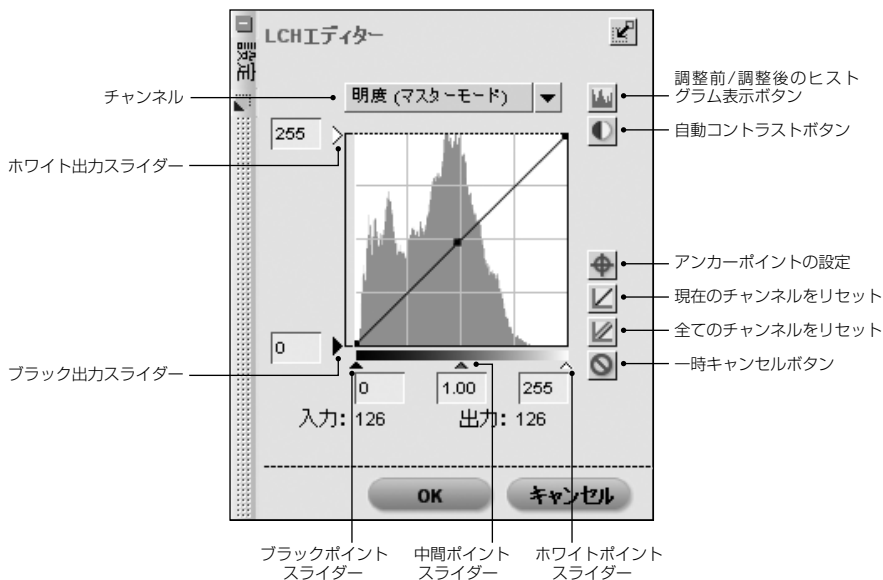
/ ボタンをクリックすると、[LCHエディター]の表示サイズを切り換えることができます。

■ 明度 (マスターモード)

明度 (マスターモード) は、[レベルとトーンカーブ] に似ていますが、カラーに影響せずに画像の明度だけを調整します。これは、画像の色調を調整する効果的な方法です。

このチャンネル内では、画像内の総ピクセル数を表すヒストグラムが表示されます。入力輝度値と出力輝度値の関係をコントロールできるようにする輝度カーブが、このヒストグラムに重ねて表示されます。

ヒストグラムは、異なる輝度レベルで表現されているピクセル数の合計をグラフで表示するものです。水平軸は輝度レベルを表し、垂直軸は現在の画像内の各輝度レベルのピクセル数を表します。水平軸の左側は、画像内の最も暗い色合いを表し、右側は、最も明るい色合いを表します。ヒストグラムは、明度（マスターモード）エディター内で設定をどのように調整するか決定する際に便利です。

画像の明度を変更するには、ブラックポイントスライダー、ホワイトポイントスライダー、中間ポイントスライダーを動かすか、輝度カーブを直接編集することにより行ないます。

ブラックポイントスライダー、ホワイトポイントスライダー、中間ポイントスライダーは、自動的に輝度カーブを調節します。

- ブラックポイントスライダー
  ブラックポイントスライダーを右に動かし、選択した点より左側の輝度値を完全な黒に設定し、可能な数値範囲に輝度範囲が収まるよう広げて再配分します。ブラックポイントスライダーを右端に動かし、表示されているヒストグラムの左端の情報に合わせることをお勧めします。これにより、画像の最も暗い部分が表示できるように調整されます。

- ホワイトポイントスライダー
  ホワイトポイントスライダーを左に動かし、選択した点より右側の輝度値を完全な白に設定し、可能な数値範囲に輝度範囲が収まるよう広げて再配分します。ホワイトポイントスライダーを左端に動かし、表示されているヒストグラムの右端の情報に合わせることをお勧めします。これにより、画像の最も明るい部分が表示できるように画像が調整されます。

- 中間ポイントスライダー
  中間ポイントスライダーを左右に動かし、画像の中間色調を明るくしたり、暗くしたりします。

輝度カーブを直接クリックし、移動調整ができるアンカーポイントを追加することもできます。カーブの傾きを大きくすると、画像のコントラストが強くなります。カーブの傾きを小さくすると、画像のコントラストが弱くなります。

アンカーポイントは、画像の色調範囲に起きる変化量を最小限にするよう設定することもできます。アンカーポイントは、クリックしてヒストグラムの外にドラッグすることにより削除できます。

明度 (マスターモード) には、この他に数多くの調整機能があります。

- ブラック出力スライダーおよびホワイト出力スライダー
  この2つのスライダーで、画像の最大の明るさレベルと最小の明るさレベルを設定します。ブラック出力スライダーを上にドラッグすることにより、画像の最も暗い輝度レベルを明るくし、ホワイト出力スライダーを下にドラッグすることにより、画像の最も明るい輝度レベルを暗くします。この2つのスライダーは、最も暗い色が黒でなく、最も明るい色が白でない場合に使用できます。

- [調整前/調整後のヒストグラムを表示] ボタン
  このボタンは、調整前のヒストグラムと調整後のヒストグラムを切り換え表示します。調整前のヒストグラムは、変わることはなく、明度 (マスターモード) による画像調整が行なわれる前のヒストグラムを表します。調整後のヒストグラムは、明度 (マスターモード) で行なわれた変更に基づき常に更新されます。

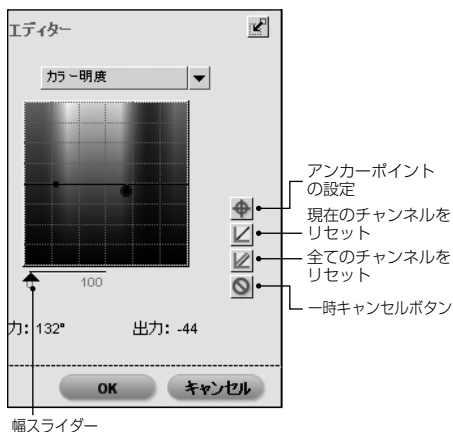
- 自動コントラストボタン
  このボタンをクリックして、ブラックポイントスライダーおよびホワイトポイントスライダーを自動的に移動させ、ヒストグラムの最も暗い点の値と最も明るい点の値にマッチするようにします。

- アンカーポイントの設定
  このボタンをクリックし次に画像をクリックすると、輝度カーブでアンカーポイントを置く色を選択することができます。

- 現在のチャンネルをリセットする
  このボタンをクリックして、明度（マスターモード）だけを初期設定値にリセットします。

- 全てのチャンネルをリセットする
  このボタンをクリックして、LCH エディター内の全てのチャンネルを初期設定値にリセットします。

- 一時キャンセルボタン
  このボタンを押さえると、一時的に明度（マスターモード）の効果をキャンセルすることができます。

■ カラー明度

カラー明度チャンネルは、彩度や色相に影響を与えることなく画像内の特定の色の明度をコントロールします。カラー明度を利用して、他の被写体に影響を与えることなく肌の色を明るくしたり、風景の中の空を暗くしたりのように特定の色を目標として明度を上げることができます。

カラー明度には、色相マップがあり、これは、水平軸に色のスペクトル全体、垂直軸に色の明度を表示するものです。色相マップに重ねられるカラー明度カーブが、個々の色の明るさを取り出し、調整するために利用できます。

カラー明度カーブをクリックすることでアンカーポイントを作成することができます。アンカーポイントを上に動かすと、色範囲で影響される部分にある色の明度が高くなります。この同じアンカーポイントを下に動かすと、影響される色の明度が低くなります。幅スライダーを利用して、アンカーポイントで特定される色によって影響される類似の色の範囲を大きくしたり小さくしたりできます。アンカーポイントは、クリックして色相マップの外にドラッグすることにより削除できます。

カラー明度には、この他に数多くの調整機能があります。

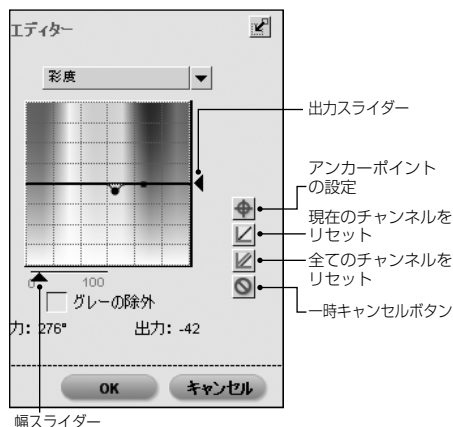
- アンカーポイントの設定
  このボタンをクリックし次に画像をクリックすると、カラー明度カーブでアンカーポイントを置く色を選択することができます。

- 現在のチャンネルをリセット
  このボタンをクリックして、カラー明度だけを初期設定値にリセットします。

- 全てのチャンネルをリセット
  このボタンをクリックして、LCH エ

ディター内の全てのチャンネルを初期設定値にリセットします。

- **一時キャンセルボタン**
  このボタンを押すと、一時的にカラー明度の効果をキャンセルすることができます。

■ 彩度

彩度チャンネルでは、輝度や色相に影響を与えることなく画像内の特定の色や画像全体の彩度を編集することができます。

彩度チャンネルには、色相マップがあり、これは、水平軸に色のスペクトル全体、垂直軸に色の彩度を表示するものです。色相マップに重ねられる彩度カーブが、個々の色の彩度を取り出し、調整するために利用できます。

カーブをクリックすることでアンカーポイントを作成することができます。アンカーポイントを上に動かすと、色範囲で影響される部分にある色の彩度が高くなります。この同じアンカーポイントを下に動かすと、影響される色の彩度が低くなります。アンカーポイントは、クリックして色相マップの外にドラッグすることにより削除できます。

幅スライダーを利用して、アンカーポイントで特定される色によって影響される類似の色の範囲を大きくしたり小さくしたりできます。

出力スライダーは、画像全体で一様に全ての色の彩度をコントロールします。このスライダーを上に動かすと、全ての色の彩度が高められ、下に動かすと低くなります。

彩度には、この他に数多くのコントロール機能が含まれています。

- **グレーの除外**
  このボックスをチェックすると、画像のニュートラルカラー（グレー）の彩度に影響を与えないようにできます。彩度を高めると、ニュートラルカラー（グレー）の彩度が高く見えすぎることがあるのでこれは便利な機能です。

メモ： グレーの除外は、元画像の数値よりも彩度を低くした場合には影響がありません。

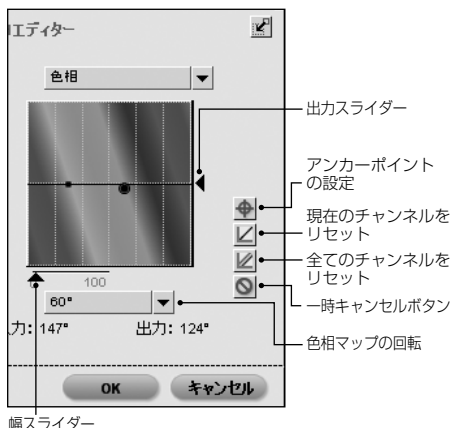
- **アンカーポイントの設定**
  このボタンをクリックし次に画像をクリックすると、彩度カーブでアンカーポイントを置く色を選択することができます。

- **現在のチャンネルをリセット**
  このボタンをクリックして、彩度チャンネルだけを初期設定値にリセットします。

- **全てのチャンネルをリセット**
  このボタンをクリックして、LCHエ

ディター内の全てのチャンネルを初期設定値にリセットします。

- 一時キャンセルボタン
  このボタンを押さえると、一時的に彩度チャンネルの効果を隠すことができます。

■ 色相

色相チャンネルでは、輝度や彩度に影響を与えることなく画像内の特定の色や画像全体の色相を編集することができます。色相チャンネルでは、画像の色を変更したり、画像の色がもっと自然な色相になるよう色を細かく調整させることができます。

色相チャンネルには、色相マップがあり、これは、回転された水平軸に色のスペクトル全体を表示するものです。デフォルトでは、色相マップは60度回転しています。色相マップ回転プルダウンメニューからこの他の回転数値を選択することができます。色相マップに重ねられる色相カーブが、個々の色の色相を取り出し、調整するために利用できます。

色相カーブをクリックすることでアンカーポイントを作成することができます。アンカーポイントを動かすと、色範囲で影響される部分にある色が色相マップで表示される別の色にシフトされます。このシフトは、色相マップの回転に依存します。回転値が高ければ高いほど、大きなシフトが可能になります。アンカーポイントは、クリックして色相マップの外にドラッグすることにより削除できます。

幅スライダーを利用して、アンカーポイントで特定される色によって影響される類似の色の範囲を大きくしたり小さくしたりできます。

出力スライダーは、画像全体で一様に全ての色相をコントロールします。このスライダーを動かすことにより全ての色が同じ量だけシフトします。

色相チャンネルには、この他に数多くのコントロール機能があります。

- アンカーポイントの設定
  このボタンをクリックし次に画像をクリックすると、色相カーブでアンカーポイントを置く色を選択することができます。

- 現在のチャンネルをリセット
  このボタンをクリックして、色相チャンネルだけを初期設定値にリセットします。

- 全てのチャンネルをリセット
  このボタンをクリックして、LCHエディター内の全てのチャンネルを初期設定値にリセットします。

- 一時キャンセルボタン
  このボタンを押すと、一時的に色相エディターの効果を隠すことができます。

- 色相マップの回転
  このプルダウンメニューを用いて、色相マップの回転を選択します。

LCHエディターの効果を適用するには、[OK] ボタンをクリックします。この機能をキャンセルするには、[キャンセル] ボタンをクリックします。

カラーバランス

カラーバランス機能は、明るさ、コントラスト、カラーバランスを簡単に調整できるようにします。

カラーバランスダイアログ内のスライダーを動かすことにより画像に対するそのスライダーの機能を見ることができます。

■ 明るさ

このスライダーを左に動かすと画像が暗くなり、右に動かすと明るくなります。

■ コントラスト

このスライダーを左に動かすとコントラストが弱くなり、右に動かすと強くなります。

■ 赤

このスライダーを左に動かすと、画像の赤が弱くなりシアンが強くなります。このスライダーを右に動かすと、画像の赤が強くなりシアンが弱くなります。

■ 緑

このスライダーを左に動かすと、画像の緑が弱くなりマゼンタが強くなります。このスライダーを右に動かすと、画像の緑が強くなりマゼンタが弱くなります。

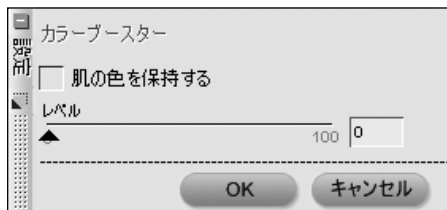
■ 青

このスライダーを左に動かすと、画像の青が弱くなりイエローが強くなります。このスライダーを右に動かすと、画像の青が強くなりイエローが弱くなります。

カラーバランスの効果を適用する場合は [OK] ボタンを、適用しない場合は［キャンセル］をクリックします。

ショートカットキー：

Ctrl + B (Windows)
Command + B (Mac OS)

カラーブースター

カラーブースターで、色の彩度を最適に調整することができます。カラーブースターを利用して、画像の色の彩度を高めます。

■ レベル

レベルスライダーを右に動かし、画像の色の彩度を高めます。

■ 肌の色を保持する

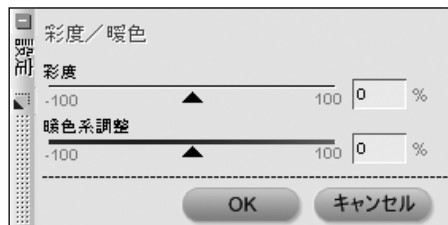
「肌の色を保持する」チェックボックスがチェックされていると、肌の色に影響を与えることなく画像の色を鮮やかにすることができます。

■ 自動

自動ボタンをクリックすると、Capture NXは画像の元の明るさに基づき画像に適用する彩度のレベルを自動的に決定します。

カラーブースターの効果を適用する場合は[OK] ボタンを、適用しない場合は[キャンセル] をクリックします。

ご注意： 基本画像調整内のサブステップである明るさと色の調整からカラーブースターを選択した場合にのみ、[自動] ボタンは有効になります。

彩度/暖色

彩度/暖色機能は、画像の彩度と暖色両方を効果的に調整する手段を提供します。彩度/暖色処理は、選択ツールを利用して希望する部分にペイントできる彩度効果または暖色効果を、簡単に作り出す方法です。内蔵コントロールを利用して画像を調整します。

■ 彩度

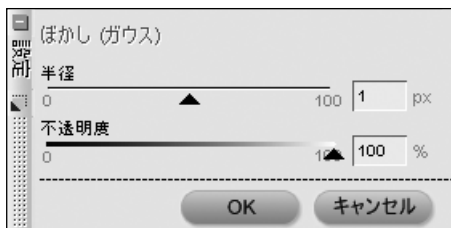
彩度スライダーは、画像全体の色の鮮やかさをコントロールします。このスライダーを右に動かすと色が鮮やかになり、左に動かすと鮮やかさが減少します。スライダーを左端まで動かすと、画像はモノクロになります。

■ 暖色系調整

暖色系調整スライダーは、画像全体の寒色と暖色の色合いをコントロールします。スライダーを左に動かすと画像全体の色調が寒色系（青味がかる）になります。このスライダーを右に動かすと、画像の色調の赤とオレンジが強くなり暖色系になります。

彩度/暖色の効果を適用する場合は[OK] ボタンを、適用しない場合は［キャンセル］をクリックします。

フォーカス

ぼかし（ガウス）

ぼかし（ガウス）画像処理を用いて、画像の中の細部を大きく低下させることができます。この画像処理は、目的の被写体を強調するために周辺をぼかす（視覚効果を低下させる）ことを目的として使用されることがあります。別の目的としては、この画像処理機能の不透明度スライダーを調整することにより肌の色調をなめらかにするために用いることができます。

半径スライダーおよび不透明度スライダーを用いて、ぼかし（ガウス）画像処理の結果を調整します。

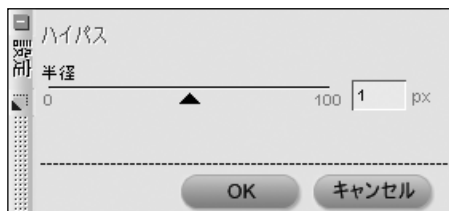
■ 半径

半径スライダーは、画像に適用されるぼかし効果の強さをコントロールします。

■ 不透明度

不透明度スライダーは、ぼかし（ガウス）を画像の細部とブレンドし、細部とぼかし効果のバランスを調整できるようにします。大きな半径と低い不透明度の組合わせは、かすんだようなソフトフォーカス効果を生み出し、小さな半径と中程度の不透明度の組合わせは、夢のようなムードを作り出します。

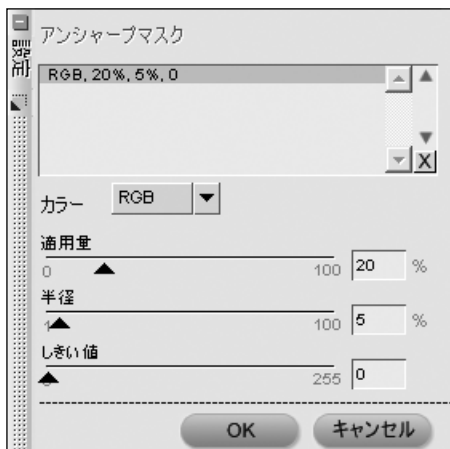
ぼかし（ガウス）の効果を適用する場合は[OK] ボタンを、適用しない場合は［キャンセル］をクリックします。

ハイパス

ハイパス機能は、非常に強いエッジ以外の画像の細部を全て消去します。この結果、元画像のエッジだけのニュートラルなグレー画像となります。この画像処理は、不透明度を［明るさと色］モードに設定し、不透明度 を 0%、描画モードを[オーバーレイ]にセットして用いられることがあります。ハイパス機能をこのように利用すると、対象部分のコントラストを調整したり、半径スライダーの設定によりますが、細部のレベルを高めたりすることができます。

■ 半径

半径スライダーは、画像で表示されるエッジの大きさをコントロールします。このスライダーの設定は、画像サイズによるので、ある画像に適した半径設定がより高い解像度の画像では充分でないことがあります。

ハイパスの効果を適用する場合は[OK] ボタンを、適用しない場合は［キャンセル］をクリックします。

アンシャープマスク

アンシャープマスク機能は、画像の輪郭を強調することで、シャープネスを向上させる機能です。アンシャープマスクは、画像全体のエッジのコントラストを高めるもので、適用量、半径、しきい値をコントロールします。Capture NX独自のアンシャープマスクツールは、常に画像の輝度に対して輪郭強調が適用されますので、画像内の色にじみが起こりません。

メモ：画像に適用する輪郭強調の量を判断する際は、画像を100%ズーム表示させて行なうことをお勧めします。

■ カラー（チャンネル）

シャープにしたいチャンネルをまず選択します。最初のチャンネルの設定を変更してから他のチャンネルを選択することもできます。初期設定では、RGBが選択されていて、画像内で同時に全てのチャンネル（RGB）の輪郭強調が可能です。RGBの輪郭強調を行なうことも、各色チャンネル（赤、緑、青、シアン、マゼンタ、イエロー）ごとに輪郭強調を行なうこともできます。

■ 適用量

適用したい輪郭強調効果の適用量を選択できます。輪郭強調の適用量が多ければ多いほど、画像に対する輪郭強調効果は目立ったものになります。適用量設定を多くしすぎると、輪郭が強調されすぎ人工的な画像になります。

■ 半径

半径スライダーで、輪郭強調効果の到達範囲を広げることができます。半径設定が大きければ大きいほど、強調された画像のエッジは幅広く見えます。

■ しきい値

しきい値スライダーは、現在の設定で輪郭強調が適用される限度を設定できるよう設計されています。しきい値設定が高ければ高いほど、画像はわずかしか輪郭強調されません。このスライダーは、輪郭強調を適用するには、あるピクセルとその隣のピクセルとの間の相違はどれだけ必要かを示します。このスライダーは、肌の部分を輪郭強調する場合や、空を輪郭強調する場合に、なめらかな部分にノイズが発生しないようにするのに役立ちます。しきい値を高く設定しすぎると、輪郭強調されないため、適切なバランスを見つけ出すことが重要です。

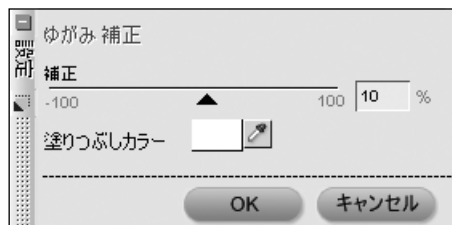
アンシャープマスク機能内の3つのスライダーの設定終了後、チャンネルメニューに戻り、輪郭強調を行なう他のチャンネルを選択します。

また、チャンネル輪郭強調リストボックスですでに輪郭強調を適用したチャンネルを選択することもできます。どれか

チャンネルを選択後、スライダーを動かし設定を変更したり、X ボタンをクリックしてそのチャンネルにおける効果を削除することができます。

アンシャープマスクの効果を適用する場合は［OK］ボタンを、適用しない場合は［キャンセル］をクリックします。

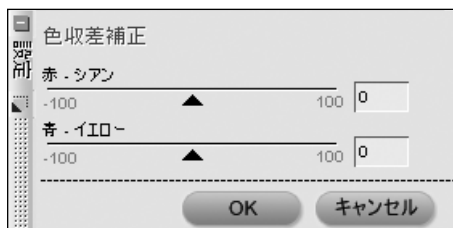
補正

ゆがみ補正

ゆがみ補正機能は、糸巻き形ゆがみや樽形ゆがみを補正します。糸巻き形ゆがみは、望遠レンズで撮影した画像に見られるもので、画像の中心に向かって画像が引き込まれるかのような見え方です。樽形ゆがみは、糸巻き形ゆがみの逆で、広角レンズで撮影した画像に見られるもので、画像の中心から外に向かって弓形に押し出されているかのような見え方です。糸巻き形ゆがみおよび樽形ゆがみは、画像の端の方がはっきりします。

糸巻き形ゆがみを補正するには、コントロールスライダーを左に動かします。樽形ゆがみを補正するには、コントロールスライダーを右に動かします。

糸巻き形ゆがみを大きく補正すると、元画像より小さくなってしまうことがあります。このような場合、Capture NXは画像情報が含まれていない部分を自動的に白で塗りつぶします。塗りつぶしの他の色を用いる場合は、塗りつぶし色ポップアップメニューから別の色を選択します。

ゆがみ補正機能の効果を適用する場合は［OK］ボタンを、適用しない場合は［キャンセル］をクリックします。

色収差補正

色収差補正機能は、色にじみを調整・補正するために用いられます。色収差は、異なる波長の光がレンズを通り抜け屈折する際その屈折角が異なるために起こります。この色収差と呼ばれる現象は、画像の中心から離れた位置にある被写体の縁に色にじみとして見られます。

色収差補正機能による補正は、画像の中心へあるいは中心から色をシフトさせる2つのスライダーにより色にじみを取り除きます。色収差補正を行なう際は、拡大率 100%で見ることをお勧めします。効果のバランスを保つため補正の結果を見るには、画像の四隅を観察することが特に重要です。

■ 赤 — シアン

赤 — シアンスライダーは、赤チャンネルを調整し、赤あるいはシアンの色にじみを減少させます。スライダーを左に動かすと赤の色にじみが減少し、右に動かすとシアンの色にじみが減少します。

■ 青 — イエロー

青 — イエロースライダーは、青チャンネルを調整し、青あるいはイエローの色にじみを減少させます。スライダーを左に動かすと青の色にじみが減少し、右に動かすとイエローの色にじみが減少します。

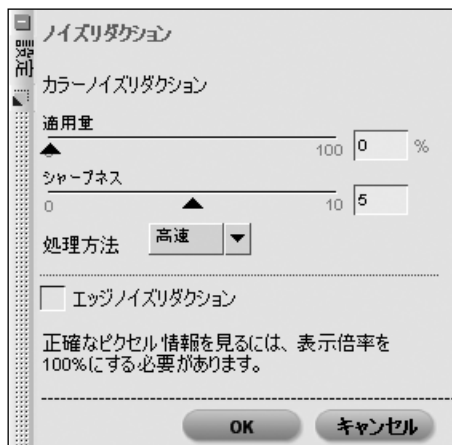
色収差補正の効果を適用する場合は[OK]ボタンを、適用しない場合は［キャンセル］をクリックします。

不透明度

不透明度は、ある画像処理を周辺とブレンドしたり、同じ種類のコントロールポイントの効果をブレンドしたりするために用います。

不透明度の詳しい機能説明については、66ページをご覧ください。

現在の画像処理のためのチャンネル、描画モード、チャンネルの不透明度を選択したら、[OK] をクリックして不透明度ミキサーの効果を適用します。[キャンセル] をクリックすると不透明度が画像に適用されないようになります。

ノイズリダクション

ノイズリダクション機能を使用することで、デジタルカメラで高感度撮影された画像に現れる場合があるざらつき感を低減することができます。

メモ：画像に適用するノイズリダクションの量を判断する際は、画像を100%拡大表示させて行なうことをお勧めします。

■ 適用量

適用量スライダーを右に動かすと、画像に適用されるカラーノイズリダクションの量が多くなり、画像がなめらかになります。あまり大きくノイズリダクションを適用すると細部が無くなることがあるので適用の程度には注意が必要です。

■ シャープネス

シャープネススライダーを左右に動かすことにより、0から10の範囲で設定できます。[適用量] を上げすぎると、なめらかになりすぎて解像度がないような画像になりますが、[シャープネス] の数値を上げると、解像度（質感）を高めることができます。

■ 処理方法

処理方法プルダウンメニューで高速あるいは高画質の2つの処理方法いずれかを選択します。高速処理には［高速］、正確なノイズリダクション効果には［高画質］を選択します。

■ エッジノイズリダクション

エッジノイズリダクションチェックボックスをチェックすると、Capture NXは画像内の被写体の境界に沿ったノイズを低減し、輪郭をよりはっきりさせます。

ノイズリダクションの効果を適用する場合は[OK] ボタンを、適用しない場合は［キャンセル］をクリックします。

カラープロファイル

カラープロファイル機能は、Capture NX画像独自のカラーマネージメントで、プロファイルを適用したり、現在のプロファイルを変更したりします。

Capture NXは、使用されているOSの初期設定のカラープロファイルフォルダを利用します。OSに対し他のプロファイルを追加あるいは作成した場合は、新しいプロファイルが初期設定のフォルダにあることを確認してください。一般的にカラープロファイルは次のフォルダに保存されています。

Windows Vista: Windows/System32/spool/drivers/color

Windows XP: Windows/System32/Spool/Drivers/Color

Windows 2000: Windows/System32/Color

Mac OS X: Library/ColorSync/Profiles

カラープロファイルには、画像に埋め込まれている現在のプロファイルが表示されています。画像のカラーマネージメントを行なうためのプロファイルを変更するには次の2つから選択します。

プロファイルを適用

[プロファイルを適用] を選択して、プロファイルを現在の画像に割り当てます。カメラのために作成したプロファイルのような入力プロファイルを画像に割り当てる際最もよく利用されます。

メモ：プロファイルを適用すると、モニター上では画像が変化することがありますが、色の値は変化しません。これは、入力機器のために作成されたプロファイルに基づき画像全体の色の表示を更新するからです。

これは、カラーマネージメントワークフローの重要な第1ステップで、これにより画像を出力処理のために変換できるようになります。プロファイルプルダウンメニューのプロファイルのリストから現在の画像に適用する入力プロファイルを選択します。

プロファイルに変換

[プロファイルに変換]で、現在の画像の色空間を出力機器の色空間に変換できます。結果として、実際の色値は変化しますが、モニター上では、色の見え方は変化しません。これは、出力機器の限界内で、同じ色が確実に再現されるよう色値を単純に変更するためです。

プロファイルの変換機能の結果は、印刷機能の中でカラーマネージメントオプションを使用した場合と同じです。画像はさまざまなプリンターで印刷されたり、同じプリンターであっても異なる設定で印刷されたりしますから、印刷段階でプロファイル変換を行なうことが一般的にお勧めです。プロファイルの変換機能を利用することは、他に印刷を依頼する場合や出力機器が他のカラープロファイルを持っている場合以外、お勧めできません。

画像のプロファイルを別の出力プロファイルに変換するには、まずプロファイルプルダウンメニューからターゲットとなるプロファイルを選択します。そこで、画像の変換に影響する他の2つのコントロール機能が提示されます。

■ マッチング方法

このマッチング方法では、画像に適用する4種類のマッチング方法のひとつを選択します。マッチング方法は、プリンタープロファイルによって示される、プリンターが作成することのできる色に合うように、画像の色をコントロールします。

メモ：プリンターと用紙の組合わせが異なる場合など、マッチング方法を変える利点があります。使用するワークフローで最もうまく行く方法を見つけ出すために、さまざまなマッチング方法をお試しいただくことをお勧めします。

- **知覚的**

  このマッチング方法は、印刷画像が自然に見えるよう色の関係を維持します。このマッチング方法は、色の関係を維持しますが、実際の色値は変更されます。

- **彩度**

  このマッチング方法は、彩度の高い色を作り出しますが、画像における正確な色を作り出すとは限りません。

- **相対的な色域**

  このマッチング方法は、画像のホワイトポイントをプリンタープロファイルで定義されているホワイトポイントにマッピングし、色域内の色を正確に再現します。また、色域外の色は、できる限り再現可能な色にシフトされます。

本来の色を可能な限り保持するため、画像の印刷には最適な選択肢となることがあります。

- 絶対的な色域

  このマッチング方法は、画像のホワイトポイントをプリンタープロファイルで定義されているホワイトポイントにマッピングしない点を除けば、「相対的な色域」に非常によく似ています。このマッチング方法は、用紙の色の影響も含め、出力機器の結果を再現するため、使用するプリンター以外の特定の印刷機器で画像を校正する場合にお勧めです。

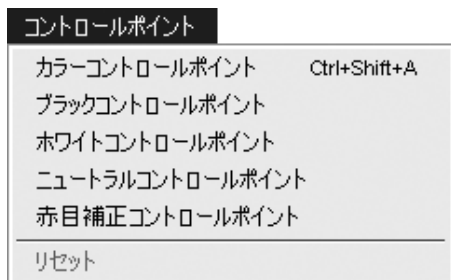
■ 黒点補正を使用する

このボックスをチェックして黒点補正を使用します。これにより、画像の黒点がプリンターの黒点に対応するようになりますので、プリンターのカラー範囲をフルに使用することができます。印刷結果にグレーのシャドー部分がある場合、または画像の絵柄が細かくない場合、［黒点補正を使用］をオフにしてください。特定のプリンターとプロファイルの組み合わせで問題が発生しない限り、常に使用することをお勧めします。

カラープロファイルの効果を適用する場合は[OK]ボタンを、適用しない場合は［キャンセル］をクリックします。

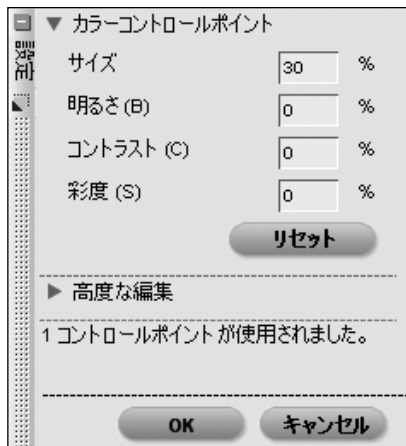
メモ：カラープロファイルの変更はどれもエディットリスト内に新規にステップを作成します。現在の画像の編集セッション内でいつもでカラープロファイルを削除したり変更したりすることができます。画像をNEF形式として保存した場合は、編集リストに戻り、色の細部を損失することなく、いつでもこのような変更を削除することができます。

コントロールポイントメニュー

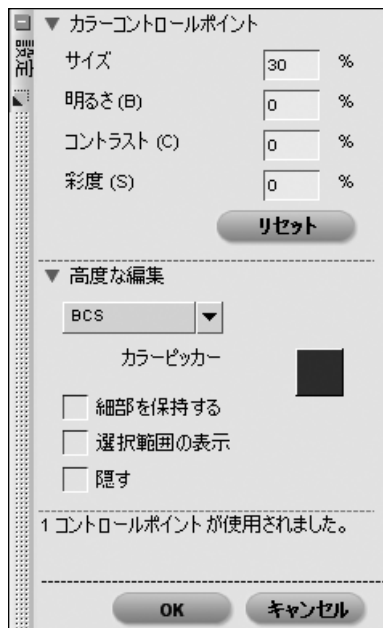
コントロールポイント
カラーコントロールポイント　Ctrl+Shift+A
ブラックコントロールポイント
ホワイトコントロールポイント
ニュートラルコントロールポイント
赤目補正コントロールポイント
リセット

カラーコントロールポイント

カラーコントロールポイントは、画像の色と明るさを調整します。カラーコントロールポイントで、選択範囲やマスクを作成することなく、選択的にカラー調整を行なうことができます。ブラウザーで画像を編集している間は、[カラーコントロールポイント] は利用できません。

コントロールポイントメニューからカラーコントロールポイントを選択すると、画像上にカラーコントロールポイントを配置することができ、カラーコントロールポイントダイアログボックスが表示されます。カラーコントロールポイントには４つのスライダーがあり、それぞれサイズ、明るさ、コントラスト、彩度に対応しています。スライダーのどれかを動かすと、コントロールポイントが画像に作用し、カラーコントロールダイアログ内のそのスライダーの値が更新されます。

▼ カラーコントロールポイント
サイズ　30　%
明るさ (B)　0　%
コントラスト (C)　0　%
彩度 (S)　0　%
リセット
▶ 高度な編集
1 コントロールポイント が使用されました。
OK　キャンセル

カラーコントロールポイントダイアログには、現在利用できるスライダーの数値が表示されているテキストボックスがあります。初期設定では、サイズ、明るさ、コントラスト、彩度の値が表示されています。また、現在のコントロールポイントを初期設定に戻すリセットボタンがあります。

高度な編集 ▶ ボタンをクリックすると、カラーコントロールポイントの高度な設定が表示されます。

カラーモードプルダウンメニューで、カラーコントロールポイントが影響を与える現在のカラーの要素を変更することができます。

メモ：同時に適用できるのはモードひとつだけです。あるモード中の変更は、別のモードには影響しません。

BCS

BCSモードは初期設定のモードで、サイズ、明るさ、コントラスト、彩度のスライダーがあります。

HSB

HSBモードには、サイズ、色相、彩度、明るさのスライダーがあります。

RGB

RGBモードには、サイズ、赤、緑、青のスライダーがあります。

全て

全てモードには、サイズ、色相、彩度、明るさ、コントラスト、赤、緑、青、暖色系調整のスライダーがあります。

カラーピッカー

カラーピッカーで、どんな色でも選択できます。現在のカラーコントロールポイントの目標になっている被写体は、カラーピッカーで指定される色に変更されます。

細部を保持する

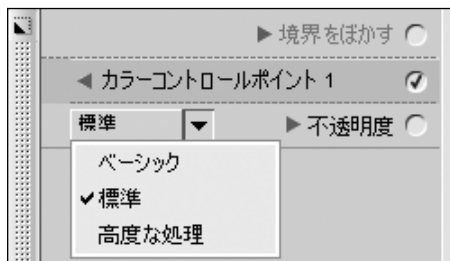
[細部を保持する] チェックボックスは、目標となっている色に対してコントロールポイントにより現在行なわれている変更を無効にします。[細部を保持する]を選択するとコントロールポイントで指定されている部分に影響を与える調整を無効にすることができます。画像に対するコントロール機能で[細部を保持する]がオンになっていても可能なものはサイズスライダーだけで、これは現在のコントロールポイントによって保持されている細部の範囲を調整するために利用できます。

選択範囲の表示

選択範囲の表示チェックボックスで、現在のカラーコントロールポイントが画像に影響を与える範囲を見ることができます。白になっている領域はカラーコントロールポイントによって影響される部分で、黒になっている領域はカラーコントロールポイントには影響されない部分です。カラーコントロールポイントを右クリック(Windows)またはコントロールクリック (Mac OS) して選択範囲の表示を選択することにより、簡単に[選択範囲の表示]を表示できます。

隠す

[隠す] オプションは、カラーコントロールポイントの効果を一時的に無効にします。画像に対するカラーコントロールポイントの調整前と調整後を比較するのに便利です。カラーコントロールポイントを右クリック(Windows)またはコントロールクリック(Mac OS)して隠すを選択することにより、簡単に[隠す]を表示できます。

カラーコントロールポイント処理方法

カラーコントロールポイント処理方法プルダウンメニューは、エディットリストの中でカラーコントロールポイントのグループの下にあり、現在のステップでのカラーコントロールポイントがどのように画像に適用されるか決定します。処理方法は、それぞれ異なるタイプの画像に対し最適化されたアルゴリズムを利用します。カラーコントロールポイントを利用する各ステップには、カラーコントロールポイント処理方法プルダウンメニューがひとつ含まれ、そこで利用可能な処理方法の中からひとつ選択します。画像に対しカラーコントロールポイント処理方法を複数利用するには、各処理方法に対応する新規ステップを作成する必要があります。異なる処理方法には次のものがあります。

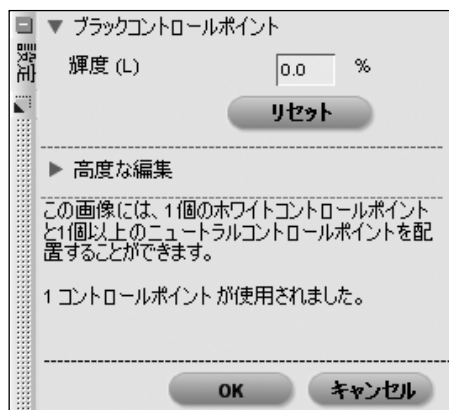
ベーシック ― 現在のステップから画像に対しカラーコントロールポイントを適用する最も高速で直接的な処理方法です。この処理方法はインターネット上で用いるグラフィックスやイラストレーションなどに対しお勧めです。

標準 ― 標準処理方法は、スピードと細部の保持とのバランスをとります。この処理方法は大半の画像に対してお勧めです。

高度な処理 ― 高度な処理方法は、シャドーを明るくする場合や、ノイズや粒状性の高い画像での作業で非常に優れた成果を生み出します。

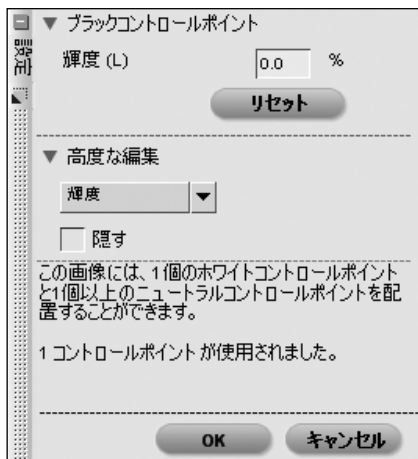
ショートカットキー：

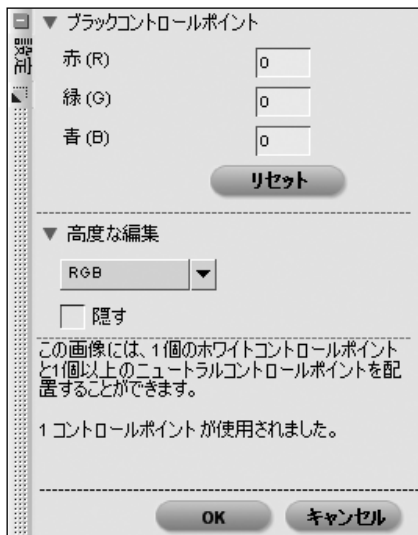
Ctrl + Shift + A (Windows) または
Command + Shift + A (Mac OS)

ブラックコントロールポイント

ブラックコントロールポイントは、画像上に配置し、対象の色を黒にするだけでなく、画像の暗い階調を中間色化します。ブラウザーで画像を編集している間は、[ブラックコントロールポイント] は利用できません。

ブラックコントロールポイントは、通常画像の最も暗いポイント上に設定し、画像のダイナミックレンジの黒側を決めるために使用します。画像情報の2階調化機能は、画像の最も暗い部分と最も明るい部分を見つけるのに役立ちます。 2階調化機能の使い方に関する詳しい情報については、106ページをご覧ください。ブラックコントロールポイントは、ホワイトコントロールポイントと組合わせて使用されることがあります。

ブラックコントロールポイントを画像上に配置すると、ブラックコントロールポイントダイアログボックスがエディットリストの隣に表示されます。ブラックコントロールポイントをドラッグすると位置を移動することができます。コントロールポイントを選択しキーボードのdeleteキーを押すことにより削除できますし、コントロールポイントのスライダーを利用して変更を加えることもできます。

ブラックコントロールポイントを配置後、スライダーを使用するか、ブラックコントロールポイントダイアログボックスに輝度値を入力することによりブラックコントロールポイントの輝度を調整することができます。リセットボタンを用いてブラックコントロールポイントの設定を初期設定に戻します。

高度な編集 ▶ ボタンをクリックすると、ブラックコントロールポイントの高度なコントロール機能が、ブラックコントロールポイントダイアログボックス内に表示されます。

ブラックコントロールポイントダイアログボックス内の高度な編集では、輝度のみをコントロールする設定から赤緑青を個別に設定するブラックコントロールポイントのコントロール方法が表示されます。

輝度

ブラックコントロールポイントの輝度モードでは、ブラックコントロールポイントをニュートラルな黒に設定することにより目標とする色を常に変化させます。画像をニュートラルな黒に設定すると多くのプリンターでは最適印刷になりますので、このモードは最も効率の良いモードです。

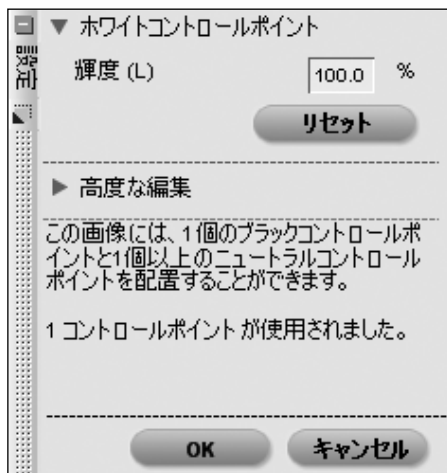
RGB

ブラックコントロールポイントのRGBモードでは、目標とするRGBのそれぞれの値を黒に設定することができます。ニュートラルな黒以外をプリンターが要求する場合便利です。

隠す

[隠す]は、ブラックコントロールポイントの効果を一時的に無効にします。画像に対するブラックコントロールポイントの調整前と調整後を比較するのに便利です。ブラックコントロールポイントを右クリック(Windows)またはコントロールクリック(Mac OS)することにより、簡単に[隠す]を表示できます。

各ステップには、ブラックコントロールポイントとホワイトコントロールポイントはそれぞれひとつしか含むことができませんが、ニュートラルコントロールポイントはいくつでも配置することが可能です。

ホワイトコントロールポイント

ホワイトコントロールポイントは、画像上に直接配置され、対象の色を白にするだけでなく、画像の明るい階調を中間色化します。ブラウザーで画像を編集している間は、[ホワイトコントロールポイント] は利用できません。

ホワイトコントロールポイントは、通常画像の最も明るい部分に設定され、画像のダイナミックレンジの白側を決めるために使用されます。画像情報の2階調化機能は、画像の最も暗い部分と最も明るい部分を見つけるのに役立つよう特に設計されています。 2階調化機能の使い方に関する詳しい情報については、106ページをご覧ください。ホワイトコントロールポイントは、ブラックコントロールポイントと組合わせて使用されることがあります。

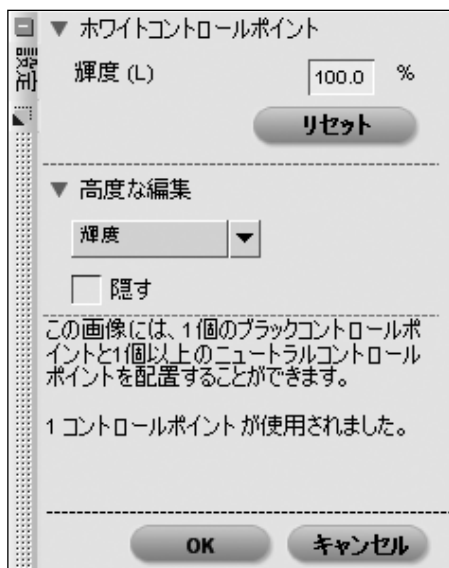
ホワイトコントロールポイントを画像上に配置すると、ホワイトコントロールポ

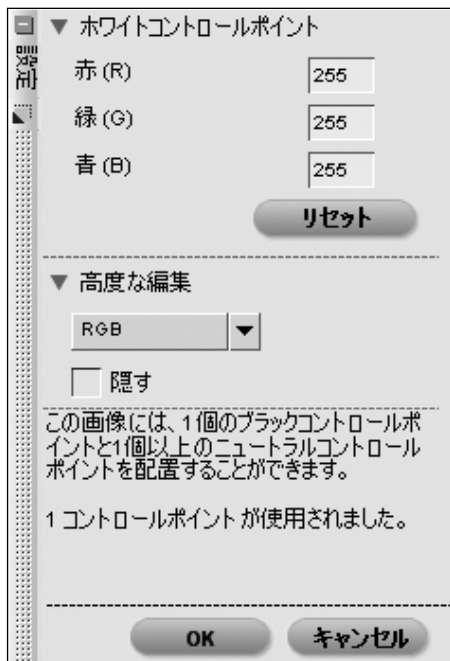
イントダイアログボックスがエディットリストの隣に表示されます。ホワイトコントロールポイントをドラッグすると位置を移動することができます。コントロールポイントを選択しキーボードのdeleteキーを押すことにより削除できますし、コントロールポイントのスライダーを利用して変更を加えることもできます。

ホワイトコントロールポイントを配置後、スライダーを用いるかあるいはホワイトコントロールポイントダイアログボックスに輝度値を入力することによりホワイトポイントの輝度を調整することができます。リセットボタンを用いてホワイトコントロールポイントの設定を初期設定に戻します。

高度な編集 ▶ ボタンをクリックすると、ホワイトコントロールポイントの高度な編集機能が、ホワイトポイントダイアログボックス内に表示されます。

ホワイトコントロールポイントダイアログボックスの高度な編集を開くと、輝度をコントロールするか、ホワイトコントロールポイントの個別の赤緑青の値をコントロールするかを切り換えることができます。ホワイトコントロールポイントを非表示にすることも初期設定に戻すことも可能です。

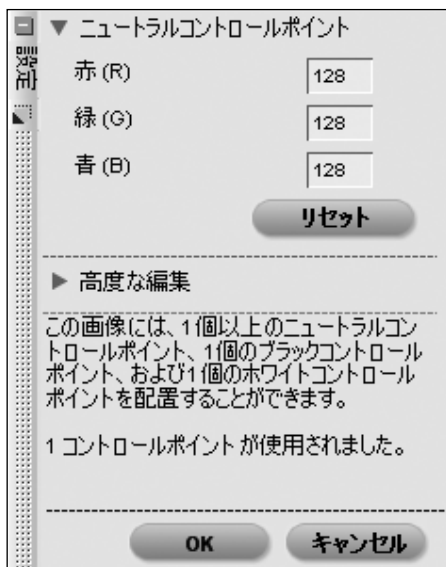
輝度

ホワイトコントロールポイントの輝度モードでは、ホワイトコントロールポイントが目標とする色を、この値の設定に基づき、常にニュートラルな白に変化させます。画像をニュートラルな白に設定すると多くのプリンターでは最適印刷になりますので、このモードは最も効率の良いモードです。このモードでは、ホワイトコントロールポイントのひとつのスライダーとホワイトコントロールポイントダイアログのひとつの入力ボックスしか設定できません。

RGB

ホワイトコントロールポイントのRGBモードでは、目標の白のRGBのそれぞれの値を設定することができます。ニュートラルな白以外をプリンターが要求する場合便利です。このモード内では、ホワイトポイントの赤緑青の値に対応するホワイトコントロールポイントの3つのスライダーとホワイトポイントダイアログの3つの入力ボックスが表示されます。

隠す

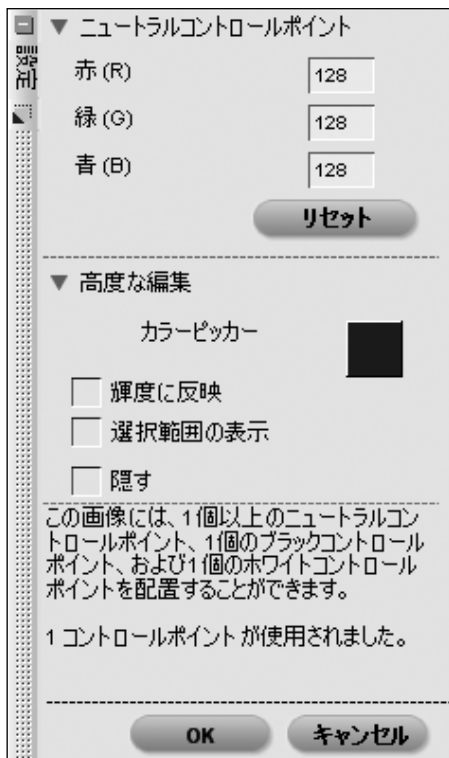
[隠す] は、ホワイトコントロールポイントの効果を一時的に無効にします。画像に対するホワイトコントロールポイントの調整前と調整後を比較するのに便利です。ホワイトコントロールポイントを右クリック (Windows) またはコントロールクリック (Mac OS) することにより、簡単に [隠す] を表示することができます。

各画像処理ステップには、ブラックコントロールポイントとホワイトコントロールポイントはそれぞれひとつしか含むことができませんが、ニュートラルコントロールポイントは無限の数まで可能です。

ニュートラルコントロールポイント

ニュートラルコントロールポイントは、目標となる色をニュートラルあるいは指定色にすることにより、画像の色かぶりを補正します。ブラウザーで画像を編集している間は、[ニュートラルコントロールポイント] は利用できません。

ニュートラルコントロールポイントの初期設定では、RGBの値がその色に関し等しくなるよう、目標となる色の色値を変更し

ます。特定に色のRGBの値を等しくすることにより、その色はニュートラル、つまり彩度なしになります。これは、撮影したシーンがグレーカードのようなニュートラルなものを含む場合便利です。ニュートラルコントロールポイントは、画像全体の色ばかりでなく目標となる被写体の色の相違を取り除きます。これによって生じる色の変化は、画像全体に影響します。

メモ：初期設定では、ニュートラルコントロールポイントは、画像の色値には影響しません。画像内の色の関係に影響を与えるだけです。

ニュートラルコントロールポイントを画像に配置すると、エディットリストの隣にニュートラルコントロールポイントダイアログボックスが表示されることに加え、RGBの値のスライダーを含むコントロールポイントが表示されます。初期設定では、3つのスライダーとも互いに同じ値です。これらの値を変更することにより、結果的に、目標となる色がスライダーの値の色で表示されます。つまり、スライダーの値をニュートラルグレー以外の色にすることで、Capture NXがスライダーで指定される新しい色で目標となる色を置き換えます。ニュートラルコントロールポイントはスライダーが動かされた方向に色かぶり全体をシフトします。例えば、赤スライダーを値の大きい

方向に動かすと、現在表示されている色より赤みの強い色で画像を表示します。

ニュートラルコントロールポイントの独特の機能のひとつとして、同一画像の同一画像処理ステップで複数のニュートラルコントロールポイントを利用することが可能であることが挙げられます。この機能により、別々の対象を識別し、画像に表れている複数の色かぶりをニュートラルにすることができます。複数のニュートラルコントロールポイントを用いる場合、ニュートラルコントロールポイントは、相互に関連して画像全体に影響を与え、別々の対象を補正し、そのプロセスで複数の色かぶりを取り除きます。

ニュートラルコントロールポイントダイアログ内では、ニュートラルコントロールポイントに対しRGBの値を直接入力する入力ボックスが表示されます。リセットボタンを用いてニュートラルコントロールポイントの設定を初期設定に戻します。

ニュートラルコントロールポイントのこの他のコントロール機能は、高度な編集ボタンをクリックすると表示されます。ニュートラルコントロールポイントの機能をさらに強化する、その他のコントロール機能は、ニュートラルコントロールポイントダイアログの「高度な編集」エリアに表示されています。

輝度に反映

[輝度に反映] チェックボックスで、ニュートラルコントロールポイント内の輝度を調整することができます。このボックスをチェックすると、ニュートラルコントロールポイントとニュートラル

コントロールポイントダイアログに輝度スライダーと入力ボックスが追加されます。ニュートラルコントロールポイントがひとつしか適用されていない時にこの値を変更すると、画像全体の中間色調に反映されます。同一画像処理ステップ内で複数のニュートラルコントロールポイントが同一画像に適用されている時、輝度スライダーに対してなされた変更は、類似の色も含め目標となる色に影響を与えます。

カラーピッカー

カラーピッカーの色見本は、ニュートラルコントロールポイント効果のベースとして用いられている現在の色を表示します。カラーピッカーでは、どんな色でも選択できます。ニュートラルコントロールポイントの最適な利用方法のひとつは、記憶色によって表示されている被写体にコントロールポイントを配置しカラーピッカーから対応する記憶色領域を選択することです。Capture NXには、空の色、肌の色、葉の色のように最も一般的な記憶色が４色あります。例えば、ニュートラルコントロールポイントを空に配置し、カラーピッカーの色見本をクリックし、カラーピッカーの色見本部分を開き、空の記憶色領域から色を選択することができます。こうすることにより、目標となる空の色と定義されている空の記憶色との差を画像全体から取り除くことにより画像から色かぶりを取り除きます。

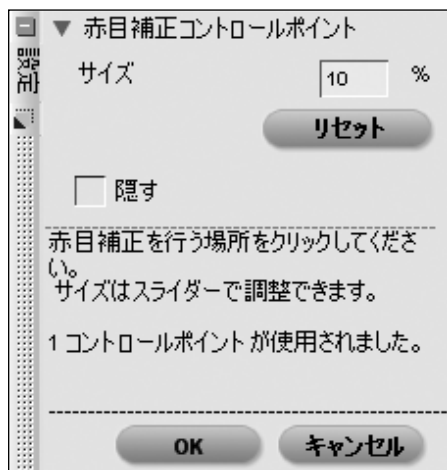
選択範囲の表示

[選択範囲の表示]チェックボックスで、現在のニュートラルコントロールポイントが画像に影響を与える範囲を見ることができます。白の領域はニュートラルコントロールポイントによって影響される部分で、黒の領域はニュートラルコントロールポイントには影響されない部分です。ニュートラルコントロールポイントを右クリック(Windows)またはコントロールクリック(Mac OS)することにより、簡単に[選択範囲の表示]を表示させることができます。

隠す

[隠す]は、ニュートラルコントロールポイントの効果を一時的に無効にします。画像に対するニュートラルコントロールポイントの調整前と調整後を比較するのに便利です。ニュートラルコントロールポイントを右クリック(Windows)またはコントロールクリック(Mac OS)することにより、簡単に [隠す]を表示させることができます。

各画像処理ステップには、ブラックコントロールポイントとホワイトコントロールポイントはそれぞれひとつしか含むことができませんが、ニュートラルコントロールポイントは何個でも配置することが可能です。

赤目補正コントロールポイント

赤目補正コントロールポイントは、フラッシュ撮影によって起きることがある赤目現象を補正することができます。赤目補正コントロールポイントを選択し、赤目となっている部分を指定します。ブラウザーで画像を編集している間は、赤目補正コントロールポイントは利用できません。

サイズスライダーを動かし赤目補正コントロールポイントの効果の適用範囲をコントロールします。

隠す

[隠す]は、赤目補正コントロールポイントの効果を一時的に無効にします。画像に対する赤目補正コントロールポイントの調整前と調整後を比較するのに便利です。赤目補正コントロールポイントを右クリック(Windows)またはコントロールクリック(Mac OS)することにより、簡単に[隠す]を表示させることができます。

リセット

コントロールポイントメニュー内のリセット機能で、現在選択されているコントロールポイントを初期設定状態にリセットすることができます。

フィルタメニュー

フィルタ
- 色変換
- 粒状／ノイズを加える
- コントラスト：色範囲
- カラー化する
- 白黒変換

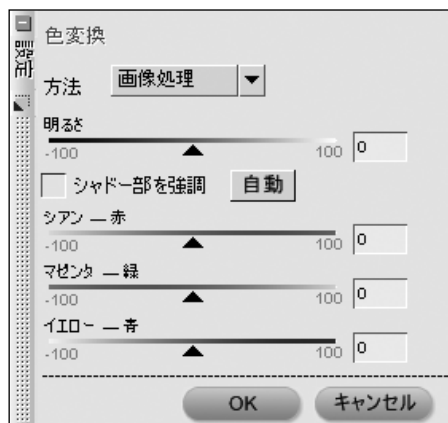
色変換

色変換機能を使用して、白黒、セピア、その他の色味の画像を作成することができます。また画像の色調をコントロールしたり、暗い色調を強調したり、カラーバランスを調整することもできます。

色変換機能を使用するには、色変換の画像処理ステップにある ▶ ボタンをクリックします。これにより色変換ダイアログが表示されます。

まず、画像に反映させたい処理方法を選択します。画像処理、白黒、セピア、その他の色味から選択します。

メモ：同時にはひとつのモードしか選択できません。

画像処理

画像処理は、色変換機能を開く際利用できる初期設定の処理方法です。このモードでは、画像の色調を調整したり、暗い色調を強調したり、カラーバランスを調整することができます。

■ 明るさ

明るさスライダーで、画像全体の色調を調整します。このスライダーを左に動かすと画像が暗くなり、右に動かすと明るくなります。

■ シャドー部を強調

[シャドー部を強調] チェックボックスにより、色変換機能が画像のシャドー部の細部をさらにくっきりさせます。

■ 自動

自動ボタンをクリックすると、自動的に明るさを調整します。また[シャドー部を強調]を適用するかどうか自動的に判断します。

■ シアン—赤

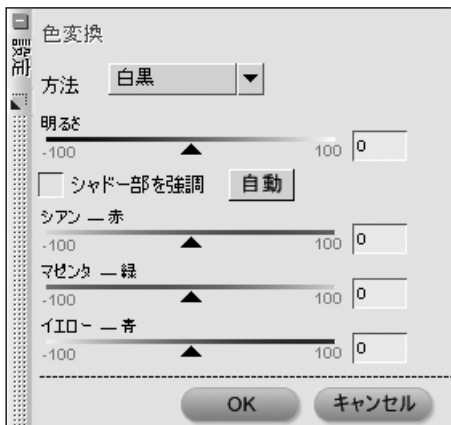
シアン—赤スライダーでは、画像の色をシアンから赤にシフトすることができます。このスライダーを左に動かすと、画像の赤が弱くなりシアンが強くなり、このスライダーを右に動かすと、画像の赤が強くなりシアンが弱くなります。

■ マゼンタ—緑

マゼンタ—緑スライダーでは、画像の色をマゼンタから緑にシフトすることができます。このスライダーを左に動かすと、画像の緑が弱くなりマゼンタが強くなります。このスライダーを右に動かすと、画像の緑が強くなりマゼンタが弱くなります。

■ イエロー—青

イエロー—青スライダーでは、画像の色をイエローから青にシフトすることができます。このスライダーを左に動かすと、画像の青が弱くなりイエローが強くなります。このスライダーを右に動かすと、画像の青が強くなりイエローが弱くなります。

白黒

白黒は、現在の画像を白黒画像に変換しますが、どのように白黒に変換するか選択することができます。

■ 明るさ

明るさスライダーは、画像全体の色調を調整します。このスライダーを左に動かすと画像が暗くなり、右に動かすと明るくなります。

■ シャドー部を強調

[シャドー部を強調] チェックボックスにより、色変換機能が画像のシャドー部の細部をさらにくっきりさせます。

■ 自動

自動ボタンをクリックすると、自動的に明るさを調整します。また「シャドー部を強調」オプションを適用するかどうか自動的に判断します。

■ シアン—赤

シアン—赤スライダーは、画像の白黒効果を調整します。このスライダーを右に動かすと、シアンを含む被写体は明るくなり、赤を含む被写体は暗くなります。

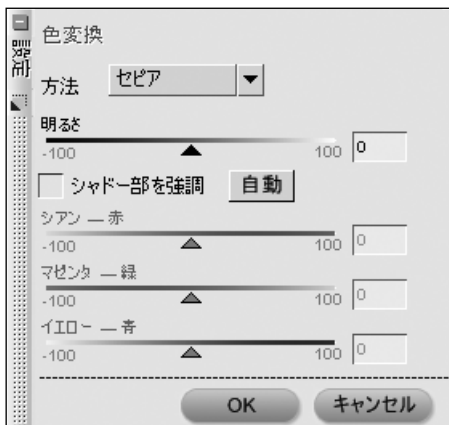
このスライダーを左に動かすと、シアンを含む被写体は暗くなり、赤を含む被写体は明るくなります。

■ マゼンター—緑

マゼンター—緑スライダーは、画像の白黒効果を調整します。このスライダーを右に動かすと、マゼンタを含む被写体は明るくなり、緑を含む被写体は暗くなります。このスライダーを左に動かすと、マゼンタを含む被写体は暗くなり、緑を含む被写体は明るくなります。

■ イエロー—青

イエロー—青スライダーは、画像の白黒効果を変更します。このスライダーを右に動かすと、イエローを含む被写体は明るくなり、青を含む被写体は暗くなります。このスライダーを左に動かすと、イエローを含む被写体は暗くなり、青を含む被写体は明るくなります。

セピア

セピアモードは、画像をセピア色に変換します。

■ 明るさ

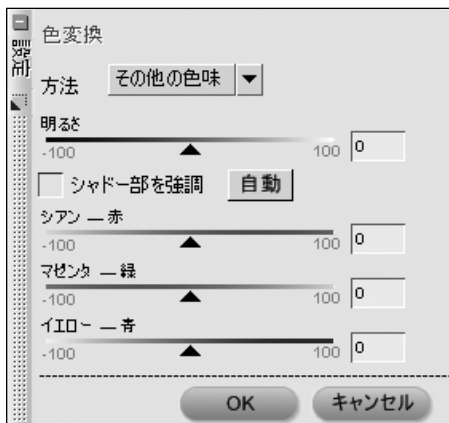
明るさスライダーで、画像全体の色調を調整します。このスライダーを左に動かすと画像が暗くなり、右に動かすと明るくなります。

■ シャドー部を強調

[シャドー部を強調] チェックボックスにより、色変換機能が画像のシャドー部の細部をさらにくっきりさせます。

■ 自動

自動ボタンをクリックすると、自動的に明るさを調整します。また[シャドー部を強調]オプションを適用するかどうか自動的に判断します。

その他の色味

画像をモノクロに変換します。また、3つの色（赤、緑、青）の各スライダーを使用して、モノクロ画像を着色することができます。

■ 明るさ

明るさスライダーで、画像全体の色調を調整します。このスライダーを左に動かすと画像が暗くなり、右に動かすと明るくなります。

■ シアン—赤

シアン—赤スライダーでは、使用するフィルタのシアンあるいは赤の量をコントロールします。このスライダーを左に動かすと、フィルタの赤が弱くなりフィルタと画像のシアンが強くなります。このスライダーを右に動かすと、フィルタと画像の赤が強くなります。

■ マゼンタ—緑

マゼンタ—緑スライダーでは、使用するフィルタのマゼンタあるいは緑の量をコントロールします。このスライダーを左に動かすと、フィルタの緑が弱くなりフィルタと画像のマゼンタが強くなります。このスライダーを右に動かすと、フィルタと画像の緑が強くなります。

■ イエロー—青

イエロー—青スライダーでは、使用するフィルタのイエローあるいは青の量をコントロールします。このスライダーを左に動かすと、フィルタの青が弱くなりイエローが強くなります。このスライダーを右に動かすと、フィルタと画像の青が強くなります。

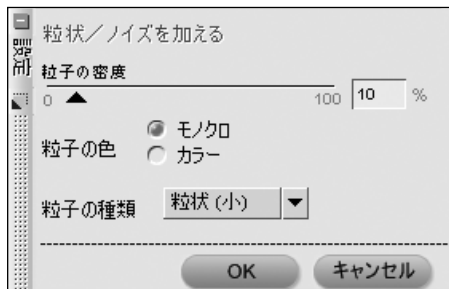
■ シャドー部を強調

［シャドー部を強調］チェックボックスにより、色変換機能が画像のシャドー部の細部をさらにくっきりさせます。

■ 自動

自動ボタンをクリックすると、自動的に明るさを調整します。また［シャドー部を強調］を適用するかどうか自動的に判断します。

色変換の効果を適用する場合は［OK］ボタンを、適用しない場合は［キャンセル］をクリックします。

粒状/ノイズを加える

「粒状/ノイズを加える」機能は、粒子あるいはノイズの効果を画像に加えるものです。粒状機能はさまざまな大きさのフィルム粒子のような効果を画像に適用し、ノイズ機能は単調な画像に効果的な階調表現を適用します。

[粒状/ノイズを加える] ダイアログには、次のコントロール機能があります。

■ 粒子の密度

このスライダーを右に動かし、画像に適用される粒状/ノイズの量を大きくします。

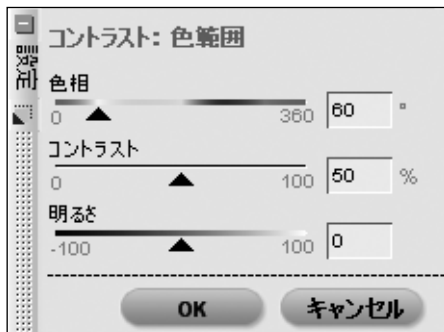
■ 粒子の色

この機能を用いて、粒子あるいはノイズがカラーまたはモノクロで構成されるかを選択します。

■ 粒子の種類

この機能を用いて、画像に適用される粒状/ノイズの処理方法を選択します。小さな粒子、中程度の粒子、大きな粒子、ノイズから選択します。

粒状/ノイズの効果を適用する場合は [OK] ボタンを、適用しない場合は [キャンセル] をクリックします。

コントラスト：色範囲

コントラスト：色範囲機能で、画像全体に色かぶりを生じさせずに画像内の選択された色同士のコントラストを調整することができます。このツールを用い、カラーフィルタで白の色調を調整するのと同様なやり方で、特定の色を識別して選びます。

[コントラスト:色範囲] ダイアログには、次のコントロール機能があります。

■ 色相

色相スライダーで、コントラストを適用する目標となるカラーレンジを選択します。選択された色は明るくなり、補色は暗くなります。例えば、赤フィルタの効果を得るためにスライダーの赤の部分を選択すると、赤が明るくなり、赤の補色であるシアンは暗くなります。

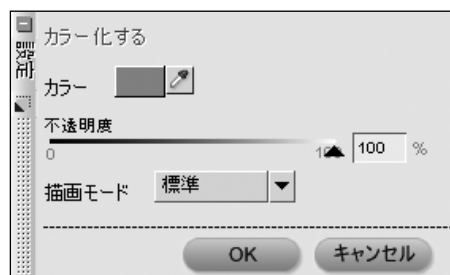
■ コントラスト

コントラストスライダーは、色相スライダーで選択された色とその色の補色との間のコントラストに影響を与える量を指定します。このスライダーを左に動かすと効果が弱くなり、これに対し、右に動かすと効果が強くなり、選択された色はより明るく、補色はより暗くなります。

■ 明るさ

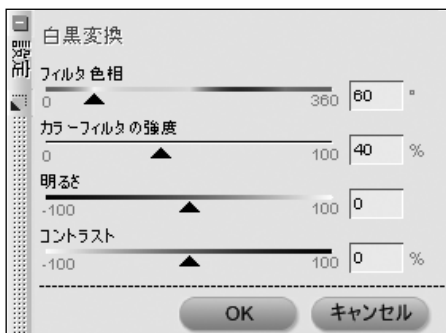
明るさスライダーは、画像全体の明るさを調整します。スライダーを左に動かすと画像が暗くなり、右に動かすと明るくなります。

コントラスト：色範囲の効果を適用する場合は[OK] ボタンを、適用しない場合は [キャンセル] をクリックします。

カラー化する

この画像処理では、選択ツールを用いて部分的あるいは全体的に、色を加えることができます。[カラー化する] は、画像処理がまだ適用されていない画像処理ステップで選択ツールを選択すると自動的に適用されるツールです。

[カラー化する] で使用する色は、現在開いている画像からスポイトツールで選択するか、カラーピッカーから選択することができます。

[カラー化する] の効果を適用する場合は [OK] ボタンを、適用しない場合は [キャンセル] をクリックします。

白黒変換

白黒変換は、ハイライト、シャドー、元画像との関係を調整しながら、カラー画像を白黒に変換します。この機能には、従来の白黒画像の処理コントロール機能と同様のものに加え、デジタル画像処理が含まれています。

■ フィルタ色相

フィルタ色相スライダーは、カラーから白黒に画像を変換する際使用されるフィルタの色相を選択します。

■ カラーフィルタの強度

カラーフィルタの強度スライダーは、白黒変換に使用するフィルタの強度を設定します。強度を高く設定すればするほど、フィルタの結果が強調されます。

■ 明るさ

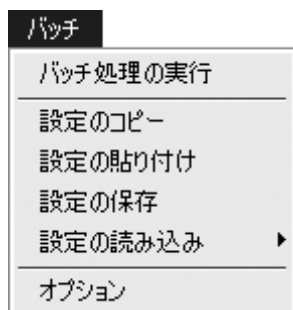
明るさスライダーは、画像全体の明るさを調整します。スライダーを左に動かすと画像が暗くなり、右に動かすと明るく

なります。

■ コントラスト

コントラストスライダーで、画像のコントラストを調整することができます。スライダーを左に動かすと画像全体のコントラストが低下し、右に動かすとコントラストが強まります。

バッチメニュー

バッチ
バッチ処理の実行
設定のコピー
設定の貼り付け
設定の保存
設定の読み込み
オプション

バッチ処理の実行

[バッチ処理の実行]は、バッチ処理パネルを直接開きます。[バッチ処理の実行]は、画像フォルダに適用を開始したい設定ファイルがある場合使用します。バッチ処理コマンドに関する詳しい情報は、194ページをご覧ください。

設定のコピー

[設定のコピー]は、現在の画像の設定全体あるいはエディットリストの選択された画像処理ステップだけをCapture NXのクリップボードにコピーします。画像処理は、一時的にクリップボード上に置かれると、別の画像、複数の画像、同じ画像に貼り付けることができます。

現在の画像の設定全体をコピーするには、バッチメニューの[設定のコピー]を選択します。エディットリストから選択された設定をコピーするには、そのステップあるいは画像処理をクリックします。

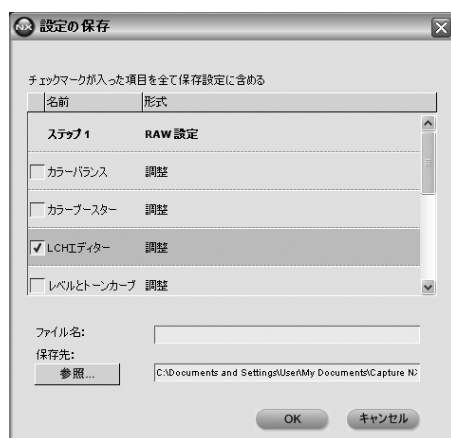
ヒント：一度に複数の画像処理ステップをコピーすることができます。Ctrl (Windows) またはCommand (Mac OS)を押さえながらクリックすることで複数の画像処理ステップが選択できます。コピーする範囲内の最初の画像処理ステップをクリックし [Shift] キーを押さえながら範囲内の最後のステップあるいは画像処理をクリックするすることで、画像処理ステップあるいは画像処理の範囲全体を選択することができます。

設定の貼り付け

[設定の貼り付け]は、Capture NXのクリップボード上に現在置かれている設定を画像あるいはブラウザー内で選択された画像に貼り付けます。

設定の貼り付けを利用するには、すでに設定がコピーされていることが必要で、その後[設定の貼り付け]を選択します。設定は、イメージウィンドウあるいはブラウザー内の現在の画像に貼り付けることができますし、ブラウザー内で選択された複数の画像に貼り付けることも可能です。貼り付けられた設定は、選択された画像のエディットリストの最後に付け加えられます。

基本画像調整の独自性のため、画像は基本画像調整をひとつしか持つことができません。基本画像調整を画像に貼り付けると、元の基本画像調整の内容は、新しい基本画像調整の内容に置き換えられます。基本画像調整全体が上書きされないようにするには、基本画像調整内の個別の画像処理を選択し、コピーし貼り付けます。

設定の保存

[設定の保存] を選択し、[設定の保存] ダイアログを開きます。[設定の保存] ダイアログでは、バッチ処理で利用できる設定ファイルを作成することができます。

[設定の保存] ダイアログが開くと、現在の画像の編集リストが表示されます。この編集リストから、どの画像処理を設定ファイルとして保存するか指定して選択することができます。

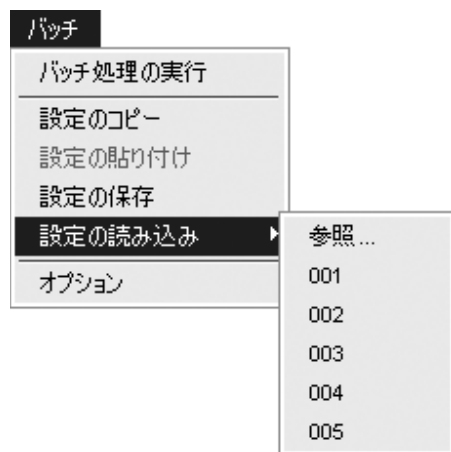
[設定の保存] ダイアログで、さまざまな画像処理ステップで適用された画像処理を保存するか、現在の画像に適用された画像処理で選択されたものを保存するかを選択できます。設定ファイルに保存したい画像処理や調整処理のチェックボックスをオンにします。設定の保存を選択する前にエディットリストから設定ファイルに保存する設定を選択することによりあらかじめどの設定を保存するか決めることができます。

設定ファイルとして使用するファイル名を入力します。ここで入力するファイル

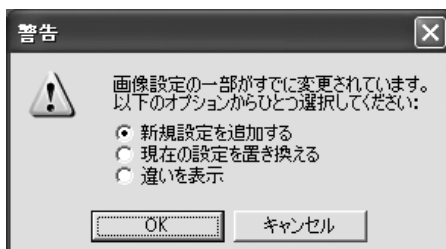
名は、[設定の読み込み]サブメニューに表示されます。

Capture NXは設定ファイルをCapture NXの設定フォルダに保存します。初期設定では、設定フォルダ内にある設定ファイルは、全て[設定の読み込み]サブメニューに表示されます。設定ファイルを別のフォルダに保存する場合は、[参照]ボタンをクリックします。設定の読み込みサブメニューで[参照]を使用して、設定ファイルを読み込むこともできます。

設定ファイルに画像処理をひとつしか保存しない場合は、Capture NXは、選択された画像処理の名前のフォルダに設定ファイルを置きます。このファイルを別のフォルダに保存する場合は、[参照] ボタンをクリックし別のフォルダを探します。

設定の読み込み

設定の読み込みサブメニューには、バッチ処理としてひとつあるいは複数の画像に適用できる設定ファイルで現在利用できるもののリストが含まれています。193ページで説明しているように、設定オプションでこのリストを変更することができます。

適用を希望する設定ファイルを選択すると、イメージウィンドウ上なら現在の画像、ブラウザー上なら選択された画像に、Capture NXがこの設定を適用します。また、バッチメニューからバッチ処理の実行を選択することにより、特定のフォルダにバッチ処理を適用することも可能です。JPEGファイルやTIFFファイルにバッチ処理を適用すると、待機リストが利用できるようになります。

バッチ処理の警告

NEF形式の画像にバッチ処理を適用したときに相反する機能がある場合、Capture NXは、バッチ処理の適用方法を決定することができる警告ボックスを表示することにより警告します。

■ 新規設定を追加する

この設定は、設定ファイルの画像処理をすべてエディットリストの最後に付加します。

メモ：設定ファイルに基本画像調整の設定が含まれている場合は、この項目は利用できません。

■ 現在の設定を新しい設定で置き換える

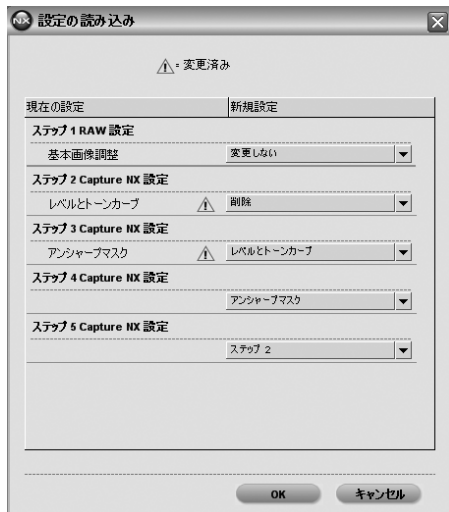
この設定は、バッチ処理の対象となる画像の設定を全て設定ファイルの設定で上書きします。

■ 違いを表示

設定の読み込み

⚠ = 変更済み

現在の設定		新規設定
ステップ 1 RAW 設定		
基本画像調整		変更しない
ステップ 2 Capture NX 設定		
レベルとトーンカーブ	⚠	削除
ステップ 3 Capture NX 設定		
アンシャープマスク	⚠	レベルとトーンカーブ
ステップ 4 Capture NX 設定		
		アンシャープマスク
ステップ 5 Capture NX 設定		
		ステップ 2

OK　キャンセル

この設定では、設定を追加したり、置き換えることができます。

[違いを表示]は、バッチ処理の対象となる画像の現在の設定と、設定ファイルの項目を含むポップアップメニューを表示します。最初に、元画像の基本画像調整設定を使用するか、または設定ファイル内の基本画像調整設定を使用するか指定します。

次に、各画像処理ステップにどの設定を適用するか選択します。基本画像調整以外の画像処理ステップの新規設定プルダウンメニューには、設定ファイル内の画像処理全てのリストが含まれています。画像処理ステップの元の設定を保持する、設定ファイル内の項目とその画像処理ステップの項目を置き換える、画像処理ステップそのものを削除するなどいずれかを選択することができます。

[違いを表示]ダイアログは、目標となる画像で利用できるステップよりひとつ多くの画像処理ステップを表示します。追加された画像処理ステップを利用して、画像処理を編集リストの最後に付加することができます。

画像をどのように処理するか決まるまでエディットリストを続けて変更することができます。[OK] をクリックすると待機リストが表示されます。

待機リスト

待機リストは、現在のバッチ処理の状態を表示し、バッチ処理を開始したり中止させたりできます。さらに、待機リストとともに、すでに処理された画像のリストを含む

ログが表示され、画像の保存先、ファイル名、ファイル形式が変更できます。待機リストを最小化し、処理を行いながら、別の画像で作業を行なうことができます。初期設定でバッチを処理するには、[開始]ボタンをクリックします。

メモ：処理が行なわれている間、待機リストのコントロール機能を変更することはできません。設定を変更する場合は、処理を一旦停止させます。
待機リスト内のコントロール全機能のリストを表示させるには、詳細表示の隣の ▶ ボタンをクリックします。処理中の画像のサムネイル画像とともに適用されているタスクのプログレスバーが表示されます。

■ 待機中

待機中ウィンドウは、現在処理を待っている画像のリストを表示します。ある画像の処理を取り消す場合は、その画像のチェックボックスをオフにします。

■ ログウィンドウ

ログウィンドウは、すでに処理を終わった画像のリストを表示します。

■ リストから削除

[リストから削除] ボタンは、待機リストウィンドウから選択された画像を削除します。これは、現在バッチ処理待ちの画像を処理したくない場合便利です。

■ 保存先

保存先選択は、画像の保存先を選択するために用います。

- **フォルダを選択**

  [フォルダを選択]を選ぶことにより、バッチ処理後に画像の保存先として使用するフォルダを指定することができます。参照ボタンをクリックし、処理済画像を保存する場所を指定します。

- **元画像フォルダを用いる**

  [元画像フォルダを用いる]は、処理済ファイルを元のフォルダに保存します。

■ ファイル名

[ファイル名] を選択すると、画像を保存する際のファイル名の決め方を指定できます。

- **名前を変更**

  [名前を変更] を選ぶと、Capture NXは、ファイル名作成ウィンドウにあるファイル名作成方式により画像のファイル名を作成します。編集ボタンをクリックしファイル名作成ダイアログを表示します。ファイル名作成ダイアログに関する詳しい情報は、192ページをご覧ください。

- **元画像ファイル名を使用**

  [元画像ファイル名を使用] を選び、処理済画像を元のファイル名で保存します。

■ ファイル形式を選択

ファイル形式プルダウンメニューを用い、処理済画像のファイル形式を選びます。

■ ビット数（TIFFのみ）

ビット数セレクターを用いて、画像を設定するビット数を指定します。

メモ： Capture NXは、ここで指定された設定を常に用いますが、元の画像が8ビットのファイルは8ビットのままで、16ビットが選ばれていても16ビットには変換されません。

■ 圧縮

圧縮プルダウンメニューで、画像に適用する圧縮方式を選択します。このメニューの内容は、選択されているファイル形式に依存します。

■ ICCプロファイルを埋め込む

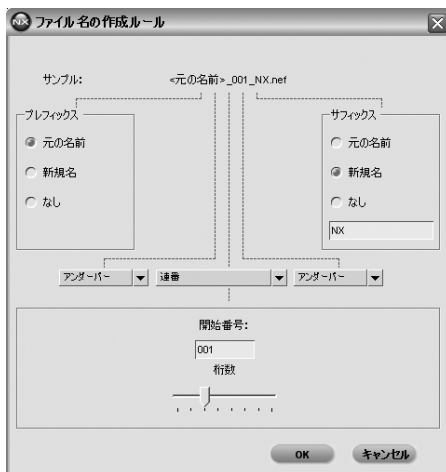
[ICCプロファイルを埋め込む] チェックボックスは、ファイル形式としてJPEGまたはTIFFが選択されている場合のみ利用できます。この設定をオンにして、現在のプロファイルを保存中に画像に埋め込みます。

■ 処理後閉じる

[処理後閉じる] チェックボックスをチェックしてある場合、バッチ処理が終わるとCapture NXは自動的に閉じます。

■ 処理後通知

バッチ処理が終わるとダイアログを表示します。

■ ファイル名の作成ダイアログ

複数画像をバッチ処理する際のファイル名の決め方を設定するダイアログが表示されます。ファイル名を指定する3つの部分から構成され、これら3つの部分をどのように取り扱うか指定できます。

- プレフィックス

  ファイル名のプレフィックスを選択できます。

  元の名前

  元のファイル名を新規ファイル名の頭に付けます。

  新規名

  新規プレフィックスを新規ファイル名の頭に付けるために入力します。

  なし

  新規ファイル名の頭にプレフィックスを付けません。

• 連番

連番部分には、連番、画像の撮影日、画像の撮影日および時間を入れることができます。

• サフィックス

ファイル名のサフィックスを選択できます。

元の名前

元のファイル名を新規ファイル名の最後に付けます。

新規名

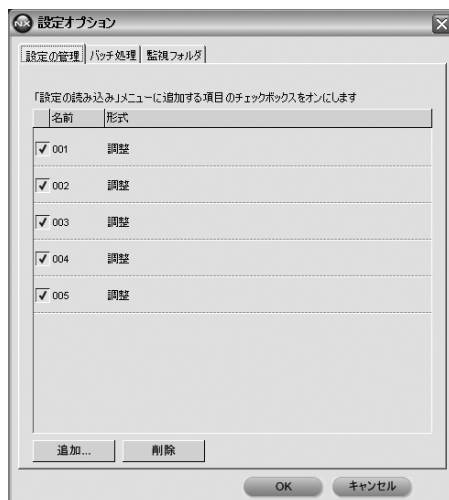
新規サフィックスを新規ファイル名の最後に付けるために入力します。

なし

新規ファイル名の最後にサフィックスを付けません。

設定オプション

設定オプションダイアログには、Capture NXで利用できるバッチ処理に加え、読み込み設定フォルダの内容を変更する際に利用できるさまざまな設定項目があります。

設定の管理

設定の管理で、設定の読み込みメニューにどの設定を表示するか決定することができます。初期設定では、設定の読み込みメニューはCapture NXの設定フォルダ内、あるいはCapture NXの設定フォルダのサブフォルダ内の設定ファイル全てを表示します。

このダイアログを用いて表示する設定ファイルを指定します。読み込み設定サブメニューに表示させたくない場合は、設定ファイルのチェックボックスをオフにします。

■ 追加

追加ボタンを選択することで設定の読み込みメニューに設定を追加できます。これによりファイル参照ウィンドウが呼び出され、使用しているコンピューター上の設定ファイルを探して見つけることができます。追加機能を選ぶと、選択された設定ファイルは、自動的にCapture NXの設定フォルダにコピーされます。

■ 削除

削除ボタンは、選択された設定を設定ファルの管理ウィンドウからもCapture NXの設定フォルダからも削除します。

バッチ処理

バッチ処理パネルは、元画像フォルダ、設定ファイル、保存先、処理済画像のファイル名およびファイル形式を選択することによりバッチ処理が実行できるようにします。

■ 元画像

- **参照...**

  [元画像] セクションの [参照] ボタンをクリックすると、バッチ処理を適用する画像を含むフォルダを指定できます。

- **サブフォルダを含める**

  [サブフォルダを含める]チェックボックスをチェックすると、フォルダ内のすべてのフォルダの画像に対してバッチ処理が行われます。

- **処理後フォルダから削除する**

  [処理後フォルダから削除する] チェックボックスをチェックすると、

バッチ処理の完了後元画像ファイルが削除されます。

■ 設定を適用

[設定を適用]チェックボックスをチェックすると、設定ファイルを画像に適用したり、NEF形式の画像を元の状態に戻すことができます。画像調整の設定ファイルを適用しないでバッチ処理を行う場合は、チェックを外してください。

- バッチモード

<設定ファイルを使用する>
[参照]ボタンを使用して、画像に適用する設定ファイルを選択できます。

参照：[参照]ボタンをクリックして、画像に適用する設定ファイルを指定します。

<撮影時の状態に戻す>
[撮影時の状態に戻す]を選択すると、NEF形式の画像を撮影時の状態に戻します。またNEF形式に変換したファイルの場合は、Capture NXで行ったすべての画像調整を削除して元の状態に戻します。

■ コンフリクト管理

NEF形式のファイルのバッチ処理で[設定ファイルを使用する]を選択した場合に、バッチ処理中に発生する可能性のある相反する機能をCapture NXがどのように対処するか設定します。

- 新規設定を追加する

[新規設定を追加する]を選択すると、基本画像調整については設定ファイルを置き換え、画像ステップについては新規に追加してバッチ処理を行います。

- 現在の設定を置き換える

[現在の設定を置き換える]を選択すると、基本画像調整と画像ステップの両方の設定ファイルを置き換えてバッチ処理を行います。

- 違いを表示

[違いを表示]では、処理を既に含んでいる画像ごとに[違いを表示]ダイアログで設定しなおすことが可能です。この過程では、バッチ処理に影響される処理のうち、どの処理を置き換え、どの処理を保持するか選択することができます。

■ 名前を変更

[名前を変更]チェックボックスをチェックすると、[ファイル名の作成ルール]ダイアログによって画像のファイル名を変更できます。[編集]ボタンをクリックすると、[ファイル名の作成ルール]ダイアログが表示されます。

■ ファイル形式を選択

プルダウンメニューでバッチ処理後の画像のファイル形式を、[JPG]、[NEF]、[TIF]から選択します。

- [NEF]を選択すると、[高度な処理]メニューで圧縮率を選択できます。
- [TIF]を選択すると、[高度な処理]メニューで[RGB]、[CMYK]のどちらかを選択できるようになります。[RGB]を選択した場合、さらに[常に8ビット]、[可能ならば16ビット]、[しない]、[LZW]のいずれかを選択できます。

[ICCプロファイルを埋め込む] チェックボックスをチェックすると、ファイル保存時にICCプロファイルが埋め込まれます。

- [JPG] を選択すると、プルダウンメニューで圧縮率を、[最高圧縮率 (低画像)]、[高圧縮率]、[標準]、[高画質]、[最高画質 (低圧縮率)] から選択できるようになります。また、画像スライダーで圧縮率を調整することもできます。

  [ICCプロファイルを埋め込む] チェックボックスをチェックすると、ファイル保存時にICCプロファイルが埋め込まれます。

■ 保存先

保存先選択は、画像の保存先を選択するために用います。

- フォルダを選択

  [フォルダを選択] を選ぶことにより、バッチ処理後に画像の保存先として使用するフォルダを指定することができます。参照ボタンをクリックし、処理済画像を保存する場所を指定します。

- 元画像フォルダを使用

  [元画像フォルダを使用] は、処理済ファイルを元のフォルダに保存します。

バッチ処理のパラメータを全て設定したならば、[開始] をクリックします。これは待機リストを呼び出し、バッチ処理を開始できるようにします。

監視フォルダ

監視フォルダは、あらかじめ設定した時間間隔でバッチ処理の対象となるフォルダをチェックし、フォルダに新規画像がある場合自動的にバッチ処理を開始します。この機能は、別売のCamera Control Proを使用してカメラで撮影した画像を直接パソコンのフォルダに送信し、バッチ処理を行う場合に便利です。監視フォルダ機能には次のコントロール機能があります。

■ 監視フォルダ

[参照] ボタンをクリックし、バッチ処理を適用する新規画像の追加状況をCapture NXに監視させたいフォルダを指定します。

- サブフォルダを含める

  [サブフォルダを含める] チェックボックスをチェックすると、フォルダ内のすべてのフォルダの画像に対して監視が行われます。

- 処理をすぐに実行する

  [処理をすぐに実行する]は、監視フォルダに新規画像があるかどうかを常にチェックして、新規画像が置かれるとすぐに設定ファイルを適用します。

- 処理の実行間隔

  監視フォルダをチェックする時間間隔を入力します。

■ 設定を適用

[設定を適用]チェックボックスをチェックすると、設定ファイルを画像に適用したり、NEF形式の画像を元の状態に戻すことができます。画像調整の設定ファイルを適用しないでバッチ処理を行う場合は、チェックを外してください。

- バッチモード

  ＜設定ファイルを使用する＞

  [参照]ボタンを使用して、監視フォルダ内の画像に適用する設定ファイルを選択できます。

  参照：[参照]ボタンをクリックして、画像に適用する設定ファイルを指定します。

  ＜撮影時の状態に戻す＞

  [撮影時の状態に戻す] を選択すると、NEF形式の画像を撮影時の状態に戻します。またNEF形式に変換したファイルの場合は、Capture NXで行ったすべての画像調整を削除して元の状態に戻します。

■ コンフリクト管理

NEF形式のファイルのバッチ処理で [設定ファイルを使用する] を選択した場合に、バッチ処理中に発生する可能性のある相反する機能をCapture NXがどのように対処するか設定します。

- 新規設定を追加する

  [新規設定を追加する] を選択すると、基本画像調整については設定ファイルを置き換え、画像ステップについては新規に追加してバッチ処理を行います。

- 現在の設定を置き換える

  [現在の設定を置き換える] を選択すると、基本画像調整と画像ステップの両方の設定ファイルを置き換えてバッチ処理を行います。

- スキップして継続

  [スキップして継続]では、相反する画像調整が検出された場合、処理を行わずにスキップします。画像名とコンフリクトが発生した時間を含むエラーがログに書き込まれます。

■ 名前を変更

[名前を変更]チェックボックスをチェックすると、[ファイル名の作成ルール] ダイアログにあるファイル名作成方式によって画像のファイル名を変更できます。[編集]ボタンをクリックすると、[ファイル名の作成ルール] ダイアログが表示されます。

■ ファイル形式を選択

プルダウンメニューでバッチ処理後の画像のファイル形式を、[JPG]、[NEF]、[TIF] から選択します。

- [NEF] を選択すると、[高度な処理] メニューで圧縮率を選択できます。

- [TIF] を選択すると、[高度な処理] メニューで [RGB]、[CMYK] のどちらかを選択できるようになります。[RGB] を選択した場合、さらに [常に8ビット]、[可能ならば16ビット]、[しない]、[LZW] のいずれかを選択できます。

  [ICCプロファイルを埋め込む] チェックボックスをチェックすると、ファイル保存時にICCプロファイルが埋め込まれます。
- [JPG] を選択すると、プルダウンメニューで圧縮率を、[最高圧縮率（低画像）]、[高圧縮率]、[標準]、[高画質]、[最高画質（低圧縮率）] から選択できるようになります。また、画像スライダーで圧縮率を調整することもできます。

  [ICCプロファイルを埋め込む] チェックボックスをチェックすると、ファイル保存時にICCプロファイルが埋め込まれます。

■ 保存先

保存先選択は、画像の保存先を選択するために用います。

- **フォルダを選択**

  [フォルダを選択] を選ぶことにより、バッチ処理後に画像の保存先として使用するフォルダを手動で指定することができます。参照ボタンをクリックし、処理済画像を保存する場所を指定します。
- **元画像フォルダを使用する**

  [元画像フォルダを使用する] は、処理済ファイルを元のフォルダに保存します。

監視フォルダで用いるパラメータを設定し、[OK] をクリックします。待機リストが表示され、現在の処理は監視フォルダであることを表示します。待機リストを最小化し、処理を行いながら別の画像で作業をすることができます。

表示メニュー

表示

✔コントロールポイントを全て表示	
選択範囲の表示	
グリッドを表示	
モニターポイントを表示	
白とび表示	Shift+H
黒つぶれ表示	Shift+S
フォーカスエリア表示	
100％で表示	Ctrl+Alt+0
画面に合わせて表示	Ctrl+0
ズームイン	Ctrl++
ズームアウト	Ctrl+-
全画面表示	F
パレットを隠す	Tab
比較	▶

コントロールポイントを全て表示

[コントロールポイントを全て表示] は、ブラックコントロールポイント、ホワイトコントロールポイント、ニュートラルコントロールポイント、カラーコントロールポイント、赤目補正コントロールポイントのいずれかを含む画像処理ステップで作業する場合は、初期設定で選択されます。この項目を選択してチェックを外すと、コントロールポイントは全て隠され、画像上にコントロールポイントアイコンのない画像を見ることができます。

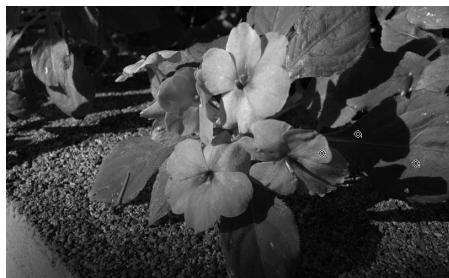
選択範囲の表示

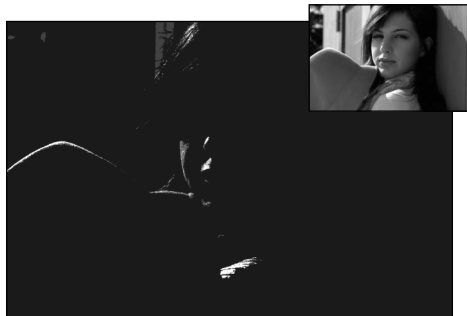
[選択範囲の表示]で現在の画像処理ステップでの選択範囲を表示させることができます。選択範囲は、選択ツールによる変更により、画像に適用されている画像処理の範囲を表示します。また、コントロールポイントを選択してから選択範囲の表示機能を選択すると、コントロールポイントの選択範囲が表示されます。選択ツールの効果はこのコントロールポイントの選択範囲に重ねて表示され、コントロールポイントが画像に適用されている場所で選択ツールがどのような効果を持っているか見ることができます。

グリッドを表示

現在の画像上にグリッドパターンを重ねて表示します。

グリッドの色と間隔は環境設定で設定します。

モニターポイントの表示

画像情報パレットで作成したモニターポイントの表示/非表示を選択できます。

白とび表示

白とび表示機能は、RGBチャンネルごとの白とび（値が255の部分）を状況に応じて色別に表示します。

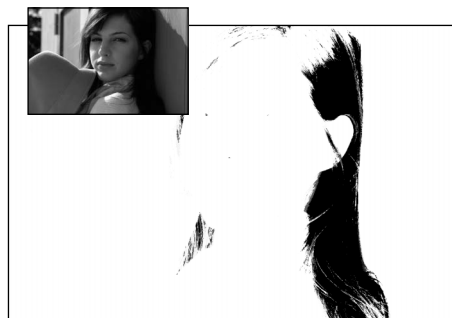
白とび表示画面では、いずれのチャンネルにも白とびが発生していない部分（値が254以下の部分）が黒で表示されます。黒以外の色が付いている部分にはその色に応じて、いくつかのチャンネルで白とびが発生しています。

ここで表示される色は、RGBチャンネルの白とび状況に応じて、以下のようになります。

白	この領域には、赤チャンネル、緑チャンネル、青チャンネルの数値255が含まれます。
黄色	この領域には、赤チャンネルおよび緑チャンネルの数値255が含まれます。
マゼンタ	この領域には、赤チャンネルおよび青チャンネルの数値255が含まれます。
シアン	この領域には、緑チャンネルおよび青チャンネルの数値255が含まれます。
赤	この領域には、赤チャンネルの数値255が含まれます。
緑	この領域には、緑チャンネルの数値255が含まれます。
青	この領域には、青チャンネルの数値255が含まれます。

この機能は画像の調整を行っている間も使用可能です。白とびの部分を確認しながら、トーンカーブやカラーバランスの調整を行うことができます。

ショートカットキー：Shift + H

黒つぶれ表示

RGB チャンネルごとの黒つぶれ（値が0の部分）を状況に応じて色別に表示します。黒つぶれ表示画面では、いずれのチャンネルにも黒つぶれが発生していない部分（値が1 以上の部分）が白で表示されます。白以外の色が付いている部分にはその色に応じて、いくつかのチャンネルで黒つぶれが発生しています

ここで表示される色は、RGBチャンネルの白とび黒つぶれ状況に応じて、以下のようになります。

黒	この領域には、赤チャンネル、緑チャンネル、青チャンネルの数値 0 が含まれます。
青	この領域には、赤チャンネルおよび緑チャンネルの数値 0 が含まれます。
緑	この領域には、赤チャンネルおよび青チャンネルの数値 0 が含まれます。
赤	この領域には、緑チャンネルおよび青チャンネルの数値 0 が含まれます。
シアン	この領域には、赤チャンネルの数値0が含まれます。
マゼンタ	この領域には、緑チャンネルの数値0が含まれます。
黄色	この領域には、青チャンネルの数値0が含まれます。

この機能は画像の調整を行っている間も使用可能です。黒つぶれの部分を確認しながら、トーンカーブやカラーバランスの調整を行うことができます。

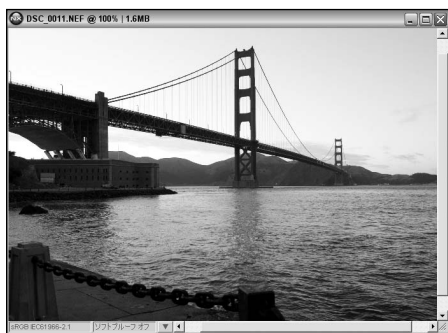
ショートカットキー：Shift + S

フォーカスエリア表示

表示されている画像のフォーカスエリアは、表示メニューからフォーカスエリア表示を選択すると表示されます。

ご注意： フォーカスエリア表示機能は、回転、傾き調整、クロップなどを行った画像や、フィッシュアイレンズ画像変換やゆがみ補正を行った画像の場合、正しく表示されません。

メモ： フォーカスエリアは、COOLPIXシリーズのカメラ、非CPUレンズ、マニュアルフォーカスレンズを用いて撮影された画像には表示されません。

100%で表示

現在の画像のズーム比を100%に設定します。

ショートカットキー：
Ctrl + Alt + 0 (Windows)
Command + Option + 0 (Mac OS)

画面に合わせて表示

現在の画像の倍率を画像全体がモニター上で利用できるスペースに合うように設定します。

ショートカットキー：
Ctrl + 0（ゼロ）(Windows)
Command + 0（ゼロ）(Mac OS)

ズームイン

画像が拡大表示されます。

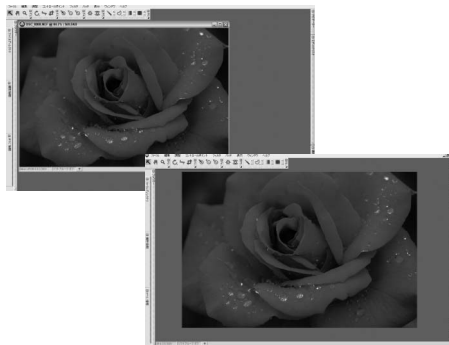
ショートカットキー：
Ctrl + ‘+’ (Windows)
Command + ‘+’ (Mac OS)

ズームアウト

画像が縮小表示されます。

ショートカットキー：
Ctrl + ‘ー’ (Windows)
Command + ‘ー’ (Mac OS)

全画面表示

全画面表示のオン/オフを切り換え、全画面表示の場合、グレーの背景に画像を配置します。

ショートカットキー：F キー

パレットを隠す

作業領域内のパレットを全てすばやく隠します。

ショートカットキー：Tab キー

比較

[比較] には、[イメージウィンドウで比較]、[ブラウザーで比較]、[元画像と比較] があります。[イメージウィンドウで比較] と [ブラウザーで比較] はブラウザーからのみ利用可能です。[元画像と比較] は、イメージウィンドウでのみ利用可能で、同一画像の元の状態と現在編集中の状態を比較します。

ブラウザーで比較

ブラウザー内の2～4枚の画像を比較します。ブラウザーで画像を選び、表示メニューからブラウザーで比較を選択します。これにより、ブラウザー内に4つまでの同じサイズの画像が並べて表示されます。画像を比較している時、画像をクリックし、ラベルショートカットを用いてラベル付けすることができます。削除することもできますし、画像をダブルクリックしイメージウィンドウで開くこともできます。[ブラウザーで比較] モードを終了するには、表示メニューで [ブラウザーで比較] を再度選ぶか、ブラウザー内の比較している画像以外をクリックします。

イメージウィンドウで比較

ブラウザーで画像を2つ選び、表示メニューから [イメージウィンドウで比較] を選択します。これにより2つの画像がイメージウィンドウ内で開かれ、モニターで利用できるスペースに合うよう画像はズーム調整されます。画像を比較する際、ズームツールや手のひらツールを用いてそれぞれの画像を拡大/縮小し、両方とも同じになるようにできます。これにより同じような画像の細部を比較する際に簡単に拡大縮小できます。[イメージウィンドウで比較] モードを終了するには、一方あるいは両方の画像を閉じます。

元画像と比較

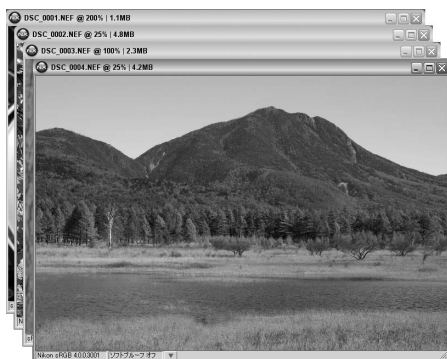
イメージウィンドウの画像の現在の状態を元画像と比較します。イメージウィンドウで作業中に表示メニューから[元画像と比較]を選択すると、同じ画像の複製ウィンドウを自動的に開き、2つのウィンドウがモニターで利用できるスペースに収まるようサイズを調整します。画像の向きとモニター上で利用できるスペースによりますが、左または上の画像が、元の状態を表し、右または下の画像が現在の状態を表します。画像を比較する際、一方の画像を拡大、または縮小すると、他方も同じにようになります。[元画像と比較]を終了するには、表示メニューから[元画像と比較]を再度選択します。

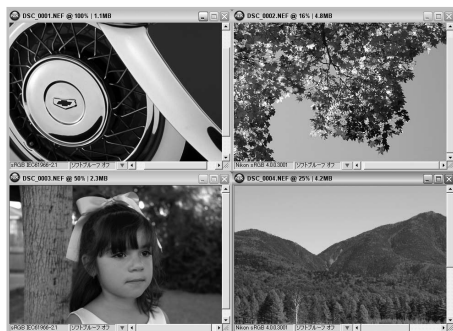
ウィンドウメニュー

ウィンドウ

重ねて表示
並べて表示
パレットの場所をリセット

✔ナビゲーター
✔ブラウザー
✔撮影情報
✔カラーピッカー
✔エディットリスト
✔ファイルディレクトリ
✔IPTC 情報
✔画像情報
✔ツールバー

重ねて表示

［重ねて表示］は現在開いているイメージウィンドウを全てサイズを調整して重ねて表示し、どのウィンドウも同じサイズでモニター上の利用できるスペースに収まるようになります。

並べて表示

[並べて表示] は現在開いているイメージウィンドウのサイズを調整し、画面上にグリッド状に並ぶよう配置します。

パレットの場所をリセット

全てのパレットの場所をリセットし、その状態を初期設定に戻します。

ナビゲーター

ナビゲーターパレットが表示されます。ナビゲーターパレットが表示されていない場合、このメニューを選択して表示させることができます。

ブラウザー

ブラウザーが表示されます。ブラウザーブラウザーパレットが表示されていない場合、このメニューを選択して表示させることができます。

撮影情報

撮影情報が表示されます。撮影情報パレットが最小化されている場合、このメニューを選択して展開することができます。撮影情報パレットが表示されていない場合、このメニューを選択して表示させることができます。

カラーピッカー

メニューから [カラーピッカー] を選ぶとカラーピッカーが表示されます。

エディットリスト

エディットリストが表示されます。エディットリストパレットが表示されていない場合、このメニューを選択して表示させることができます。

ファイルディレクトリ

ファイルディレクトリが表示されます。ファイルディレクトリパレットが最小化されている場合、このメニューを選択して展開することができます。ファイルディレクトリパレットが表示されていない場合、このメニューを選択して表示させることができます。

IPTC情報

IPTC情報パレットが表示されます。IPTC情報パレットが最小化されている場合、このメニューを選択して展開することができます。IPTC情報パレットが表示されていない場合、このメニューを選択して表示させることができます。

画像情報

画像情報パレットが表示されます。画像情報パレットが表示されていない場合、このメニューを選択して表示させることができます。

ツールバー

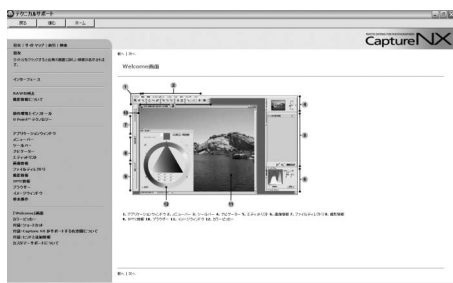
ツールバーが表示されます。ツールバーが表示されていない場合、このメニューを選択して表示させることができます。

ショートカットキー：

F2、F3、F4、F5、F6キーを用いて個別にツールバーを開くことができます。

ヘルプメニュー

ヘルプ
目次　F1
テクニカルサポート
「Welcome」画面を表示
Capture NXの更新
Capture NX について

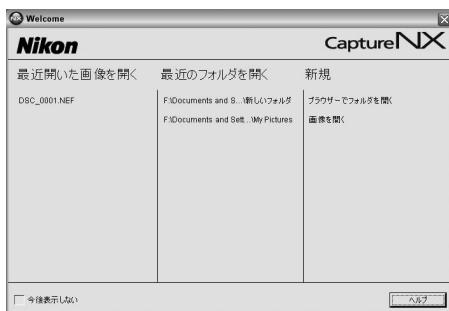
目次

メニューの[目次]から、初期設定のインターネットブラウザー上に目次が表示されます。検索機能でこの使用説明書内の情報を利用することができます。

ショートカットキー：
F1 キー (Windows)
Command + ? (Mac OS)

テクニカルサポート

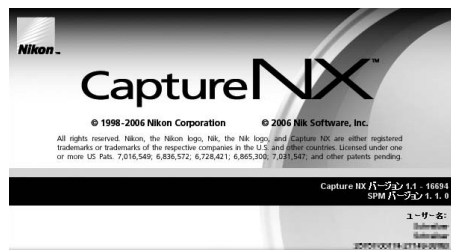
[テクニカルサポート] では、インターネットブラウザーが起動し、Capture NX で利用できるさまざまなテクニカルサポートオプションへのリンクを表示します。リンクをどれか選び、オンラインテクニカルサポートに接続します。

メモ：テクニカルサポートを利用するにはインターネット接続環境が必要です。

「Welcome」画面を表示

メニューから [「Welcome」画面を表示] を選ぶと「Welcome」画面が表示されます。[今後表示しない] チェックボックスにチェックが入っている場合にはこのオプションから「Welcome」画面を表示することができます。

Capture NXの更新

Capture NXの更新情報をチェックできます。

Capture NXについて

[Capture NXについて]は、Capture NXのバージョンを表示します。この情報はテクニカルサポートに連絡する場合に必要です。

メモ： Mac OSでは、[Capture NXについて] は、Capture NXメニューの下に表示されます。

付録：ショートカットキー

ツール	Windows	Mac
同時に使用するキー		
選択ツール	A	A
Ctrl (Windows) またはOption (Mac OS) キーを押しながら画像をブラウザー内にドラッグすると画像がコピーされます。		
パン (手のひら)	H	H
あるツールでの作業中にスペースバーを押すと一時的にそのツールを手のひらツールに切り換えます。		
ズーム	Z	Z
Control + スペースバー (Windows) または Command + スペースバー (Mac OS) を押すと一時的にツールをズームアップツールに切り換えます。 Ctrl + Alt + スペースバー (Windows) または Command + Option + スペースバー (Mac OS) を押すと一時的にツールをズームアウトツールに切り換えます。		
90度回転 (時計回り)	Ctrl + R	Command + R
90度回転 (反時計回り)	Ctrl + Shift + R	Command + Shift + R
クロップ	C	C
クロップ中にAlt/Optionキーを押さえるとクロップグリッドラインが表示されます。		
カラーコントロールポイント	Ctrl + Shift + A	Command + Shift + A
ブラシのサイズを小さくする	[	[
ブラシのサイズを大きくする	]	]
ブラシを柔らかく	Shift + [	Shift + [
ブラシを硬く	Shift +]	Shift +]
プラスブラシ	B	B
プラスブラシを使用中にAlt (Windows) またはOption (Mac OS) を押さえると一時的にマイナスブラシに切り換えます。		
マイナスブラシ	B	B
マイナスブラシを使用中にAlt (Windows) またはOption (Mac OS) を押さえると一時的にプラスブラシに切り換えます。		
塗りつぶし	Alt + Backspace	Option + Delete
削除	Shift + Backspace	Shift + Delete
プラスグラデーション	G	G

プラスグラデーションを使用中にAlt (Windows) またはOption (Mac OS) を押さえると一時的にマイナスグラデーションに切り換えます。		
マイナスグラデーション	G	G
マイナスグラデーションを使用中にAlt (Windows) またはOption (Mac OS) を押さえると一時的にプラスグラデーションに切り換えます。		
プラスなげなわツール	L	L
プラスなげなわツールを使用中にAlt (Windows) またはOption (Mac OS) を押さえると一時的にマイナスなげなわツールに切り換えます。		
マイナスなげなわツール	L	L
マイナスなげなわツールを使用中にAlt (Windows) またはOption (Mac OS) を押さえると一時的にプラスなげなわツールに切り換えます。		
全てを選択	Ctrl + A	Command + A
白とび表示	Shift + H	Shift + H
黒つぶれ表示	Shift + S	Shift + S
全画面表示	F	F
パレットを隠す	Tab	Tab
レベルとトーンカーブ	Ctrl + L	Command + L
開く	Ctrl + O	Command + O
保存	Ctrl + S	Command + S
名前を付けて保存...	Ctrl + Shift + S	Command + Shift + S
印刷	Ctrl + P	Command + P
プリンターの設定	Ctrl + Shift + P	Command + Shift + P
終了	Ctrl + Q	Command + Q
元に戻す	Ctrl + Z	Command + Z
やり直し	Ctrl + Shift + Z	Command + Shift + Z
切り取り	Ctrl + X	Command + X
コピー	Ctrl + C	Command + C
貼り付け	Ctrl + V	Command + V
複製	Ctrl + D	Command + D
削除	Delete	delete
環境設定	Ctrl + K	Command + K
カラーバランス	Ctrl + B	Command + B
ズームイン	Ctrl + ‘+’	Command + ‘+’
ズームアウト	Ctrl + ‘-’	Command + ‘-’
画面に合わせて表示	Ctrl + 0（ゼロ）	Command + 0（ゼロ）
倍率を100%	Ctrl + Alt + 0（ゼロ）	Command + Option + 0（ゼロ）
ラベルの適用 - ラベル 1	1	1
ラベルの適用 - ラベル 2	2	2
ラベルの適用 - ラベル 3	3	3
ラベルの適用 - ラベル 4	4	4
ラベルの適用 - ラベル 5	5	5
ラベルの適用 - ラベル 6	6	6
ラベルの適用 - ラベル 7	7	7

ラベルの適用 - ラベル 8	8	8
ラベルの適用 - ラベル 9	9	9
ラベルの適用 - ラベルの削除	0（ゼロ）	0（ゼロ）
ラベルでソート - ラベル 1	Shift + 1	Shift + 1
ラベルでソート - ラベル 2	Shift + 2	Shift + 2
ラベルでソート - ラベル 3	Shift + 3	Shift + 3
ラベルでソート - ラベル 4	Shift + 4	Shift + 4
ラベルでソート - ラベル 5	Shift + 5	Shift + 5
ラベルでソート - ラベル 6	Shift + 6	Shift + 6
ラベルでソート - ラベル 7	Shift + 7	Shift + 7
ラベルでソート - ラベル 8	Shift + 8	Shift + 8
ラベルでソート - ラベル 9	Shift + 9	Shift + 9
ラベルでソート - ラベル無し	Shift + 0（ゼロ）	Shift + 0（ゼロ）
プラス／マイナスツールをプラスに切り換え	+	+
プラス／マイナスツールをマイナスに切り換え	-	-

付録：Capture NXがサポートする色空間について

Capture NXがサポートする標準RGB色空間

1.　ガンマ1.8系

Apple RGB（Windowsの場合はNKApple.icm、Macintoshの場合はNikon Apple RGB 4.0.0.3000）

Adobe Photoshop 4.0以前のバージョンで使用されていたRGB色空間です。各種DTPアプリケーションでも使用されている、Macintosh用モニターの平均的なRGB色空間です。Macintosh上で画像を表示して仕事をする場合に適しており、バージョン5.0以降のAdobe PhotoshopのRGB設定の「Apple RGB」に相当します。

ColorMatch RGB（Windowsの場合はNKCMatch.icm、Macintoshの場合はNikon ColorMatch RGB 4.0.0.3000）

Radius社のPressviewモニター用の色空間で、Apple RGBよりもやや色域が広く、特に青の色域が広いのが特徴です。バージョン5.0以降のAdobe PhotoshopのRGB設定の「Color Match RGB」に相当します。

2.　ガンマ2.2系

sRGB（Windowsの場合はNKsRGB.icm、Macintoshの場合はNikon sRGB 4.0.0.3001）

ほとんどのWindows用モニターの代表として定義された色空間です。一般的なカラーTVの色空間にも非常に似通っており、近年アメリカで標準となりつつあるデジタルTV放送用色空間でもあります。この色空間を初期設定色空間として使用するハードウェア、ソフトウェアが多く見受けられます。近年Webページ上に貼り付ける画像の標準色空間になりつつあり、スキャンした画像を編集またはプリントせず、そのまま電子画像として使用する目的に適しております。しかし色域が狭く、特に青の色域が狭いのが特徴です。Adobe Photoshop 5.0または5.5におけるRGB設定の「sRGB」、Adobe Photoshop 6.0における「sRGB IEC61966-2.1」に相当します。

Bruce RGB（Windowsの場合はNKBruce.icm、Macintoshの場合はNikon Bruce RGB 4.0.0.3000）

Bruce Fraser氏が定義した色空間です。xy色度図上で「Adobe RGB」のGと「sRGB」のGの間にGの色度を定義し、sRGBの青色色域を広げてSWOP CMYKの色域を包含する色域を実現しています。Bruce RGBのRとBは「Adobe RGB」と一致しています。

NTSC（1953）（Windowsの場合はNKNTSC.icm、Macintoshの場合はNTSC（1953）4.0.0.3000）

National Television Standard Committee（NTSC）で定義されたビデオ色空間で、従来のカラーテレビの標準RGB色空間です。バージョン5.0以降のAdobe PhotoshopのRGB設定の「NTSC（1953）」に相当します。

Adobe RGB（1998）（Windowsの場合はNKAdobe.icm、Macintoshの場合はNikon Adobe RGB（1998）4.0.0.3000）

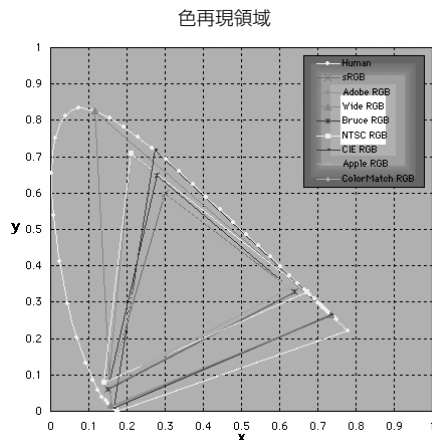
Adobe Photoshop 5.0で定義された色空間です。sRGBよりもかなり色域が広く、ほとんどのプリンターのCMYK色域を包含しているので、DTP関連の仕事に適しています。Adobe Photoshop 5.0のRGB設定の「SMPTE-240M」、バージョン5.5以降の「Adobe RGB（1998）」に相当します。

CIE RGB（Windowsの場合はNKCIE.icm、Macintoshの場合はNikon CIE RGB 4.0.0.3000）

Commission Internationale d'Eclairage（CIE）で定義された色空間です。色域はかなり広めですが、シアン系の色域が狭いのが特徴です。バージョン5.0以降のAdobe PhotoshopのRGB設定の「CIE RGB」に相当します。

Adobe Wide RGB（Windowsの場合はNKWide.icm、Macintoshの場合はNikon AdobeWide RGB 4.0.0.3000）

Adobe社が定義した可視カラーの大半を表現できる色空間です。しかしこの色空間で定義される色の大半は一般的なモニターやプリンターでは表現できない色となります。バージョン5.0以降のAdobe PhotoshopのRGB設定の「Adobe Wide RGB」に相当します。

以下に各色空間の色域（色再現領域）のxy色度図を示します。三角形が大きいほど広い色域を表します。

各色空間の詳細データ

各色空間のガンマ、白点色度座標、色温度等のデータです。

RGB空間名	白点色度座標値			ガンマ値	RGB色度座標値				
	白点色温度	値			RGB色度名		R	G	B
Apple RGB	6500 K (D65)	x	0.3127159	1.8	Trinitron	x	0.625	0.28	0.155
		y	0.3290015			y	0.34	0.595	0.07
Color Match RGB	5000 K (D50)	x	0.3457029	1.8	P22-EBU	x	0.63	0.295	0.155
		y	0.3585386			y	0.34	0.605	0.077
sRGB	6500 K(D65)	x	0.3127159	2.2	HDTV (CCIR 709)	x	0.64	0.3	0.15
		y	0.3290015			y	0.33	0.6	0.06
NTSC (1953)	Std Illuminant C	x	0.3101	2.2	NTSC (1953)	x	0.67	0.21	0.14
		y	0.3162			y	0.33	0.71	0.08
Bruce RGB	6500 K (D65)	x	0.3127159	2.2	Bruce RGB	x	0.64	0.28	0.15
		y	0.3290015			y	0.33	0.65	0.06
Adobe RGB (1998)	6500 K (D65)	x	0.3127159	2.2	Adobe RGB (1998)	x	0.64	0.21	0.15
		y	0.3290015			y	0.33	0.71	0.06
CIE RGB	Std Illuminant C	x	0.3333333	2.2	CIE RGB	x	0.735	0.274	0.167
		y	0.3333333			y	0.265	0.717	0.009
Adobe Wide RGB	5000 K (D50)	x	0.3457029	2.2	700/525/450 nm	x	0.735	0.717	0.009
		y	0.3585386			y	0.265	0.826	0.018
Windows デフォルトモニター設定	6500 K(D65)	x	0.3127159	2.2	HDTV (CCIR 709)	x	0.64	0.3	0.15
		y	0.3290015			y	0.33	0.6	0.006
Macintosh デフォルトモニター設定	5000 K (D50)	x	0.3457029	2.2	Trinitron	x	0.625	0.28	0.155
		y	0.3585386			y	0.34	0.595	0.07

Capture NXの出力色空間	Adobe Photoshopの出力色空間
sRGB (Nikon sRGB 4.0.0.3001)	sRGB
Apple RGB (Nikon Apple RGB 4.0.0.3000)	Apple RGB
Color Match RGB (Nikon Color Match RGB 4.0.0.3000)	Color Match RGB
Bruce RGB (Nikon Bruce RGB 4.0.0.3000)	–
NTSC (1953) (Nikon NTSC (1953) 4.0.0.3000)	NTSC (1953)
Adobe RGB (1998) (Nikon Adobe RGB (1998) 4.0.0.3000)	Ver. 5.5より前：SMPTE-240M Ver. 5.5以降： Adobe RGB（1998）
CIE RGB (Nikon CIE RGB 4.0.0.3000)	CIE RGB
Adobe Wide RGB (Nikon Adobe Wide RGB 4.0.0.3000)	Ver. 5.5より前：Adobe Wide RGB Ver. 5.5以降： Wide Gamut RGB

付録：ヒントと追加情報

一般

バックアップコピーを作成する

画像編集を行う前に重要な画像はバックアップコピーを作成してください。画像の喪失や遺失の損害に関し、製品の不具合に起因したと見られる場合であっても、ニコンは一切責任を負うものではありません。

ニコンメッセージセンター

自動アップデート

Capture NXをインストールすると、自動的にCapture NXなどの更新情報をチェックするニコンメッセージセンター（Nikon Message Center）というソフトウェアがインストールされます。ご使用のパソコンがインターネットに接続されているときにCapture NXを起動すると、ニコンメッセージセンターはCapture NXの更新情報などをチェックします（初期設定）。更新情報がある場合は、[Nikon Message Center] ダイアログが自動的に表示されます。

ソフトウェアアップデートする場合のご注意

ソフトウェアアップデートする場合、ご使用のパソコンがインターネットに接続できる環境である必要があります。また、インターネットサービスプロバイダの使用料や電話料金がかかることがあります。

接続状態の解除について

モデムやISDN のターミナルアダプターでダイアルアップ接続をしてソフトウェアアップデートする場合、アップデートが終了しても、Capture NXは接続状態の解除を行いません。手動で接続状態の解除を行ってください。

ダイアルアップ接続

ダイアルアップ接続の場合、ダウンロードが完了してもインターネット接続は自動的には終了されません。インターネット接続の終了を確実に行ってください。

プライバシーポリシーについて

お客様の個人情報を本サービスにより提供された場合、お客様の同意なしに第三者に開示することはありません。

インストール

Windows Vista、Windows XP Home Edition/Professional、Windows 2000 Professional、Mac OS X

これらのOSでCapture NXのインストール、使用、アンインストールを行う場合は、管理者権限のアカウントでログインする必要があります。

ピクチャーコントロール不使用

[輪郭強調]、[階調補正]、[カラー設定]、[彩度]

- D1シリーズ、D2シリーズ、D100、D200、D80、D70s、D70、D50、D40、D40xで撮影した画像の場合、[輪郭強調]、[階調補正]、[カラー設定]、[彩度] 内のポップアップメニューには、カメラで設定していた項目に「*」マークが表示されます（ただし、[オート] の場合を除きます）。
- [輪郭強調]、[階調補正]、[カラー設定]、[彩度] にて撮影した際のカメラ側の設定をそのまま使用するには、[撮影時の設定] を選択してください。[撮影時の設定] 以外の項目が選択された場合、Capture NXが改めて画像調整を行います。そのため、例えば撮影時のカメラ側の設定と同じ項目を選択したとしても、結果が同じにならないことがあります。

ホワイトバランス

“ミレッド”

ミレッドとは色温度の逆数を百万倍(10^6)したものです。色温度は、同じ色温度差でも、色温度の低い場合では色の変化が大きく、色温度の高い場合では、色の変化が小さくなります。たとえば同じ1000 ケルビンの違いでも6000 ケルビン付近では変化はほとんどありませんが、3000 ケルビン付近では1000 ケルビンの違いで光色が大きく変わります。ミレッドは、その変化幅をほぼ同じに表現する尺度であり、色温度補正フィルタの単位としても利用されます。

色温度による変化	ミレッド
4000 K – 3000 K = 1000 K	83ミレッド
7000 K – 6000 K = 1000 K	24ミレッド

ゲイン

ここで設定する赤と青のゲインは、撮影時に決定されたそれぞれのゲインを1.0と見なした倍率です。

ゲインの値を選ぶ

ゲインの大きな値も小さな値も、画質低下をもたらすことがあります。

カラー設定

カラー設定

環境設定ダイアログで［埋め込まれたプロファイルの代わりにこのプロファイルを使用］が選択されている場合、選択されているモードに関わらず、環境設定で指定されている標準RGB色空間が作業用色空間として全画像で使用されます。［埋め込まれたプロファイルの代わりにこのプロファイルを使用］が選択されていない場合は、自動的にAdobe RGB色空間が作業用色空間としてモード II 画像で使用されます。モード I、Ia、III、IIIa 画像の作業用色空間は、カメラで設定されている色空間（D2X、D2Xs、D200のみ）かsRGB色空間（その他のカメラ）になります。NTSC画像（D1のみ）の作業用色空間は、NTSCになります。sRGB色空間に適合するモード I および Ia は、わずかの変更しか行わずに「そのまま」で印刷するポートレートに適しています。モード II はAdobe RGB色空間に適しています。この色空間は、sRGB色空間よりも幅広い全カラー領域を表現できるので、大きな処理や修正を行う画像に適しています。sRGB色空間に適合するモード III および IIIa は、わずかの変更しか行わずに「そのまま」で印刷する自然や風景に適しています。

露出補正

Ver.4.4以前のNikon Captureで露出補正を－（マイナス）側に設定した画像をCapture NXで開くと、白飛びしていた部分の調整結果が変わる場合があります。

イメージダストオフ

イメージダストオフデータの取得方法

D3、D2シリーズ、D300、D200、D80、D70s、D70、D50、D40、D40x以外のカメラを使ってイメージダストオフデータを撮影する場合は、以下の操作を行ってください。

1 カメラ側の設定を行います。

カメラ側の設定を以下の手順で行ってください。

1. CPUレンズを装着する（焦点距離が50mm以上のレンズをおすすめします）。
2. ズームレンズを使用する場合は望遠側にセットしてください。
3. フォーカスモードをM（マニュアル）に設定してフォーカスを手動で無限遠にする。
4. ［撮像感度］をカメラで設定できる最も低い値に設定する。
5. ［画質モード］を［RAW］に設定する。
6. ［露出モード］をA（絞り優先オート）に設定する。
7. 絞りを最小絞りにする（F値を最大に設定する）。

2 レンズ先端から10 cmほど離れた無地の被写体を撮影します。

3 作成されたRAW画像がイメージダストオフデータとして取り扱われます。このファイルをパソコンに転送します。

イメージダストオフデータ撮影可能なカメラについて

イメージダストオフデータの撮影は、D3、D2シリーズ、D200、D300、D80、D70s、D70、D50、D40、D40xのほか、D100またはファームウェアバージョンが1.10以降のD1XかD1Hで行うことができます。D1、または上記以前のファームウェアバージョンのD1XおよびD1Hではイメージダストオフデータを撮影することはできません。また、D1X、D1H、D100で撮影したイメージダストオフデータのファイルの拡張子は「.nef」となりますが、拡張子を変更しないでください。CPUレンズを装着して撮影した画像の場合のみに、イメージダストオフ機能を使用することができます。

イメージダストオフデータ撮影時の手ぶれについて

イメージダストオフデータ撮影時には、少々手ぶれが起きても問題はありません。

イメージダストオフ

イメージダストオフは、絵柄のある部分の周辺では処理を行いません。画像の均一面（無地の部分）のみでのゴミやほこりを軽減します。

イメージダストオフの設定について

[イメージダストオフ] の設定を他の画像に貼り付けする場合や、保存した設定を他の画像に適用する場合、[イメージダストオフ] の設定時に使用した画像と、貼り付けまたは適用する画像が同じカメラで撮影された画像であることを確認してください。他のカメラで撮影した画像に[イメージダストオフ] の設定を貼り付けまたは適用しようとすると、警告メッセージが表示されます。

ヴィネットコントロール

PCニッコールレンズおよびフラッシュ撮影により生じた周辺光量の低下は調整できません。

画像を開く

D1Xで作成したRAW画像

D1Xで撮影したRAW画像の初期設定サイズは、Capture NXイメージウィンドウで開く場合、環境設定の[D1X RAWの初期設定サイズ]を利用して選択することができます。6メガピクセル (3,008 × 1,960) か10メガピクセル (4,016 × 2,616) からお選びください。

TIFF CMYK画像

CMYK画像データとしてTIFF形式で保存された画像は、Capture NXでは開くことができません。

画像の保存

Capture NXで保存した画像ファイル

Capture NXで保存した画像ファイルは、カメラでは再生できません。

NEF形式 (Nikon Capture 4以前)

Capture NXで作成されたNEF形式は、Nikon Captureでは開くことはできますが、反映されない機能があります。Nikon Captureで作成されたNEF形式は、Capture NXで使用することができます。

TIFF形式(16ビット)ファイルをLZW圧縮で保存するときの注意点

TIFF形式(16ビット)ファイルをLZW圧縮で保存した場合、元のサイズより大きくなる場合があります。

JPEG

JPEG形式で画像を保存すると画質が低下する場合があります。NEF形式で画像を保存する場合、画質が低下することはありません。

"失われた"ハイライト部とシャドー部

NEF形式以外で画像を保存する前に、画像の大きな領域のハイライト部やシャドー部で画像情報が失われないよう設定を調整してください。編集作業によって失われた画像情報は、NEF形式以外で画像を保存すると回復することができなくなります。

編集バージョン

NEF画像の編集バージョンは、画像と共に保存され、Capture NXで画像を開くと呼び出されます。JPEGやTIFF画像の編集バージョンは、イメージウィンドウを閉じると失われます。

画像サイズ/画像解像度

NEF形式で画像を保存すると、画像解像度やクロップサイズも含めた画像情報全てが保存されます。

ファイル名の制限事項について

ファイル名を指定する際には、次のことに留意してください。

Windows

- ロングファイル名をサポートしない環境の場合は、ファイル名が半角で8文字以下になるように指定してください。また、ファイル名で、スペースと半角の「\」、「/」、「:」、「.」、「;」、「*」、「?」、「"」、「<」、「>」、「¦」は使用できません。
- ロングファイル名をサポートする環境の場合は、ファイル名で、「\」、「/」、「:」、「.」、「;」、「*」、「?」、「"」、「<」、「>」、「¦」は使用できません。

Macintosh

- ファイル名で「:」は使用できません。

印刷

プリンターの設定

プリンターが正しく接続され、プリンタードライバーが正しくインストールされていることを確認してください。

メモ：[画像の解像度を使用する]チェックボックスがオンになっており、画像の出力サイズが印刷可能領域に収まらない場合、[印刷]ボタンをクリックすると、

「画像サイズが印刷可能領域よりも大きいため、画像の一部が切り取られます。処理を継続しますか。」という警告メッセージが表示されます。この場合には、[画像の解像度を使用する] チェックボックスをオフにするか、Capture NXで画像の出力サイズを小さくしてから印刷を行ってください。

画像サイズ/画像解像度

[保存] で設定を保存した場合、指定されているサイズと解像度の単位は保存されません。

カラーマネージメント (Windows)

マルチディスプレイ

マルチディスプレイの環境で表示する場合は、主に画像を表示するディスプレイに合ったプロファイルを設定してください。

カラープロファイルについて

Capture NXはICC (International Color Consortium) モニターとCMYKプロファイルをサポートしています。特にCMYKプロファイルを設定するときは、パソコン環境によってICCプロファイル以外が含まれますのでご注意ください。

メモ： 標準RGB色空間について詳しくは、「付録：Capture NXがサポートする色空間について」(220ページ) を参照してください。

カラーマネージメント (Macintosh)

カラープロファイルについて

詳しくは、「付録：Capture NXがサポートする色空間について」(220ページ) を参照してください。
[Nikon CMYK 4.0.0.3000] プロファイルは、特定のインクセットではなくほぼ中庸で一般的なプロファイルであるため、使用条件に適したプロファイルがない場合や、使用条件が分からない場合などに使用します。

レベルとトーンカーブ

[レベルとトーンカーブ] と [LCHエディター] の使い方について

[LCHエディター] は、[レベルとトーンカーブ] で色の調整が難しい場合に使用します。[LCHエディター] を使用すると、純粋な明るさ、色味、および色の濃さを調節できますが、RGBチャンネル上で色飽和が起こる場合があります。[レベルとトーンカーブ] では、[RGB] [赤] [緑] [青] のチャンネルを切り換えて階調をコントロールできます。また、飽和の状態を確認しながら画像調整ができます。

自動コントラスト設定

自動コントラスト、シャドー、ハイライト設定は、環境設定ダイアログ内の [レベルとトーンカーブ] タブで調整可能です。

トーンカーブ編集表示

トーンカーブパレットへの入出力値はゼロから255 (他の画像編集ソフトウェアで一般的な8ビットの精度) ですが、トーンカーブの変更結果は、16分の1ビットの精度で計算されます。これにより12ビットのRAW画像を、画質低下を招くことなく処理することができます。

ヒストグラム (RAW / 16ビット TIFF画像のみ)

大量の画像データを処理する際の表示までの時間を短縮するため、Capture NXでは、垂直線を含むヒストグラムを表示することがあります。

現行のチャンネルのためのホワイトポイントまたはブラックポイントのサンプリング

初期設定では、サンプリングは、全てのチャンネルのホワイトポイントまたはブラックポイントを設定しマスターチャンネルを表示します。現行チャンネルのみでホワイトポイントまたはブラックポイントを設定するには、Ctrl (Windows) またはCommand (Macintosh) を押しながら画像のサンプリングを行います。単一のチャンネルに関し中間ポイントをサンプリングすることはできません。選択されているチャンネルに関わらず、中間ポイントで画像のサンプリングを行うと、全てのチャンネルの中間ポイントが設定されマスターチャンネルが表示されます。

ガンマ

ガンマ（“γ”）は、入力信号に対する出力信号の相対的な程度を決定する、画像システムの基本特性のひとつです。ガンマを計算する際、可能な最大強度に1が割り当てられ、可能な最小強度 (入力なし) にゼロが割り当てられます。出力は、ガンマ値の逆数を指数とする入力値により計算されます (出力 = 入力 (1/γ))。具体的には、ガンマ値を増加させることは、中間ポイントスライダーを左に移動することと同じで、最大値最小値を変更せずに中間ポイントの値を増加させ画像を明るくすることです。ガンマ値を減少させることは、中間ポイントスライダーを右に移動することと同じで、中間ポイントの値を減少させ画像を暗くすることです。ガンマの初期設定値は1で、入力

値と出力値が等しい線形の関係です。ガンマは0.05から6.00までの任意の数値に設定できます。

Ver.3.5.x以前のNikon Capture で調整を行った画像の場合（NEF形式の画像のみ）

Capture NXは、最初にカラーバランスの調整、次にトーンカーブの調整という順序で画像調整を行います。Ver.3.5.x以前のNikon Captureでトーンカーブとカラーバランスの調整を行ったNEF画像を、Capture NXで再度開くと、トーンカーブとカラーバランスの処理の順序が異なるために、画像の調整結果が変わる場合があります。

D-ライティング

Digital DEE

Nikon Captureで作成された設定ファイルをCapture NXで読み込むとDigital DEEの効果は反映されません。Digital DEE設定ファイル（拡張子“.ndd”）は、Capture NXで読み込むことはできません。

階調がない画像

撮影した画像の暗い部分や明るい部分に階調がまったくない場合（完全に黒くつぶれていたり白く飛んでいるような場合）は、D-ライティングを使用しても効果は得られません。

アンシャープマスク

アンシャープマスク

アンシャープマスクは、明るさのみを調整することによりカラーバランスに影響することなく被写体の境界をシャープにします。この効果は、Adobe Photoshop Labカラーモードで明るさチャンネルを選択してアンシャープマスクを実行する場合と同じです。赤のような単一チャンネルにアンシャープマスクを適用する場合、色値を用いてどの部分が赤であるか判定し、それらの点に対してのみ明るさチャンネルでアンシャープマスクを実行します。Capture NXにおける20%の適用量は、Adobe Photoshopにおける100%の適用量にほぼ相当します。適用量をゼロに設定すると境界強調は適用されません。境界強調を適用するには、1%以上の適用量が必要です。

色収差補正

倍率色収差

レンズの屈折率は、光の波長（色）によりわずかに異なります。このため画像の倍率は画像周辺で異なることになり、倍率色収差と呼ばれる現象を引き起こします。

バッチ処理

バッチ処理を行う前に

バッチ処理機能を使って画像を処理する場合は、[バッチ処理] パネルの [設定を適用] で設定した処理内容に基づいて、指定したフォルダ内の画像すべてに同一の画像調整がファイル名順に適用されます。思った通りの画像にならなかったということがないように、バッチ処理機能を始める前にテストを行い、画像調整の設定を決めるとよいでしょう。

画像ごとに画像調整を変えたいという場合は、個々の画像を開いて処理および保存する方法が適しています。

エラーメッセージ

[バッチ処理] パネルの設定内容に間違いが検出されると、メッセージが表示されます。[バッチ処理] パネルに戻り、メッセージにしたがって設定を変更してください。

索引

数字

C

D

I

J

L

N

R

T

U

W

あ

か

さ

た

な

は

ま

や

ら

カスタマーサポートについて

■この製品の操作方法についてのお問い合わせは

この製品の操作方法について、さらにご質問がございましたら下記のニコンカスタマーサポートセンターまでお問い合わせください。

ニコンカスタマーサポートセンター

TEL 0570-02-8000

営業時間 9:30 ～ 18:00 ＜年末年始、夏期休業等を除く毎日＞

- お電話は、市内通話料金でご利用いただけます。
- 全国共通電話番号 **0570-02-8000** にお電話いただき、音声によるご案内にしたがってご利用の製品グループ窓口の番号を入力していただければ、お問い合わせ窓口担当者よりご質問にお答えさせていただきます。
- 携帯電話、PHS、IP電話等をご利用のお客様は、**(03) 5977-7033** におかけください。
- FAXでのご相談は、**(03) 5977-7499** におかけください。

■お願い

- お問い合わせいただく場合には、次ページの「お問い合わせ承り書」の内容をご確認の上お問い合わせください。
- より正確、迅速にお答えするために、ご面倒でも次ページの「お問い合わせ承り書」の所定の項目にご記入いただき、FAXまたは郵送でお送りください。「お問い合わせ承り書」は、コピーしていただくと、繰り返しお使いいただけます。

■インターネットご利用の方へ

- ソフトウェアのアップデート、使用上のヒントなど、最新の製品テクニカル情報を次の当社Webサイトでご覧いただくことができます。

  http://www.nikon-image.com/jpn/support/index.htm

- 製品をより有効にご利用いただくため定期的にアクセスされることをおすすめします。

ニコンカスタマーサポートセンター　行

FAX:03-5977-7499

【お問い合わせ承り書】 太枠内のみご記入ください

お問い合わせ年月日：	年　月　日
お買い上げ日：	年　月　日
製品名：	シリアル番号：
フリガナ お名前：	
連絡先ご住所：□自宅　□会社 〒 TEL: FAX:	
ご使用のパソコンの機種名： メモリ容量： OSのバージョン： その他接続している周辺機器名： ご使用のアプリケーションソフト名： ご使用の当社ソフトウェアのバージョン名：	 ハードディスクの空き容量： ご使用のインターフェースカード名：
問題が発生した時の症状、表示されたメッセージ、症状の発生頻度： （おわかりになる範囲で結構ですので、できるだけ詳しくお書きください）	

※このページはコピーしてお使いください。

整理番号：

技術的なお問い合わせのご案内

内容および操作に関する技術的なお問い合わせは、下記ニコンカスタマーサポートセンターをご利用ください。

<ニコンカスタマーサポートセンター>

全国共通電話番号 **0570-02-8000** にお電話を頂き、音声によるご案内に従いご利用窓口の番号を入力して頂ければ、お問い合わせ窓口担当者よりご質問にお答えさせて頂きます。

☎ **0570-02-8000**
市内通話料金でご利用いただけます

営業時間:9:30〜18:00（年末年始、夏期休業等を除く毎日）
携帯電話、PHS、IP電話等をご使用の場合は、（03）5977-7033 におかけください。
FAXでのご相談は、（03）5977-7499 におかけください。

Printed in Japan
SB8A02(10)
6MS54410-02

株式会社 ニコン